

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録

2010-2011 年 5 年生存率集計 報告書

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん登録センター 院内がん登録分析室

令和元(2019)年 12 月
国立がん研究センター がん対策情報センター

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2010-2011 年 5 年生存率集計

国立がん研究センターでは、これまでがん対策情報センター・がん登録センターを中心に、全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めてまいりました。また、がん診療の実態を把握する基礎資料を提供することを目的として、2007 年診断例より毎年がん診療連携拠点病院等で実施されている院内がん情報の提供を受け、UICC TNM 分類に基づく病期分布や治療方法の分布等の集計を行ってきました。2016 年 1 月 1 日がん登録等の推進に関する法律(平成二十五年法律第百十一号)が施行され、同法律第四十四条第一項の院内がん登録の推進に関する規定には、「専門的ながん医療の提供を行う病院、その他の地域におけるがん医療の確保について重要な役割を担う病院の開設者及び管理者は、厚生労働大臣が定める指針に則して、院内がん登録を実施するよう努めるものとする」と明記されました。院内がん登録の実施に係る指針(平成二十七年十二月十五日厚生労働省告示第四百七十号)においては、国立がん研究センターは院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報に基づいたがん統計等の算出等を行うことにより、専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握に資することや、これらの情報を適切に公表することにより、がん患者及びその家族等の医療機関の選択等に資することが期待されています。

院内がん登録 2010-2011 年 5 年生存率報告書は、院内がん登録情報を用いた 5 年生存率報告書として、5 回目の報告となります。本集計ではがん診療連携拠点病院等 362 施設、都道府県推薦病院 44 施設から 2011 年診断例の 5 年予後情報付データを収集し、一定の基準を満たす 318 施設の 2011 年、2010 年診断例約 65 万件データを用いて集計を行いました。がん診療連携拠点病院等の全体集計では、これまでの 5 年生存率報告書と同様に、病期、観血的治療の実施の有無別に生存率を推定するだけでなく、特別集計として胃、大腸、肝臓、肺、女性乳癌について、年齢・病期別に生存率の推定を行いました。本集計結果が、我が国のがん診療の実態を把握する資料として活用されることを期待します。

令和元年 12 月

国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長

中釜 齊

生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後5年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん(部位)によっては10年生存率が治癒の目安とされることもある。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査(いわゆる予後調査)が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られている。また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る。このように生存率の結果の解釈にはいくつかの点に留意する必要がある。

1) 生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5年相対生存率が真の値よりも10～15%高く推定されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表してきた全国がんセンター協議会の集計方法¹⁾を踏まえて、生存状況把握割合が90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合をめざすべきであると考えられる。

2) 生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier法が頻用され、医療機関の公表する生存率はKaplan-Meier法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率についてはKaplan-Meier法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうかを判定できなければならない、そ

のために原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」は、実測生存率を対象と同じ性・年齢・診断年(歴年)の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer I法、Ederer II法、Hakulinen法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率に変わる方法として、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が目されている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきたEderer II法を用いた。

3) 既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの5年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がん(成人病)センター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した。

4) 生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全がん協の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院と一部の都道府県推薦病院に限ってのデータであることに留意する必要がある。更に、都道府県別の集計結果を記載しているが、施設数が少ない都道府県のデータについてはかなりの偏りあるいは不正確さが存在していることを想定する必要がある。このため、ここで示した生存率が、単純に当該都道府県のがん医療の優劣ではないことに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期(がんの進行状況)、④観血的治療の有無(手術されたか、されなかったか)、⑤組織型(肺がんの場合)などを参考資料として併記して示している。

1) 全がん協調査などでは、消息判明率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料

がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子
2001年9月、大阪府立成人病センター調査部
がん専門施設における生存率計測の標準化 木下洋子他、
癌の臨床 第46巻第10号、2000年9月、篠原出版新社

目 次

がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 2010-2011 年 5 年生存率集計	2
生存率について	3
I 2010-2011 年 5 年生存率集計 調査方法	7
1. 収集の対象と方法	7
(1) 収集の対象	7
(2) 収集方法	7
(3) 収集項目と定義	7
2. 集計の対象と集計方法	8
(1) 集計の対象	8
(2) 集計の手順	8
(2) 集計項目の定義	9
(3) 集計方法	10
(4) 公表の対象	10
II 2010-2011 年 5 年生存率集計 結果概要	13
1. 調査参加施設と登録数	13
2. 集計対象	13
3. 相対生存率集計対象者	13
4. 既存生存率集計との比較	33
III 2010-2011 年 5 年生存率集計 結果詳細(全体) : 悪性新生物<腫瘍>	36
1. 全がん	36
2. 胃(C16)	41
3. 大腸(C18-20)	43
4. 肝(C22)	45
5. 肺(C33-34)	47
6. 女性乳房(C50)	49
7. 食道(C15)	51
8. 膵臓(C25)	53
9. 子宮頸部(C53)	55
10. 子宮体部(C54)	57
11. 前立腺(C61)	59
12. 膀胱(C67)	61
13. 喉頭(C32.0, C32.1, C32.2, C10.1)	63
14. 胆嚢(C23.9)	65
15. 腎(C64.9)	67
16. 腎盂尿管(C65.9, C66.9)	69
17. 特別集計: 年齢・総合病期別の生存率と精度管理指標(自施設の治療実施の有無)	71
1) 年齢・総合病期別の生存率(胃、大腸、肝、肺非小細胞、女性乳房)	71
2) 精度管理指標(自施設の治療実施の有無)	81
付表(2010-2011 年 5 年生存率集計)	83
集計対象施設	
2010-2011 年 5 年生存率集計 結果詳細(都道府県別)	
2010-2011 年 5 年生存率集計 結果詳細(施設別)	

I 2010-2011 年 5 年生存率集計 調査方法

1. 収集の対象と方法

(1) 収集の対象

本集計では、平成 30 年 4 月 1 日時点のがん診療連携拠点病院 433 施設、2011 年または 2013 年診断例について院内がん登録全国集計にデータ提出をした都道府県推薦病院 256 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2011 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる全国の病院に、「予後情報付集計」の名称で、2011 年 5 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、平成 23 (2011) 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者*である。これら対象例の 5 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」という。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。また、2010 年診断例のデータについては、平成 29 年の院内がん登録 2010 年予後情報付集計の際に提出されたデータを用いた。

* 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象とするかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数の病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

(2) 収集方法

平成 30 年 6 月 4 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計 手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用いインターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、平成 30 年 6 月 11 日から 7 月 4 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」と略す。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、

関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、ネットワーク型ではデータの收受の段階で品質管理を実施し、論理矛盾がない状態でデータの提供への協力を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としなかった。

(3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 5 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

* 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日があれば死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

$$\text{追跡期間(日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2011 年全国集計報告書を参照いただきたい。

i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設に受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

ii. 症例区分

症例区分は生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

iii. 臨床病期

治療前ステージ

UICC (International Union Against Cancer) の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取り扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままで登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2010-2011 年登録対象は UICC TNM 第 6 版準拠で登録されている。

iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これらには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法（鎮痛剤、制吐剤）などは含まない。また、通常の静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法（TACE）に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

⑤ 外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果を記載する。つまり、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

2. 集計の対象と集計方法

(1) 集計の対象

生存率集計における集計対象は、2010 及び 2011 年に診断された例で次の i から iii を満たす例を集計対象とした。

i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

ii. 悪性新生物<腫瘍>（一部良性の脳腫瘍）

本集計では、原則として新生物<腫瘍>の性状コード 3 の「悪性、原発部位（悪性新生物<腫瘍>）」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。

iii. 年齢

診断時の年齢が 0 から 99 歳までの例を集計対象とした。

(2) 集計の手順

① 集計対象例の選定

提出されたデータから上記の i から iii に該当する例を抽出した。

i 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表 1-1 集計用診断日の決定のルール、及び表 1-2 集計用症例区分の決定のルールに基づいて、「項目:集計用診断日」、「項目:集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が 2, 3 であった例を集計対象とした。

ii 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目:330 組織診断名コード」の新生物<腫瘍>の性状を表す第 5 桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD-O-3 の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0:良性」又は「1:良性又は悪性の別不詳」であった場合も集計対象に含めた。

iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月 >= 生年月日の月

⇒診断年月の年-生年

診断年月の月 < 生年月日の月

⇒診断年月の年-生年-1

上記で求めた年齢が 0~99 歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の㉗~㉙に該当する場合は集計対象から除外した。

㉗ 性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目:性別が 9)であった者を除外した。

㉘ 追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目 660:予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

㉙ UICC TNM 分類総合ステージが 0 期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要な要因である。院内がん登録では、UICC TNM 分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類(治療前ステージ)と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例(外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:治癒/非治癒の別不詳)については腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例(術後病理学的ステージ適応外例)及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM 分

類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとして UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外は UICC TNM 分類治療前ステージを UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが 0 期であった場合は、集計対象から除外した。

㉚ 追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。院内がん登録では、日付情報は、年月までしかデータ収集していないため、日付を含めた追跡期間の確認は、品質管理において実施している。

㉛ 集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。5 年生存率を計算する場合には、対象者全員の 5 年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がんセンター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。その中で、がんの生存率は生存状況把握割合を 100%に近づけるほど、真の値に近づくとされ、概ね 95%以上の生存状況把握割合を維持する必要があるとされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がんセンター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が 90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例(2011 年の全がん)の生存状況把握割合が 90%以上の施設を集計対象とした。また、別途 2010 年診断例においても対象例(全がん)の施設の生存状況把握割合が 90%以上の施設を選定した。その上で、2011 年調査対象施設において 2011 年診断例の生存状況把握割合が 90%以上の施設で、かつ 2010 年診断例の集計対象例においても生存状況把握割合が 90%以上であった場合は、それらデータを合算して生存率集計に用いた。

生存状況把握割合 = (1 - 打ち切り例数 / 集計対象例数) × 100

(2) 集計項目の定義

● 部位区分

表 1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

● 臨床病期

UICC TNM 分類総合ステージ

2010 年、2011 年診断例では、UICC TNM 分類第 6 版に準拠して UICC TNM 分類の治療前及び術後病理学的ステージが登録されており、第 6 版では、癌(Carcinoma)のみが分類の対象である(肝臓については肝細胞癌、肝内胆管癌に適用)。

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応

外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は治療前ステージを用いて、UICC TNM 分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で登録されたステージの値を用いて集計しており、登録されている TNM 情報からみてステージが UICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修正は加えていない。

UICC TNM 分類総合ステージの対象例は、以下の組織形態コードとする。

8051-8084, 8090-8110, 8120-8131, 8140-8149,
8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551,
8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157,
8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255,
8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015,
8020-8022, 8050, 8000-8005

但し、前立腺は 8120-8131 を除く

UICC TNM 分類総合ステージ分布では、上記組織形態コードのみを集計する。

● 観血的治療

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

(3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、5年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が5年未満でかつ予後調査結果が死亡であった場合は、5年後の生存状況=死亡(1)とした。

生存率は、Kaplan-Meier 法を用いた実測生存率と、国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録

センターにおいて作成されたコホート生存率表(2016年版)を用い、Ederer II 法を用いた相対生存率を推定した。なお、本報告書では StataMP 14.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発した strsr を用いて相対生存率を推定している。

なお、本報告書では施設別相対生存率は、他死因を調整しきれないため施設別実測生存率のみ算出する。

(4) 公表の対象

令和元年度第1回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が30例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が30例未満の場合は、5年生存率を公表しないこととする。施設別生存率の公表においては、各施設においてデータ精度を含め、公表の可否について検討していただいたのち、公表可の場合は生存率を施設からの意見とともに公表する。公表を差し控える場合においても、施設からの意見がある場合には意見とともに公表する。都道府県別集計値については、各都道府県の協議会等で検討していただいた後、都道府県の意見を合わせて公表する。なお、各集計表において、集計値が10未満の場合、個人が特定される可能性が高いことを踏まえ、厚生労働省の指示により、平成29年第9回がん診療提供体制のあり方に関する検討会(資料)の指標2「少数例のがんの情報提供について」に基づき(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000168810.html>)、1-3件の場合は「(1-3)」、4-6件の場合は「(4-6)」、7-9件の場合は「(7-9)」と表示している。

参考資料

1) 全国がんセンター協議会. 全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案) 2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1:診断のみ	診断日2	
2:自施設診断自施設治療	診断日2	
3:他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	*
5:剖検	診断日2	死亡日
8:その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	*

* 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2010 又は 2011 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1:初発	1:自施設診断	1:自施設で治療	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	3:自施設で経過観察	2:自施設診断自施設治療
1:初発	1:自施設診断	4:他施設へ紹介	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	8:来院中断	1:診断のみ
1:初発	1:自施設診断	9:その他	1:診断のみ
1:初発	2:他施設診断	1:自施設で治療	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	3:他施設診断自施設治療
1:初発	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
1:初発	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
1:初発	2:他施設診断	9:その他	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	1:自施設で治療	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	3:自施設で経過観察	4:初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2:治療開始後	2:他施設診断	4:他施設へ紹介	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	8:来院中断	8:その他
2:治療開始後	2:他施設診断	9:その他	8:その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚(黒色腫を含む)		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

Ⅱ 2010-2011年5年生存率集計 結果概要

1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した699施設(がん診療連携拠点病院等433施設、都道府県推薦病院256施設)のうち、407施設(がん診療連携拠点病院等362施設、都道府県推薦病院45施設)から2011年5年予後情報付腫瘍データが提供された。但し都道府県推薦病院のうち1施設は通年のデータ登録となっていなかったため本調査から辞退されたいとのことで除外した。がん診療連携拠点病院等362施設、都道府県推薦病院44施設のデータを集計対象予備データとして用いた(協力率58.1%、がん診療連携拠点病院等81.7%、都道府県推薦病院17.2%)。また、平成29年に調査した2010年5年予後情報付腫瘍データを提出した施設については、2010年5年予後情報付腫瘍データも合わせて集計した。表2-1-1、2-1-2に2011年診断例の全登録数と集計対象を示す。

2. 集計対象

(1) 集計の対象

① 集計対象例の選定

i 自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療

提出された2011年データで、「自施設診断・自施設初回治療(症例区分2)」が、がん診療連携拠点病院等330,854例(60.9%)、都道府県推薦病院22,811例(68.6%)、「他施設診断・自施設初回治療(症例区分3)」が、がん診療連携拠点病院等110,280例(20.3%)、都道府県推薦病院5,029例(15.1%)であり、がん診療連携拠点病院等では全登録数の81.2%を、都道府県推薦病院では83.7%を占めた。表2-2-1、2-2-2に症例区分別登録数を示す。

ii 悪性新生物<腫瘍>

2011年診断例において、症例区分2、3(自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療)のうち悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)は、がん診療連携拠点病院等389,695例(88.3%)、都道府県推薦病院24,849例(98.7%)であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、がん診療連携拠点病院等397,331例(90.1%)、都道府県推薦病院25,164例(100.0%)であった。

iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100歳以上があり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、がん診療連携拠点

病院等および都道府県推薦病院双方において70歳代が最も多かった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不明、UICC TNM分類総合ステージ0期等の理由から、がん診療連携拠点病院等266例、都道府県推薦病院26例を集計対象から除外した。

② 追跡期間(日数)の確認

本データ収集では、データ収集時の品質管理において追跡期間の確認を行った。なお、追跡終了日(死亡例の場合は、死亡日の年月、生存例の場合は、生存最終確認日の年月)が不明の場合は集計対象からは除外される。但し、死亡例で死亡日の年月が不明であっても、生存最終確認日の年月が判明している場合は、生存最終確認日を追跡終了日として、打ち切り例として集計した。

(2) 生存状況把握割合

各施設における症例区分2又は3、及び悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)の全登録数に対する生存状況把握割合について検討した結果、2011年単年で最も低かった施設の生存状況把握割合は、26.9%で、最も高かった施設は100.0%であった。提出された2011年データ全体でみると生存状況把握割合は97.6%であった。がん診療連携拠点病院等の都道府県・施設別生存状況把握割合について図2-1に示した。以降の集計結果では、2011年診断例で生存状況把握割合が90%以上であった318施設(がん診療連携拠点病院等297施設、都道府県推薦病院21施設)における登録例を集計対象とし、かつこれら施設で2010年診断例についても全がんの集計対象の生存状況把握割合が90%以上であった場合は、2010-2011年生存率集計として集計に含めた。集計対象施設を表2-3-1、2-3-2に示す。

3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が90%以上であった318施設において症例区分2、3かつ新生物<腫瘍>の性状コードが3(悪性新生物<腫瘍>)または脳の腫瘍性疾患の良性、良性又は悪性の別不詳、0~99歳であった集計対象例は、650,019例であった。

表 2-1-1 2011 年診断例の全登録数と集計対象:がん診療連携拠点病院等(調査時)

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	65 施設	(%)	297 施設	(%)	362 施設	(%)
全登録数	72,556	100.0	470,879	100.0	543,435	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	4,290	5.9	23,792	5.1	28,082	5.2
2. 自施設診断・自施設初回治療	46,791	64.5	284,063	60.3	330,854	60.9
3. 他施設診断・自施設初回治療	12,935	17.8	97,345	20.7	110,280	20.3
4. 初回治療開始後・再発	7,134	9.8	47,923	10.2	55,057	10.1
5. 剖検	30	0.1 未満	220	0.1 未満	250	0.1 未満
6. 不明・その他	1,376	1.9	17,536	3.7	18,912	3.5
症例区分(2, 3)(再掲)	59,726	82.3	381,408	81.0	441,134	81.2
症例区分 2, 3のうち						
良性	759	1.3	5,711	1.5	6,470	1.5
良性又は悪性の別不詳	165	0.3	1,056	0.3	1,221	0.3
上皮内癌	5,927	9.9	37,821	9.9	43,748	9.9
悪性新生物<腫瘍>	52,875	88.5	336,820	88.3	389,695	88.3
集計対象腫瘍*	53,795	90.1	343,536	90.1	397,331	90.1
症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち						
年齢 0~14 歳	186	0.3	1,209	0.4	1,395	0.4
15~39 歳	1,583	2.9	11,751	3.4	13,334	3.4
40 歳代	2,973	5.5	21,045	6.1	24,018	6.0
50 歳代	6,471	12.0	43,490	12.7	49,961	12.6
60 歳代	15,019	27.9	99,536	29.0	114,555	28.8
70 歳代	17,640	32.8	108,361	31.5	126,001	31.7
80-99 歳	9,912	18.4	58,059	16.9	67,971	17.1
100 歳以上	11	0.1 未満	85	0.1 未満	96	0.1 未満
0~99 歳 (再掲)	53,784	100.0	343,451	100.0	397,235	100.0
除外対象	21	0.1 未満	245	0.1	266	0.1
集計対象例のうち 2011 年症例	53,763		343,206		396,969	

*症例区分 2, 3のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-1-2 2011 年診断例の全登録数と集計対象:都道府県推薦病院

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	23 施設	(%)	21 施設	(%)	44 施設	(%)
全登録数	18,556	100.0	14,699	100.0	33,255	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	1,501	8.1	837	5.7	2,338	7.0
2. 自施設診断・自施設初回治療	13,387	72.1	9,424	64.1	22,811	68.6
3. 他施設診断・自施設初回治療	2,267	12.2	2,762	18.8	5,029	15.1
4. 初回治療開始後・再発	1,108	6.0	1,564	10.6	2,672	8.0
5. 剖検	(7-9)		(7-9)		16	0.0
6. 不明・その他	286	1.5	103	0.7	389	1.2
症例区分(2, 3)(再掲)	14,064	75.8	11,100	75.5	25,164	75.7
症例区分 2, 3のうち						
良性	182	1.3	89	0.8	271	1.1
良性又は悪性の別不詳	40	0.3	25	0.2	65	0.3
上皮内癌	1,574	11.2	1,081	9.7	2,655	10.6
悪性新生物<腫瘍>	13,858	98.5	10,991	99.0	24,849	98.7
集計対象腫瘍*	14,064	100.0	11,100	100.0	25,164	100.0
症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち						
年齢 0~14 歳	16	0.1	16	0.1	32	0.1
15~39 歳	376	2.7	275	2.5	651	2.6
40 歳代	738	5.2	548	4.9	1,286	5.1
50 歳代	1,614	11.5	1,316	11.9	2,930	11.6
60 歳代	4,006	28.5	2,987	26.9	6,993	27.8
70 歳代	4,516	32.1	3,794	34.2	8,310	33.0
80-99 歳	2,789	19.8	2,159	19.5	4,948	19.7
100 歳以上	(7-9)		(4-6)		14	0.1
0~99 歳 (再掲)	14,055	99.9	11,095	100.0	25,150	99.9
除外対象	(4-6)		20	0.2	26	0.1
集計対象例のうち 2011 年症例	14,049		11,075		25,124	

*症例区分 2, 3 のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-2-1 調査参加施設の全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数 (2011 年診断例) : がん診療連携拠点病院等

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療 (症 例区分 2)	他施設診 断自施設 治療 (症 例区分 3)	自施設治 療 (症例 区分 2, 3) 登録 割合
	総数	543,435	330,854	110,280	81.2
北海道	北海道がんセンター	2,255	1,000	607	71.3
	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	1,420	919	225	80.6
	王子総合病院	939	732	87	87.2
	市立釧路総合病院	1,004	704	133	83.4
	市立札幌病院	1,156	832	195	88.8
	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	1,481	1,141	178	89.1
	北見赤十字病院	1,353	817	254	79.2
	日鋼記念病院	584	319	37	61.0
	函館厚生院 函館五稜郭病院	1,444	1,145	161	90.4
	札幌医科大学附属病院	2,150	1,090	511	74.5
	JA 北海道厚生連札幌厚生病院	1,359	973	235	88.9
	手稲溪仁会病院	1,931	1,252	300	80.4
	旭川医科大学病院	1,724	920	457	79.9
	独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院	693	557	107	95.8
	KKR 札幌医療センター	1,028	744	81	80.3
青森	青森県立中央病院	1,811	1,030	395	78.7
	八戸市立市民病院	1,315	918	234	87.6
	三沢市立三沢病院	447	272	59	74.0
	十和田市立中央病院	689	459	65	76.1
岩手	岩手県立中央病院	1,774	1,365	275	92.4
	岩手県立二戸病院	371	218	59	74.7
	岩手医科大学附属病院	2,569	1,222	881	81.9
	岩手県立中部病院	1,137	709	223	82.0
	岩手県立磐井病院	682	381	168	80.5
	岩手県立宮古病院	471	295	71	77.7
	岩手県立胆沢病院	741	576	99	91.1
	岩手県立大船渡病院	524	338	32	70.6
	岩手県立久慈病院	415	311	35	83.4
	岩手県立釜石病院	277	119	30	53.8
宮城	東北大学病院	3,126	1,291	771	66.0
	宮城県立がんセンター	1,815	988	402	76.6
	石巻赤十字病院	1,481	773	136	61.4
	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	1,418	1,018	252	89.6
	大崎市市民病院	1,419	1,133	173	92.0
	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院	814	546	147	85.1
秋田	秋田大学医学部附属病院	1,702	788	573	80.0
	秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院	637	466	84	86.3
	大曲厚生医療センター	681	508	101	89.4
	秋田県厚生農業協同組合連合会平鹿総合病院	812	664	100	94.1
	秋田県厚生農業協同組合連合会能代厚生医療センター	585	435	77	87.5
	秋田赤十字病院	1,174	904	189	93.1
	大館市立総合病院	606	433	119	91.1
	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田厚生医療センター	982	694	157	86.7
山形	山形県立中央病院	1,765	1,168	399	88.8
	山形大学医学部附属病院	1,720	867	442	76.1
	山形市立病院済生館	988	710	107	82.7
	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院	881	555	169	82.2
	日本海総合病院	1,692	1,267	319	93.7
福島	労働者健康安全機構 福島労災病院	911	572	183	82.9
	一般財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院	636	371	126	78.1
	福島県立医科大学附属病院	1,952	851	453	66.8
	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	1,549	1,028	269	83.7
	竹田総合病院	1,321	804	279	82.0
	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院	1,876	1,068	370	76.7
	会津中央病院	671	504	81	87.2
茨城	茨城県立中央病院	1,579	1,046	278	83.9

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター	931	698	96	85.3
	茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター	1,702	1,260	227	87.4
	株式会社日立製作所 日立総合病院・茨城県地域がんセンター	1,324	1,052	166	92.0
	友愛記念病院	842	490	80	67.7
	茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療センター病院	430	276	32	71.6
	国立大学法人 筑波大学附属病院	2,285	1,214	487	74.4
	国立病院機構水戸医療センター	918	614	205	89.2
	株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院	600	456	58	85.7
	医療法人社団善仁会小山記念病院	378	178	12	50.3
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	2,079	1,055	586	78.9
	自治医科大学附属病院	3,267	1,979	776	84.3
	栃木県済生会宇都宮病院	1,702	1,304	193	88.0
	獨協医科大学病院	2,542	1,685	513	86.5
	那須赤十字病院	674	513	46	82.9
群馬	伊勢崎市民病院	1,375	947	203	83.6
	群馬県立がんセンター	2,157	1,023	742	81.8
	国立病院機構沼田病院	259	184	36	84.9
	独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター	558	332	109	79.0
	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター	1,146	819	156	85.1
	公立富岡総合病院	896	605	118	80.7
	桐生厚生総合病院	789	661	63	91.8
	前橋赤十字病院	1,259	926	195	89.0
埼玉	さいたま赤十字病院	1,298	968	179	88.4
	埼玉県立がんセンター	3,681	1,722	1,117	77.1
	深谷赤十字病院	565	450	99	97.2
	春日部市立医療センター	812	484	100	71.9
	埼玉医科大学総合医療センター	2,408	1,509	326	76.2
	獨協医科大学埼玉医療センター	1,944	1,169	356	78.4
	川口市立医療センター	1,173	762	155	78.2
	埼玉医科大学国際医療センター	3,980	1,946	1,384	83.7
	社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会川口総合病院	1,141	762	127	77.9
	医療法人社団東光会 戸田中央総合病院	517	453	13	90.1
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	4,925	1,979	1,504	70.7
	国保旭中央病院	2,398	1,910	177	87.0
	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	2,697	1,735	485	82.3
	国保直営総合病院 君津中央病院	1,354	973	145	82.6
	千葉県がんセンター	4,309	1,917	1,160	71.4
	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	941	726	146	92.7
	船橋市立医療センター	1,391	858	285	82.2
	千葉大学医学部附属病院	2,912	1,482	805	78.5
	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	896	599	105	78.6
	東京歯科大学市川総合病院	1,348	901	152	78.1
	順天堂大学医学部附属浦安病院	1,507	1,084	173	83.4
	東京慈恵会医科大学附属柏病院	1,486	1,125	206	89.6
	松戸市立総合医療センター	1,273	687	95	61.4
	日本医科大学千葉北総病院	1,007	757	109	86.0
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	6,535	2,329	2,031	66.7
	東京都立駒込病院	3,963	2,001	800	70.7
	青梅市立総合病院	1,046	799	95	85.5
	NTT 東日本関東病院	2,091	1,295	454	83.6
	日本赤十字社医療センター	2,003	844	313	57.8
	日本大学医学部附属板橋病院	2,278	1,395	368	77.4
	武蔵野赤十字病院	2,002	1,318	311	81.4
	がん研有明病院	8,319	3,222	2,419	67.8
	国立大学法人 東京大学医学部附属病院	3,487	1,688	798	71.3
	日本医科大学付属病院	2,483	1,514	586	84.6
	聖路加国際病院	2,211	1,120	469	71.9
	帝京大学医学部附属病院	2,068	1,161	384	74.7

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2, 3）登録 割合
	杏林大学医学部付属病院	2,251	1,741	396	94.9
	順天堂大学医学部附属順天堂医院	3,566	1,974	940	81.7
	昭和大学病院	2,273	1,360	460	80.1
	慶應義塾大学病院	3,792	1,899	752	69.9
	東京都立多摩総合医療センター	2,538	1,462	670	84.0
	公立昭和病院	1,459	1,050	220	87.0
	虎の門病院	3,156	1,541	924	78.1
	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	1,853	1,298	311	86.8
	東京医科歯科大学医学部附属病院	2,436	1,269	689	80.4
	東京都立墨東病院	1,417	976	182	81.7
	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	919	633	143	84.4
神奈川県	神奈川県立がんセンター	2,925	1,381	825	75.4
	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	2,180	1,578	314	86.8
	横浜市立市民病院	1,756	1,175	302	84.1
	相模原協同病院	1,124	710	95	71.6
	公立大学法人	2,246	1,021	690	76.2
	聖マリアンナ医科大学病院	2,562	1,533	686	86.6
	東海大学医学部付属病院	3,482	2,052	770	81.0
	藤沢市民病院	1,310	902	223	85.9
	北里大学病院	1,955	1,247	553	92.1
	横浜労災病院	1,776	1,142	211	76.2
	昭和大学横浜市北部病院	2,142	1,247	500	81.6
	横浜市立みなと赤十字病院	1,057	660	170	78.5
	独立行政法人 労働者健康安全機構 関東労災病院	978	689	104	81.1
新潟県	新潟県立がんセンター新潟病院	2,976	1,863	943	94.3
	県立中央病院	1,365	943	323	92.7
	新潟市民病院	1,640	1,190	341	93.4
	長岡赤十字病院	1,575	1,225	231	92.4
	新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院	1,623	1,221	350	96.8
	新潟大学医歯学総合病院	2,149	1,074	667	81.0
	県立新発田病院	1,236	792	289	87.5
	労働者健康安全機構新潟労災病院	427	356	48	94.6
富山県	富山県立中央病院	2,243	1,500	441	86.5
	黒部市民病院	638	494	83	90.4
	富山労災病院	201	159	10	84.1
	富山大学附属病院	1,100	657	252	82.6
	厚生連高岡病院	1,171	898	137	88.4
	高岡市民病院	670	510	67	86.1
	市立砺波総合病院	640	490	49	84.2
石川県	国立大学法人金沢大学附属病院	2,024	1,007	471	73.0
	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	742	532	87	83.4
	石川県立中央病院	1,636	1,031	504	93.8
	金沢医科大学病院	1,117	767	163	83.3
	小松市民病院	723	499	77	79.7
福井県	福井県立病院	1,587	1,053	268	83.2
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	1,452	1,039	232	87.5
	福井赤十字病院	1,126	945	97	92.5
	福井大学医学部附属病院	1,139	709	311	89.6
	独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター	180	120	26	81.1
山梨県	山梨県立中央病院	1,816	1,178	315	82.2
	山梨大学医学部附属病院	1,664	999	349	81.0
長野県	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター	1,767	1,214	428	92.9
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	2,050	951	583	74.8
	諏訪赤十字病院	1,051	739	144	84.0
	飯田市立病院	943	644	135	82.6
	長野市民病院	1,451	986	332	90.8
	長野赤十字病院	1,535	978	275	81.6
	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院	1,355	939	177	82.4

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
岐阜	伊那中央病院	878	578	170	85.2
	岐阜市民病院	771	524	87	79.2
	岐阜大学医学部附属病院	1,965	1,049	597	83.8
	高山赤十字病院	632	468	28	78.5
	岐阜県総合医療センター	1,545	1,116	236	87.5
	岐阜県立多治見病院	1,231	837	205	84.6
	大垣市民病院	1,986	1,714	211	96.9
	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	1,150	617	196	70.7
	静岡県立静岡がんセンター	6,176	2,524	1,753	69.3
	静岡県立総合病院	2,484	1,641	581	89.5
静岡	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院	1,403	854	192	74.6
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院	1,951	1,308	389	87.0
	順天堂大学医学部附属静岡病院	1,397	969	195	83.3
	静岡市立静岡病院	1,200	978	66	87.0
	藤枝市立総合病院	1,104	860	91	86.1
	浜松医科大学医学部附属病院	1,632	885	395	78.4
	浜松医療センター	1,207	828	153	81.3
	磐田市立総合病院	1,325	891	162	79.5
	富士市立中央病院	762	433	66	65.5
	愛知	愛知県がんセンター中央病院	3,030	1,129	1,482
安城更生病院		1,895	1,379	205	83.6
海南病院		1,186	888	128	85.7
国立病院機構 名古屋医療センター		1,689	1,160	187	79.8
小牧市民病院		1,773	1,396	160	87.8
豊橋市民病院		2,068	1,461	330	86.6
名古屋大学医学部附属病院		2,537	1,371	763	84.1
一宮市立市民病院		1,319	1,113	184	98.3
公立陶生病院		1,196	943	114	88.4
愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院		1,416	1,075	156	86.9
三重	名古屋市立大学病院	1,722	1,064	408	85.5
	名古屋第一赤十字病院	2,147	1,485	324	84.3
	名古屋第二赤十字病院	2,198	1,475	295	80.5
	藤田保健衛生大学病院	2,576	1,389	861	87.3
	日本赤十字社 伊勢赤十字病院	1,551	1,091	250	86.5
	松阪中央総合病院	730	564	47	83.7
	三重大学医学部附属病院	1,789	1,044	404	80.9
	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院	1,161	911	91	86.3
	市立長浜病院	690	618	31	94.1
	滋賀県立総合病院	1,407	800	220	72.5
滋賀	大津赤十字病院	1,386	1,038	172	87.3
	公立甲賀病院	343	311	11	93.9
	彦根市立病院	615	415	54	76.3
	滋賀医科大学医学部附属病院	1,398	770	373	81.8
	京都桂病院	1,286	1,156	52	93.9
	京都市立病院	1,279	781	133	71.5
	京都第一赤十字病院	1,359	1,021	216	91.0
	京都第二赤十字病院	1,542	1,216	157	89.0
	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	1,637	1,082	301	84.5
	市立福知山市民病院	696	466	87	79.5
京都府	京都岡本記念病院	714	234	32	37.3
	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	1,903	1,308	253	82.0
	市立岸和田市民病院	1,211	872	141	83.6
	地方独立行政法人市立東大阪医療センター	1,043	805	132	89.8
	市立豊中病院	1,948	1,444	298	89.4
	大阪国際がんセンター	3,216	1,512	1,274	86.6
	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	2,887	1,632	574	76.4
	大阪赤十字病院	2,414	1,794	302	86.8
	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	855	535	162	81.5
	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院	1,664	1,134	284	85.2

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
	大阪医科大学附属病院	2,242	1,191	745	86.4
	大阪市立大学医学部附属病院	3,317	1,650	732	71.8
	国立病院機構大阪医療センター	1,518	1,058	307	89.9
	八尾市立病院	864	650	159	93.6
兵庫	兵庫県立がんセンター	3,641	1,611	1,303	80.0
	神戸大学医学部附属病院	3,350	1,456	862	69.2
	神戸市立医療センター中央市民病院	2,118	1,172	465	77.3
	独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院	1,852	1,049	339	74.9
	公立学校共済組合近畿中央病院	769	592	122	92.8
	姫路赤十字病院	1,558	1,066	302	87.8
	赤穂市民病院	549	458	32	89.3
	公立豊岡病院組合立豊岡病院	934	711	125	89.5
	兵庫県立淡路医療センター	638	456	75	83.2
	兵庫医科大学病院	2,637	1,311	631	73.6
	兵庫県立柏原病院	241	99	44	59.3
	神戸市立西神戸医療センター	1,425	968	207	82.5
奈良	奈良県立医科大学附属病院	2,460	1,375	581	79.5
	奈良県総合医療センター	894	581	198	87.1
	天理よろづ相談所病院	2,057	1,720	262	96.4
	近畿大学医学部奈良病院	1,300	807	225	79.4
	市立奈良病院	640	450	69	81.1
	南和広域企業団南奈良総合医療センター	182	114	19	73.1
和歌山	紀南病院	632	410	95	79.9
	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター	616	362	127	79.4
	日本赤十字社和歌山医療センター	1,720	1,382	223	93.3
	和歌山県立医科大学附属病院	2,420	1,091	831	79.4
	橋本市立病院	480	293	52	71.9
	公立那賀病院	624	413	74	78.0
鳥取	鳥取県立厚生病院	567	410	53	81.7
	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター	514	350	63	80.4
	鳥取県立中央病院	790	701	48	94.8
	鳥取市立病院	541	414	78	90.9
	鳥取大学医学部附属病院	1,586	1,035	336	86.4
島根	松江市立病院	770	531	92	80.9
	松江赤十字病院	1,189	995	120	93.8
	島根大学医学部附属病院	1,200	668	311	81.6
	島根県立中央病院	1,263	974	134	87.7
	国立病院機構 浜田医療センター	649	485	85	87.8
岡山	岡山済生会総合病院	1,696	1,028	318	79.4
	岡山赤十字病院	915	662	112	84.6
	岡山大学病院	2,562	1,075	842	74.8
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	3,171	2,277	472	86.7
	津山中央病院	1,324	806	136	71.1
	岡山医療センター	1,126	788	143	82.7
	川崎医科大学附属病院	1,690	1,040	386	84.4
広島	広島大学病院	2,766	1,455	747	79.6
	県立広島病院	1,565	894	244	72.7
	地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	2,967	1,839	671	84.6
	広島赤十字・原爆病院	1,386	998	191	85.8
	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター	1,624	950	253	74.1
	東広島医療センター	775	482	92	74.1
	福山市立病院	1,576	877	339	77.2
	市立三次中央病院	670	498	95	88.5
山口	山口県立総合医療センター	729	537	112	89.0
	国立病院機構 岩国医療センター	991	704	118	82.9
	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院	619	465	63	85.3
	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	1,387	1,000	188	85.7
	山口大学医学部附属病院	1,726	860	583	83.6
徳島	徳島県立中央病院	962	722	119	87.4

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2, 3）登録 割合
香川	徳島大学病院	1,861	907	585	80.2
	徳島赤十字病院	1,084	707	204	84.0
	香川県立中央病院	1,473	926	363	87.5
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	1,368	984	208	87.1
	三豊総合病院	1,005	717	114	82.7
愛媛	高松赤十字病院	1,207	791	223	84.0
	国立大学法人 香川大学医学部附属病院	1,417	721	377	77.5
	市立宇和島病院	1,230	826	183	82.0
	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	2,957	1,551	866	81.7
	住友別子病院	566	398	50	79.2
高知	愛媛大学医学部附属病院	1,742	843	467	75.2
	愛媛県立中央病院	1,803	1,399	275	92.8
	松山赤十字病院	1,550	1,167	145	84.6
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	539	261	116	69.9
	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	1,575	912	420	84.6
福岡	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	1,360	907	403	96.3
	高知県立幡多けんみん病院	504	298	73	73.6
	久留米大学病院	2,868	1,505	654	75.3
	公立八女総合病院	624	460	84	87.2
	地方独立行政法人大牟田市立病院	698	434	148	83.4
佐賀	社会保険田川病院	659	459	64	79.4
	飯塚病院	1,951	1,400	295	86.9
	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター	551	405	65	85.3
	北九州市立医療センター	2,413	1,269	629	78.7
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	2,480	1,133	657	72.2
長崎	九州大学病院	3,536	1,594	927	71.3
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	1,985	1,280	401	84.7
	福岡県済生会福岡総合病院	1,356	761	282	76.9
	福岡大学病院	1,826	1,022	455	80.9
	聖マリア病院	1,145	796	40	73.0
佐賀	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院	1,873	1,215	312	81.5
	産業医科大学病院	1,807	1,082	383	81.1
	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	1,107	674	197	78.7
	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院	2,002	867	580	72.3
	唐津赤十字病院	703	431	75	72.0
長崎	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	823	518	124	78.0
	日本赤十字社 長崎原爆病院	1,049	780	179	91.4
	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター	1,426	974	324	91.0
	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	1,535	969	328	84.5
	地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター	980	639	175	83.1
熊本	長崎大学病院	2,493	1,179	876	82.4
	長崎県島原病院	677	435	122	82.3
	熊本大学医学部附属病院	2,896	1,404	823	76.9
	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	702	459	129	83.8
	人吉医療センター	628	377	66	70.5
大分	熊本赤十字病院	1,485	995	218	81.7
	国立病院機構 熊本医療センター	1,527	929	232	76.0
	済生会熊本病院	1,731	1,008	356	78.8
	荒尾市民病院	436	280	62	78.4
	大分県立病院	1314	892	263	87.9
宮崎	大分赤十字病院	715	490	105	83.2
	大分大学医学部附属病院	1564	768	480	79.8
	独立行政法人国立病院機構 別府医療センター	739	518	112	85.3
	大分県済生会日田病院	343	181	38	63.8
	中津市立中津市民病院	529	371	106	90.2
鹿児島	宮崎県立宮崎病院	1085	845	168	93.4
	国立病院機構 都城医療センター	654	398	150	83.8
	宮崎大学医学部附属病院	1361	724	332	77.6
鹿児島	鹿児島大学病院	2119	733	781	71.4

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設診 断自施設 治療（症 例区分 3）	自施設治 療（症例 区分2、 3）登録 割合
	国立病院機構 鹿児島医療センター	781	364	206	73.0
	鹿児島県立薩南病院	173	105	36	81.5
	独立行政法人国立病院機構 南九州病院	256	169	49	85.2
	県民健康プラザ 鹿屋医療センター	386	160	124	73.6
	公益社団法人昭和会 今給黎総合病院	864	404	191	68.9
	出水郡医師会広域医療センター	378	228	42	71.4
	社会医療法人 博愛会 相良病院	785	564	123	87.5
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院	866	489	140	72.6
	北部地区医師会病院	216	139	13	70.4
	沖縄県立中部病院	1026	579	162	72.2
	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院	1193	538	307	70.8
	沖縄県立宮古病院	186	106	17	66.1
	沖縄県立八重山病院	176	102	15	66.5

表 2-2-2 調査参加施設の全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数 (2011 年診断例) : 都道府県推薦病院

都道府県	施設名称	全登録数	自施設 診断自 施設治 療 (症 例区分 2)	他施設診 断自施設 治療 (症 例区分 3)	自施設治 療 (症例 区分 2, 3) 登録 割合
	総数	33,255	22,811	5,029	83.7
北海道	斗南病院	829	402	253	79.0
	社会医療法人製鉄記念室蘭病院	561	504	29	95.0
	苫小牧市立病院	576	482	(7-9)	85.2
秋田	中通総合病院	588	394	103	84.5
	市立秋田総合病院	796	609	96	88.6
茨城	水戸赤十字病院	1173	848	200	89.3
	独立行政法人国立病院機構茨城東病院	171	140	(4-6)	85.4
群馬	群馬大学医学部附属病院	3230	1555	1135	83.3
	公立館林厚生病院	600	426	74	83.3
	群馬県済生会前橋病院	569	296	144	77.3
埼玉	埼玉石心会病院	457	307	43	76.6
	秀和総合病院	445	375	30	91.0
東京	日本医科大学多摩永山病院	739	508	108	83.4
	国家公務員共済組合連合会立川病院	1249	708	156	69.2
	社会福祉法人 三井記念病院	1491	959	204	78.0
富山	富山赤十字病院	716	576	49	87.3
石川	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院	356	263	22	80.1
	公立松任石川中央病院	521	475	18	94.6
静岡	国立病院機構 静岡医療センター	571	354	57	72.0
	市立島田市民病院	750	651	33	91.2
愛知	春日井市民病院	702	535	44	82.5
	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院	1489	1141	133	85.6
	愛知医科大学病院	1276	918	251	91.6
三重	市立四日市病院	1733	1229	258	85.8
	松阪市民病院	433	342	50	90.5
滋賀	草津総合病院	577	409	38	77.5
京都	社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院	294	230	19	84.7
大阪	地方独立行政法人 市立吹田市民病院	634	522	89	96.4
	panasonic 健康保険組合 松下記念病院	822	529	95	75.9
	ベルランド総合病院	1125	790	110	80.0
和歌山	和歌山労災病院	772	567	129	90.2
島根	松江医療センター	106	93	(4-6)	92.5
山口	独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター	333	320	0	96.1
福岡	戸畑共立病院	880	365	159	59.5
長崎	独立行政法人地域医療機能推進機構諫早総合病院	854	588	120	82.9
熊本	国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院	998	720	134	85.6
	大腸肛門病センター高野病院	225	152	43	86.7
	天草地域医療センター	266	195	41	88.7
大分	独立行政法人国立病院機構大分医療センター	525	390	79	89.3
鹿児島	鹿児島市医師会病院	611	340	244	95.6
沖縄	社会医療法人敬愛会 中頭病院	1104	877	69	85.7
	社会医療法人仁愛会 浦添総合病院	511	296	101	77.7
	沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院	141	113	(1-3)	80.9
	社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院	456	318	48	80.3

表 2-3-1 調査参加施設と集計対象施設 (2011年診断例): がん診療連携拠点病院等

都道府県	施設名	集計対象
北海道	北海道がんセンター	集計対象
	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	集計対象
	王子総合病院	集計対象
	市立釧路総合病院	
	市立札幌病院	
	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	集計対象
	北見赤十字病院	集計対象
	日鋼記念病院	集計対象
	函館厚生院 函館五稜郭病院	集計対象
	札幌医科大学附属病院	
	JA 北海道厚生連札幌厚生病院	
	手稲溪仁会病院	
	旭川医科大学病院	
	独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院	集計対象
	KKR 札幌医療センター	
	青森	青森県立中央病院
八戸市立市民病院		集計対象
三沢市立三沢病院		
十和田市立中央病院		
岩手	岩手県立中央病院	集計対象
	岩手県立二戸病院	集計対象
	岩手医科大学附属病院	集計対象
	岩手県立中部病院	集計対象
	岩手県立磐井病院	集計対象
	岩手県立宮古病院	
	岩手県立胆沢病院	
	岩手県立大船渡病院	集計対象
	岩手県立久慈病院	
	岩手県立釜石病院	
宮城	東北大学病院	集計対象
	宮城県立がんセンター	集計対象
	石巻赤十字病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	集計対象
	大崎市民病院	集計対象
	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院	集計対象
秋田	秋田大学医学部附属病院	集計対象
	秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院	集計対象
	大曲厚生医療センター	集計対象
	秋田県厚生農業協同組合連合会平鹿総合病院	集計対象
	秋田県厚生農業協同組合連合会能代厚生医療センター	
	秋田赤十字病院	集計対象
	大館市立総合病院	集計対象
	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田厚生医療センター	集計対象
山形	山形県立中央病院	集計対象
	山形大学医学部附属病院	集計対象
	山形市立病院済生館	集計対象
	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院	集計対象
	日本海総合病院	集計対象
福島	労働者健康安全機構 福島労災病院	
	一般財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院	
	福島県立医科大学附属病院	集計対象
	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	集計対象
	竹田総合病院	集計対象

都道府県	施設名	集計対象	
茨城	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院	集計対象	
	会津中央病院	集計対象	
	茨城県立中央病院	集計対象	
	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター		
	茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター	集計対象	
	株式会社日立製作所 日立総合病院・茨城県地域がんセンター		
	友愛記念病院	集計対象	
	茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療センター病院	集計対象	
	国立大学法人 筑波大学附属病院	集計対象	
	国立病院機構水戸医療センター	集計対象	
	株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院	集計対象	
	医療法人社団善仁会小山記念病院		
	栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	集計対象
自治医科大学附属病院		集計対象	
栃木県済生会宇都宮病院		集計対象	
獨協医科大学病院		集計対象	
那須赤十字病院		集計対象	
群馬	伊勢崎市民病院	集計対象	
	群馬県立がんセンター	集計対象	
	国立病院機構沼田病院	集計対象	
	独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター	集計対象	
	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター	集計対象	
	公立富岡総合病院	集計対象	
	桐生厚生総合病院	集計対象	
	前橋赤十字病院	集計対象	
	埼玉	さいたま赤十字病院	集計対象
		埼玉県立がんセンター	集計対象
深谷赤十字病院			
春日部市立医療センター		集計対象	
埼玉医科大学総合医療センター			
獨協医科大学埼玉医療センター		集計対象	
川口市立医療センター		集計対象	
埼玉医科大学国際医療センター		集計対象	
社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会川口総合病院		集計対象	
医療法人社団東光会 戸田中央総合病院		集計対象	
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	集計対象	
	国保旭中央病院	集計対象	
	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	集計対象	
	国保直営総合病院 君津中央病院	集計対象	
	千葉県がんセンター	集計対象	
	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院		
	船橋市立医療センター	集計対象	
	千葉大学医学部附属病院	集計対象	
	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	集計対象	
	東京歯科大学市川総合病院	集計対象	
	順天堂大学医学部附属浦安病院	集計対象	
	東京慈恵会医科大学附属柏病院	集計対象	
	松戸市立総合医療センター	集計対象	
東京	日本医科大学千葉北総病院	集計対象	
	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	集計対象	
	東京都立駒込病院	集計対象	
	青梅市立総合病院	集計対象	

都道府県	施設名	集計対象
	NTT 東日本関東病院	集計対象
	日本赤十字社医療センター	集計対象
	日本大学医学部附属板橋病院	集計対象
	武蔵野赤十字病院	集計対象
	がん研有明病院	集計対象
	国立大学法人 東京大学医学部附属病院	集計対象
	日本医科大学付属病院	集計対象
	聖路加国際病院	集計対象
	帝京大学医学部附属病院	集計対象
	杏林大学医学部付属病院	集計対象
	順天堂大学医学部附属順天堂医院	集計対象
	昭和大学病院	集計対象
	慶應義塾大学病院	集計対象
	東京◆キ立多摩総合医療センター	集計対象
	公立昭和病院	集計対象
	虎の門病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	
	東京医科歯科大学医学部附属病院	集計対象
	東京都立墨東病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	
神奈川	神奈川県立がんセンター	集計対象
	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	集計対象
	横浜市立市民病院	集計対象
	相模原協同病院	集計対象
	公立大学法人	
	聖マリアンナ医科大学病院	集計対象
	東海大学医学部付属病院	集計対象
	藤沢市民病院	
	北里大学病院	集計対象
	横浜労災病院	
	昭和大学横浜市北部病院	集計対象
	横浜市立みなと赤十字病院	集計対象
	独立行政法人 労働者健康安全機構 関東労災病院	集計対象
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	集計対象
	県立中央病院	集計対象
	新潟市民病院	
	長岡赤十字病院	
	新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院	集計対象
	新潟大学医歯学総合病院	集計対象
	県立新発田病院	集計対象
	労働者健康安全機構新潟労災病院	集計対象
富山	富山県立中央病院	集計対象
	黒部市民病院	集計対象
	富山労災病院	集計対象
	富山大学附属病院	集計対象
	厚生連高岡病院	集計対象
	高岡市民病院	集計対象
	市立砺波総合病院	集計対象
石川	国立大学法人金沢大学附属病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	
	石川県立中央病院	
	金沢医科大学病院	集計対象

都道府県	施設名	集計対象	
福井	小松市民病院	集計対象	
	福井県立病院	集計対象	
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	集計対象	
	福井??字病院	集計対象	
	福井大学医学部附属病院	集計対象	
山梨	独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター		
	山梨県立中央病院	集計対象	
長野	山梨大学医学部附属病院	集計対象	
	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター	集計対象	
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	集計対象	
	諏訪赤十字病院	集計対象	
	飯田市立病院		
	長野市民病院	集計対象	
	長野赤十字病院	集計対象	
	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院	集計対象	
	伊那中央病院	集計対象	
	岐阜	岐阜市民病院	
岐阜大学医学部附属病院		集計対象	
高山赤十字病院		集計対象	
岐阜県総合医療センター		集計対象	
岐阜県立多治見病院		集計対象	
大垣市民病院		集計対象	
社会医療法人厚生会 木沢記念病院		集計対象	
静岡	静岡県立静岡がんセンター	集計対象	
	静岡県立総合病院		
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院	集計対象	
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院	集計対象	
	順天堂大学医学部附属静岡病院	集計対象	
	静岡市立静岡病院	集計対象	
	藤枝市立総合病院	集計対象	
	浜松医科大学医学部附属病院	集計対象	
	浜松医療センター	集計対象	
	磐田市立総合病院	集計対象	
	富士市立中央病院		
	愛知	愛知県がんセンター中央病院	集計対象
		安城更生病院	集計対象
海南病院		集計対象	
国立病院機構 名古屋医療センター			
小牧市民病院		集計対象	
豊橋市民病院		集計対象	
名古屋大学医学部附属病院			
一宮市立市民病院		集計対象	
公立陶生病院		集計対象	
愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院		集計対象	
名古屋市立大学病院			
名古屋第一赤十字病院		集計対象	
名古屋第二赤十字病院		集計対象	
藤田保健衛生大学病院		集計対象	
三重	日本赤十字社 伊勢赤十字病院	集計対象	
	松阪中央総合病院		
	三重大学医学部附属病院		
	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院		

都道府県	施設名	集計対象	
滋賀	市立長浜病院	集計対象	
	滋賀県立総合病院	集計対象	
	大津赤十字病院	集計対象	
	公立甲賀病院	集計対象	
	彦根市立病院	集計対象	
	滋賀医科大学医学部附属病院	集計対象	
京都	京都桂病院		
	京都市立病院	集計対象	
	京都第一赤十字病院	集計対象	
	京都第二赤十字病院	集計対象	
	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	集計対象	
	市立福知山市民病院	集計対象	
	京都岡本記念病院		
大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	集計対象	
	市立岸和田市民病院	集計対象	
	地方独立行政法人市立東大阪医療センター	集計対象	
	市立豊中病院	集計対象	
	大阪国際がんセンター	集計対象	
	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	集計対象	
	大阪赤十字病院	集計対象	
	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	集計対象	
	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院	集計対象	
	大阪医科大学附属病院	集計対象	
	大阪市立大学医学部附属病院	集計対象	
	国立病院機構大阪医療センター	集計対象	
	八尾市立病院	集計対象	
	兵庫	兵庫県立がんセンター	集計対象
		神戸大学医学部附属病院	集計対象
神戸市立医療センター中央市民病院		集計対象	
独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院		集計対象	
公立学校共済組合近畿中央病院		集計対象	
姫路赤十字病院		集計対象	
赤穂市民病院		集計対象	
公立豊岡病院組合立豊岡病院		集計対象	
兵庫県立淡路医療センター		集計対象	
兵庫医科大学病院		集計対象	
兵庫県立柏原病院		集計対象	
神戸市立西神戸医療センター			
奈良	奈良県立医科大学附属病院	集計対象	
	奈良県総合医療センター		
	天理よろづ相談所病院		
	近畿大学医学部奈良病院		
	市立奈良病院	集計対象	
和歌山	南和広域企業団南奈良総合医療センター		
	紀南病院	集計対象	
	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター		
	日本赤十字社和歌山医療センター	集計対象	
	和歌山県立医科大学附属病院	集計対象	
鳥取	橋本市民病院		
	公立那賀病院		
	鳥取県立厚生病院	集計対象	
	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター	集計対象	

都道府県	施設名	集計対象
島根	鳥取県立中央病院	集計対象
	鳥取市立病院	集計対象
	鳥取大学医学部附属病院	集計対象
	松江市立病院	集計対象
	松江赤十字病院	集計対象
	島根大学医学部附属病院	集計対象
	島根県立中央病院	集計対象
岡山	国立病院機構 浜田医療センター	集計対象
	岡山済生会総合病院	集計対象
	岡山赤十字病院	集計対象
	岡山大学病院	集計対象
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	集計対象
	津山中央病院	
	岡山医療センター	集計対象
広島	川崎医科大学附属病院	集計対象
	広島大学病院	集計対象
	県立広島病院	集計対象
	地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院	集計対象
	広島赤十字・原爆病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター	集計対象
	東広島医療センター	集計対象
山口	福山市民病院	集計対象
	市立三次中央病院	
	山口県立総合医療センター	集計対象
	国立病院機構 岩国医療センター	集計対象
	山口県厚生農業協同組合連合会	集計対象
	(独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	集計対象
	山口大学医学部附属病院	
徳島	徳島県立中央病院	集計対象
	徳島大学病院	集計対象
	徳島赤十字病院	
香川	香川県立中央病院	集計対象
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	集計対象
	三豊総合病院	集計対象
	高松赤十字病院	集計対象
	国立大学法人 香川大学医学部附属病院	集計対象
愛媛	市立宇和島病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	集計対象
	住友別子病院	集計対象
	愛媛大学医学部附属病院	集計対象
	愛媛県立中央病院	集計対象
	松山赤十字病院	
高知	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	集計対象
	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	集計対象
	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	集計対象
	高知県立幡多けんみん病院	集計対象
福岡	久留米大学病院	集計対象
	公立八女総合病院	集計対象
	地方独立行政法人大牟田市立病院	集計対象
	社会保険田川病院	集計対象
	飯塚病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター	集計対象

都道府県	施設名	集計対象
	北九州市立医療センター	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	集計対象
	九州大学病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	集計対象
	福岡県済生会福岡総合病院	集計対象
	福岡大学病院	集計対象
	聖マリア病院	集計対象
	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院	集計対象
	産業医科大学病院	集計対象
佐賀	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	集計対象
	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院	集計対象
	唐津赤十字病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	集計対象
長崎	日本赤十字社 長崎原爆病院	集計対象
	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	集計対象
	地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター	集計対象
	長崎大学病院	集計対象
	長崎県島原病院	集計対象
熊本	熊本大学医学部附属病院	集計対象
	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	集計対象
	人吉医療センター	集計対象
	熊本赤十字病院	集計対象
	国立病院機構 熊本医療センター	集計対象
	済生会熊本病院	集計対象
	荒尾市民病院	集計対象
大分	大分県立病院	集計対象
	大分赤十字病院	集計対象
	大分大学医学部附属病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 別府医療センター	集計対象
	大分県済生会日田病院	集計対象
	中津市立中津市民病院	集計対象
宮崎	宮崎県立宮崎病院	集計対象
	国立病院機構 都城医療センター	集計対象
	宮崎大学医学部附属病院	集計対象
鹿児島	鹿児島大学病院	集計対象
	国立病院機構 鹿児島医療センター	集計対象
	鹿児島県立薩南病院	集計対象
	独立行政法人国立病院機構 南九州病院	集計対象
	県民健康プラザ 鹿屋医療センター	集計対象
	公益社団法人昭和会 今給黎総合病院	集計対象
	出水郡医師会広域医療センター	集計対象
	社会医療法人 博愛会 相良病院	集計対象
沖縄	地方独立行政法人那覇市立病院	集計対象
	北部地区医師会病院	集計対象
	沖縄県立中部病院	集計対象
	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院	集計対象
	沖縄県立宮古病院	集計対象
	沖縄県立八重山病院	集計対象

表 2-3-2 調査参加施設と集計対象施設 (2011年診断例) : 都道府県推薦病院

都道府県	施設名	集計対象
北海道	斗南病院	
	社会医療法人製鉄記念室蘭病院	
	苫小牧市立病院	
秋田	中通総合病院	
	市立秋田総合病院	集計対象
茨城	水戸赤十字病院	
	独立行政法人国立病院機構茨城東病院	集計対象
群馬	群馬大学医学部附属病院	集計対象
	公立館林厚生病院	
	群馬県済生会前橋病院	集計対象
埼玉	埼玉石心会病院	
	秀和総合病院	
東京	日本医科大学多摩永山病院	集計対象
	国家公務員共済組合連合会立川病院	
	社会福祉法人 三井記念病院	
富山	富山赤十字病院	
	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院	集計対象
石川	公立松任石川中央病院	
	国立病院機構 静岡医療センター	
静岡	市立島田市民病院	
	春日井市民病院	集計対象
愛知	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院	
	愛知医科大学病院	
	市立四日市病院	
三重	松阪市民病院	
	草津総合病院	集計対象
滋賀	社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院	
京都	地方独立行政法人 市立吹田市民病院	集計対象
	panasonic 健康保険組合 松下記念病院	
	ベルランド総合病院	集計対象
和歌山	和歌山労災病院	
	松江医療センター	
島根	独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター	集計対象
山口	戸畑共立病院	集計対象
福岡	独立行政法人地域医療機能推進機構諫早総合病院	集計対象
長崎	国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院	集計対象
	大腸肛門病センター高野病院	集計対象
	天草地域医療センター	集計対象
熊本	独立行政法人国立病院機構大分医療センター	集計対象
大分	鹿児島市医師会病院	集計対象
鹿児島	社会医療法人敬愛会 中頭病院	
沖縄	社会医療法人仁愛会 浦添総合病院	集計対象
	沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院	集計対象
	社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院	集計対象

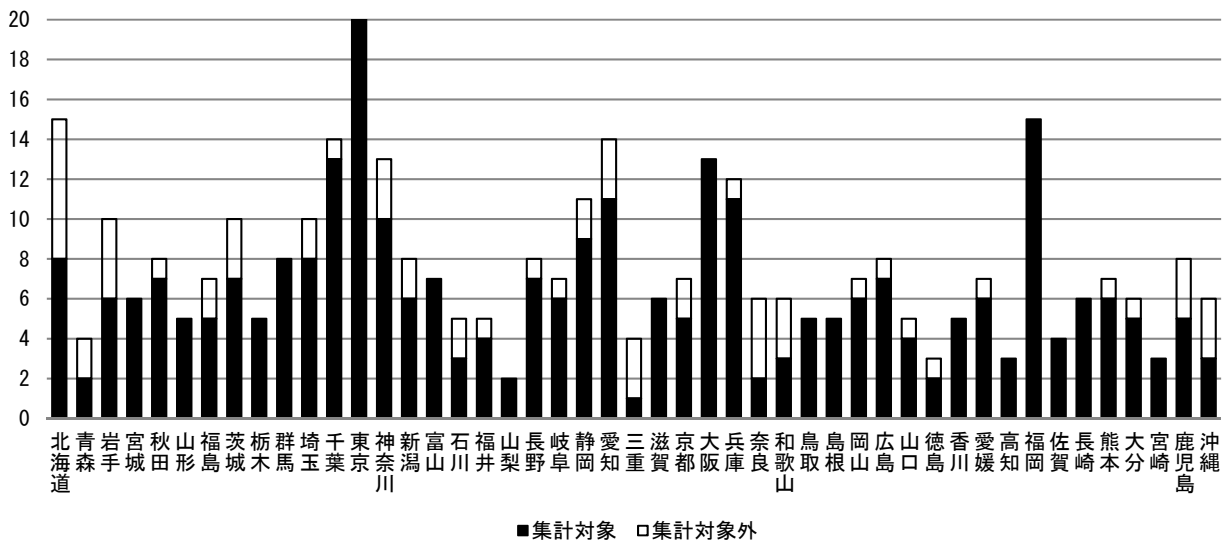


図 2-1 都道府県・施設別生存状況把握割合 2011 年診断例(がん診療連携拠点病院等データ提出 362 施設)

4. 既存生存率集計との比較

(1) 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告との比較

最新の全国がん罹患モニタリング集計では、2006-8 年の全部位、男女合計について①「罹患者中死亡情報のみで登録された患者 (DCO) の割合が 25%未満、あるいは「死亡情報で初めて把握された患者」(DCN) の割合が 30%未満、かつ②「罹患数と人口動態統計によるがん死亡数との比」(IM 比) が 1.5 以上の二つの条件を満たす地域のうち、全国生存率集計の基準として、住民票照会実施で診断から 5 年度の生存状況把握割合が 5%未満あるいは全死亡情報との照合を実施している 21 地域(宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、神奈川、福井、山梨、愛知、滋賀、大阪、広島、長崎、千葉、新潟、鳥取、島根、岡山、愛媛、熊本)の資料が集計対象となっている。更に、それら地域のうち、①死亡情報のみで登録された患者、②多重がんのあるケースでは第 2 がん以降、③良悪性の別不詳、大腸の粘膜がんを含む上皮内がん、④年齢不詳及び 100 歳以上の例、⑤がん死亡情報からの遡り調査による登録を除外した解析対象 2 の結果について表 2-5-1 に示した。院内がん登録 2010-2011 年例の集計では、対象は前述のとおり、2010 年または 2011 年に自施設又は他施設で診断され、初回治療がなされた例、かつ年齢が 0-99 歳、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患を含むものとする。生存率は、全体と進展度別に算出した。なお、両集計における集計対象の年齢構成や対象例の患者の状態の違い等については考慮されていない。

進展度が領域においては、若干院内がん登録集計対象者の相対生存率が高い傾向が認められたが、その他は大きな差は認められなかった。

(2) 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設(2008-2010 年)の相対生存率との比較

全がん協加盟施設の生存率共同調査では、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設 32 施設における 2008-2010 年に初回治療を行った症例を対象とし、臨床病期判明率 60%以上、追跡率(生存状況把握割合)が 90%以上の施設のデータを使用し、症例区分 2(自施設診断・自施設治療)、症例区分 3(他施設診断・自施設治療)例のうち、5 歳未満の小児がん及び 95 歳以上の高齢者、良性腫瘍、上皮内がん、臨床病期ステージ 0、転移性腫瘍を除く例について生存率を公表している。一方で、院内がん登録 2010-2011 年生存率集計の結果としては、前述のとおり、2010 年または 2011 年に自施設又は他施設で診断され、初回治療がなされた例、年齢が 0-99 歳となっており、集計対象が若干異なっている点に留意して結果を見ていただきたい。また、院内がん登録では、総合病期別の集計となっている点にもご留意いただきたい。

また、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設と院内がん登録 2010-2011 年集計における集計対象の年齢構成や対象例の患者の状態の違い等についても考慮されていない。

参考資料

- 1) 国立がん研究センターがん対策情報センター. 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告. 2016 年
- 2) 全がん協加盟がん専門診療施設の診断治療症例について. 5 年生存率、10 年生存率データ更新、グラフを描写する生存率解析システム KapWeb などにて公開. プレスリリース資料. 2019 年

表 2-5-1 全国がん罹患モニタリング集計 2006-2008 年生存率報告の生存率との比較:臨床進展度(進行度)別

		地域がん登録 (2006-2008)			院内がん登録 (2010-2011)		
		対象数	(%)	相対生存率	対象数	(%)	相対生存率
全がん	限局	258,046	40.0	90.4	320,136	49.3	90.3
	領域	152,806	23.7	55.1	171,862	26.4	58.6
	遠隔	104,185	16.2	13.6	113,739	17.5	17.9
	全体	644,407	100.0	62.1	650,019	100.0	66.4
胃	限局	52,030	47.9	95.9	57,870	62.2	94.9
	領域	23,571	21.7	50.0	17,736	19.1	55.8
	遠隔	17,770	16.3	5.7	15,735	16.9	6.9
	全体	108,706	100.0	64.6	93,030	100.0	71.4
大腸	限局	41,392	40.3	96.6	33,090	42.5	94.0
	領域	28,190	27.4	72.1	15,873	20.4	76.3
	遠隔	17,102	16.6	15.8	7,820	10.0	18.6
	全体	102,764	100.0	71.1	77,811	100.0	72.6
肝	限局	18,174	52.1	45.8	19,578	65.6	53.8
	領域	5,148	14.8	13.7	6,843	22.9	18.5
	遠隔	2,898	8.3	3.5	2,595	8.7	2.8
	全体	34,891	100.0	32.6	29,857	100.0	40.4
肺	限局	18,830	24.8	80.6	29,369	35.8	82.4
	領域	20,235	26.7	26.7	22,121	27.0	34.0
	遠隔	25,309	33.4	4.9	28,862	35.2	6.2
	全体	75,846	100.0	31.9	81,962	100.0	41.4
女性乳房	限局	32,614	52.7	98.9	35,303	62.2	98.8
	領域	17,310	27.9	88.4	17,611	31.0	90.0
	遠隔	2,811	4.5	33.7	3,355	5.9	38.3
	全体	61,622	100.0	91.1	56,777	100.0	92.2
子宮頸部	限局	4,373	44.4	93.4	5,388	45.8	94.8
	領域	3,332	33.8	62.6	4,989	42.4	66.6
	遠隔	732	7.4	17.8	1,170	9.9	22.0
	全体	1,382	100.0	73.4	11,759	100.0	75.0
子宮体部	限局	5,908	56.7	94.7	8,266	62.7	95.5
	領域	2,258	21.7	71.2	3,496	26.5	73.5
	遠隔	781	7.5	20.1	1,184	9.0	19.5
	全体	10,425	100.0	81.1	13,182	100.0	82.2
前立腺	限局	25,956	52.8	100.0	36,964	68.9	100.0
	領域	6,866	14.0	97.7	9,713	18.1	99.0
	遠隔	5,078	10.3	49.1	5,622	10.5	52.7
	全体	49,153	100.0	97.5	53,610	100.0	98.8

表 2-5-2 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設と院内がん登録の生存率

		全国がんセンター協議会加盟施設 (2008-2010年)		院内がん登録 (2010-11年)	
		対象数	相対生存率	対象数	相対生存率
食道	I期	1,515	87.4	6,990	82.5
	II期	1,137	57.3	4,149	50.3
	III期	1,742	30.8	5,516	25.3
	IV期	1,590	14.0	4,568	12.1
	全体	6,085	45.9	21,813	45.7
胃	I期	14,548	97.4	59,355	94.7
	II期	1,727	63.9	6,715	67.6
	III期	2,060	48.3	6,267	45.7
	IV期	3,905	6.9	18,409	8.9
	全体	22,853	74.9	93,032	71.4
大腸	I期	3,699	98.5	19,605	95.1
	II期	3,190	89.9	20,589	88.5
	III期	4,099	84.2	19,784	76.6
	IV期	2,998	22.0	15,276	18.5
	全体	14,706	76.6	77,811	72.6
肝	I期	1,813	61.6	11,876	60.8
	II期	1,174	36.0	8,481	43.9
	III期	1,144	14.6	6,236	14.3
	IV期	559	1.7	2,593	2.6
	全体	4,766	36.4	29,857	40.4
肺、気管	I期	8,165	82.0	30,921	81.6
	II期	1,443	50.2	5,317	46.7
	III期	4,542	21.3	19,320	22.6
	IV期	6,213	4.9	24,968	5.2
	全体	20,822	43.6	81,963	41.4
女性乳房	I期	7,629	100.0	24,755	99.8
	II期	7,288	96.0	21,490	95.7
	III期	1,657	80.8	7,038	80.6
	IV期	809	38.5	3,014	35.4
	全体	17,494	93.9	56,778	92.2
膵臓	I期	305	40.1	1,262	45.5
	II期	1,155	17.2	5,227	18.4
	III期	932	5.8	3,695	6.4
	IV期	2,508	1.5	10,070	1.4
	全体	5,005	9.2	20,914	9.8
子宮頸部	I期	1,802	93.0	5,316	95.0
	II期	651	79.2	1,925	79.6
	III期	829	64.2	2,763	62.0
	IV期	492	29.2	1,555	25.0
	全体	3,838	76.2	11,759	75.0
子宮体部 (子宮内膜)	I期	2,497	96.4	7,673	96.8
	II期	241	88.1	1,012	91.7
	III期	381	66.3	2,121	72.8
	IV期	237	18.8	1,030	22.3
	全体	3,592	85.7	13,183	82.2
前立腺	I期	153	100.0	891	100.0
	II期	7,145	100.0	36,242	100.0
	III期	1,388	100.0	7,960	100.0
	IV期	1,313	65.9	7,712	61.3
	全体	10,076	100.0	53,611	98.8
膀胱	I期	850	86.6	7,410	87.8
	II期	344	73.6	2,458	59.2
	III期	263	51.0	1,290	45.1
	IV期	213	25.8	1,642	19.2
	全体	1,760	71.0	13,234	68.4

Ⅲ 2010-2011 年 5 年生存率集計 結果詳細(全体) : 悪性新生物<腫瘍>

1. 全がん

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	650,019	265,294	15,542	97.6

(0) 全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がんセンター協議会加盟施設における既存生存率集計においても提示されているため、ここでは院内がん登録 2010-2011 年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

(1) 生存状況把握割合

対象者は 650,019 例で、その内 5 年以内に死亡していたのは 265,294 例、打ち切りが 15,542 例であった。全体として、生存状況把握割合は 97.6%であった。

(2) 対象者の属性

本集計対象者の属性を表 3-1-1 に示す。男性が約 58%、女性が約 42%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男性では 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっており、女性では 60 歳代、70 歳代がほぼ同程度であった。全体の平均年齢は、67.2 歳 (標準偏差 13.4) であった。60.0%の対象者に観血的治療が実施されており、原発巣・治癒切除が約 53%であった。発見経緯別にみると、その他・不明が半数以上であった。部位別にみると、男性では胃、肺、大腸、前立腺の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	378,577	100.0	271,442	100.0	650,019	100.0
がん診療連携拠点病院等	371,735	98.2	267,209	98.4	638,944	98.3
都道府県推薦病院	6,842	1.8	4,233	1.6	11,075	1.7
年齢						
平均年齢 (SD)	68.7	(SD:11.8)	65.1	(SD:15.0)	67.2	(SD:13.4)
0-15 歳	1,292	0.3	1,091	0.4	2,383	0.4
15-39 歳	7,560	2.0	14,819	5.5	22,379	3.4
40 歳代	12,460	3.3	27,257	10.0	39,717	6.1
50 歳代	42,187	11.1	42,404	15.6	84,591	13.0
60 歳代	118,511	31.3	69,210	25.5	187,721	28.9
70 歳代	135,264	35.7	69,738	25.7	205,002	31.5
80 歳以上	61,303	16.2	46,923	17.3	108,226	16.6
観血的治療						
有	204,467	54.0	185,744	68.4	390,211	60.0
原発巣・治癒切除	179,777	47.5	163,946	60.4	343,723	52.9
原発巣・非治癒切除	17,095	4.5	14,291	5.3	31,386	4.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	7,595	2.0	7,507	2.8	15,102	2.3
無	174,110	46.0	85,698	31.6	259,808	40.0
発見経緯						
がん検診	26,446	7.0	25,782	9.5	52,228	8.0
健康診断・人間ドック	34,017	9.0	16,672	6.1	50,689	7.8
他疾患経過観察中	119,223	31.5	63,779	23.5	183,002	28.2
その他・不明	198,891	52.5	165,209	60.9	364,100	56.0
部位						
口腔咽頭	14,350	3.8	5,538	2.0	19,888	3.1
食道	18,654	4.9	3,159	1.2	21,813	3.4
胃	65,707	17.4	27,325	10.1	93,032	14.3
結腸	27,065	7.1	22,398	8.3	49,463	7.6
直腸	18,318	4.8	10,030	3.7	28,348	4.4
大腸 (再掲)	45,383	12.0	32,428	11.9	77,811	12.0
肝臓	20,508	5.4	9,349	3.4	29,857	4.6
胆嚢胆管	7,540	2.0	5,956	2.2	13,496	2.1
膵臓	11,589	3.1	9,325	3.4	20,914	3.2
喉頭	5,402	1.4	396	0.1	5,798	0.9
肺	56,533	14.9	25,430	9.4	81,963	12.6
骨軟部	2,018	0.5	1,596	0.6	3,614	0.6
皮膚	7,882	2.1	7,617	2.8	15,499	2.4
乳房	339	0.1	56,778	20.9	57,117	8.8
子宮頸部	-		11,759	4.3	11,759	1.8
子宮体部	-		13,183	4.9	13,183	2.0
子宮	-		49	0.0	49	0.0
卵巣	-		8,513	3.1	8,513	1.3
前立腺	53,611	14.2	-		53,611	8.2
膀胱	10,181	2.7	3,053	1.1	13,234	2.0
腎尿路	13,015	3.4	5,609	2.1	18,624	2.9
脳神経	7,035	1.9	9,326	3.4	16,361	2.5
甲状腺	3,074	0.8	8,239	3.0	11,313	1.7
悪性リンパ腫	13,082	3.5	10,885	4.0	23,967	3.7
多発性骨髄腫	2,605	0.7	2,189	0.8	4,794	0.7
白血病	5,369	1.4	3,872	1.4	9,241	1.4
その他の血液	4,146	1.1	2,599	1.0	6,745	1.0
その他	10,554	2.8	7,269	2.7	17,823	2.7

参考 対象者の属性:がん診療連携拠点病院等

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	371,735	100.0	267,209	100.0	638,944	100.0
年齢						
平均年齢 (SD)	67.2	(SD:13.4)	68.9	(SD:12.7)	67.2	(SD:13.4)
0-15 歳	1,280	0.3	1,087	0.4	2,367	0.4
15-39 歳	7,445	2.0	14,660	5.5	22,105	3.5
40 歳代	12,269	3.3	26,900	10.1	39,169	6.1
50 歳代	41,483	11.2	41,792	15.6	83,275	13.0
60 歳代	116,542	31.4	68,193	25.5	184,735	28.9
70 歳代	132,642	35.7	68,576	25.7	201,218	31.5
80 歳以上	60,074	16.2	46,001	17.2	106,075	16.6
観血的治療						
有	200,765	54.0	182,849	68.4	383,614	60.0
原発巣・治癒切除	176,380	47.4	161,306	60.4	337,686	52.9
原発巣・非治癒切除	16,828	4.5	14,071	5.3	30,899	4.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	7,557	2.0	7,472	2.8	15,029	2.4
無	170,970	46.0	84,360	31.6	255,330	40.0
発見経緯						
がん検診	25,957	7.0	25,448	9.5	51,405	8.0
健康診断・人間ドック	33,411	9.0	16,373	6.1	49,784	7.8
他疾患経過観察中	117,255	31.5	62,777	23.5	180,032	28.2
その他・不明	195,112	52.5	162,611	60.9	357,723	56.0
部位						
口腔咽頭	14,195	3.8	5,489	2.1	19,684	3.1
食道	18,436	5.0	3,123	1.2	21,559	3.4
胃	64,659	17.4	26,903	10.1	91,562	14.3
結腸	26,457	7.1	21,903	8.2	48,360	7.6
直腸	17,892	4.8	9,840	3.7	27,732	4.3
大腸 (再掲)	44,349	11.9	31,743	11.9	76,092	11.9
肝臓	20,183	5.4	9,192	3.4	29,375	4.6
胆嚢胆管	7,384	2.0	5,823	2.2	13,207	2.1
膵臓	11,367	3.1	9,156	3.4	20,523	3.2
喉頭	5,335	1.4	390	0.1	5,725	0.9
肺	55,364	14.9	24,909	9.3	80,273	12.6
骨軟部	1,993	0.5	1,573	0.6	3,566	0.6
皮膚	7,808	2.1	7,517	2.8	15,325	2.4
乳房	327	0.1	55,938	20.9	56,265	8.8
子宮頸部	-		11,634	4.4	11,634	1.8
子宮体部	-		13,035	4.9	13,035	2.0
子宮	-		49	0.0	49	0.0
卵巣	-		8,408	3.1	8,408	1.3
前立腺	52,320	14.1	-		52,320	8.2
膀胱	9,964	2.7	2,996	1.1	12,960	2.0
腎尿路	12,812	3.4	5,512	2.1	18,324	2.9
脳神経	6,974	1.9	9,240	3.5	16,214	2.5
甲状腺	3,013	0.8	8,100	3.0	11,113	1.7
悪性リンパ腫	12,931	3.5	10,771	4.0	23,702	3.7
多発性骨髄腫	2,571	0.7	2,164	0.8	4,735	0.7
白血病	5,283	1.4	3,806	1.4	9,089	1.4
その他の血液	4,105	1.1	2,564	1.0	6,669	1.0
その他	10,362	2.8	7,174	2.7	17,536	2.7

参考 対象者の属性:都道府県推薦病院

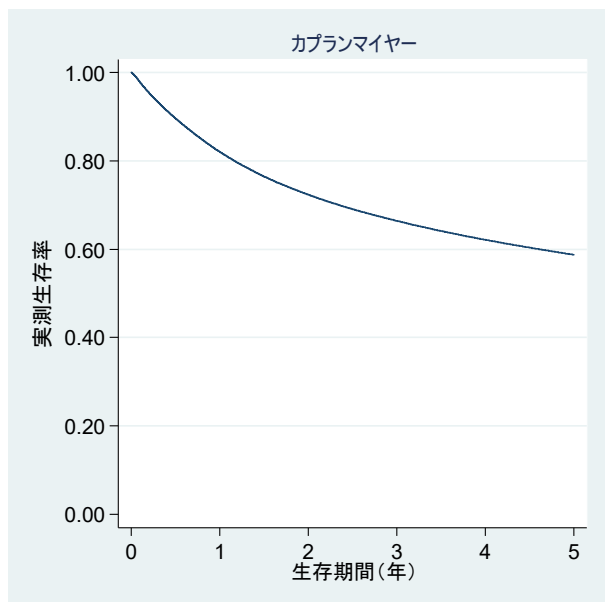
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	6,842	100.0	4,233	100.0	11,075	100.0
年齢						
平均年齢 (SD)	69.8	(SD:11.4)	67.5	(SD:14.4)	68.9	(SD:12.7)
0-15 歳	12	0.2	(4-6)		16	0.1
15-39 歳	115	1.7	159	3.8	274	2.5
40 歳代	191	2.8	357	8.4	548	4.9
50 歳代	704	10.3	612	14.5	1,316	11.9
60 歳代	1,969	28.8	1,017	24.0	2,986	27.0
70 歳代	2,622	38.3	1,162	27.5	3,784	34.2
80 歳以上	1,229	18.0	922	21.8	2,151	19.4
観血的治療						
有	3,702	54.1	2,895	68.4	6,597	59.6
原発巣・治癒切除	3,397	49.6	2,640	62.4	6,037	54.5
原発巣・非治癒切除	267	3.9	220	5.2	487	4.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	38	0.6	35	0.8	73	0.7
無	3,140	45.9	1,338	31.6	4,478	40.4
発見経緯						
がん検診	489	7.1	334	7.9	823	7.4
健康診断・人間ドック	606	8.9	299	7.1	905	8.2
他疾患経過観察中	1,968	28.8	1,002	23.7	2,970	26.8
その他・不明	3,779	55.2	2,598	61.4	6,377	57.6
部位						
口腔咽頭	155	2.3	49	1.2	204	1.8
食道	218	3.2	36	0.9	254	2.3
胃	1,048	15.3	422	10.0	1,470	13.3
結腸	608	8.9	495	11.7	1,103	10.0
直腸	426	6.2	190	4.5	616	5.6
大腸 (再掲)	1,034	15.1	685	16.2	1,719	15.5
肝臓	325	4.8	157	3.7	482	4.4
胆嚢胆管	156	2.3	133	3.1	289	2.6
膵臓	222	3.2	169	4.0	391	3.5
喉頭	67	1.0	(4-6)		73	0.7
肺	1,169	17.1	521	12.3	1,690	15.3
骨軟部	25	0.4	23	0.5	48	0.4
皮膚	74	1.1	100	2.4	174	1.6
乳房	12	0.2	840	19.8	852	7.7
子宮頸部	-		125	3.0	125	1.1
子宮体部	-		148	3.5	148	1.3
子宮	-		0	0.0	0	0.0
卵巣	-		105	2.5	105	0.9
前立腺	1,291	18.9	-		1,291	11.7
膀胱	217	3.2	57	1.3	274	2.5
腎尿路	203	3.0	97	2.3	300	2.7
脳神経	61	0.9	86	2.0	147	1.3
甲状腺	61	0.9	139	3.3	200	1.8
悪性リンパ腫	151	2.2	114	2.7	265	2.4
多発性骨髄腫	34	0.5	25	0.6	59	0.5
白血病	86	1.3	66	1.6	152	1.4
その他の血液	41	0.6	35	0.8	76	0.7
その他	192	2.8	95	2.2	287	2.6

(3)5年生存率

表 3-1-2 に、2010-2011 年例における実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなることが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別 5 年生存率

	生存率											
	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	53.8	63.1	62.9	63.2	65.7	70.8	70.6	71.0	58.8	66.4	66.2	66.5
がん診療連携拠点病院等	53.8	63.0	62.8	63.2	65.7	70.9	70.7	71.1	58.8	66.4	66.2	66.5
都道府県推薦病院	55.4	65.4	64.0	66.8	62.3	68.3	66.6	69.9	58.0	66.5	65.4	67.6
年齢												
0-15 歳	83.8	83.9	81.7	85.8	81.4	81.5	79.0	83.7	82.7	82.8	81.2	84.2
15-39 歳	78.0	78.4	77.4	79.3	85.7	85.9	85.3	86.4	83.1	83.4	82.9	83.8
40 歳代	69.1	69.9	69.1	70.7	85.1	85.7	85.2	86.1	80.1	80.8	80.4	81.2
50 歳代	63.7	65.7	65.2	66.1	77.4	78.4	78.0	78.8	70.6	72.1	71.8	72.4
60 歳代	60.0	64.5	64.2	64.8	70.7	72.8	72.4	73.1	64.0	67.6	67.3	67.8
70 歳代	52.3	62.8	62.5	63.2	59.4	64.7	64.3	65.1	54.7	63.5	63.2	63.7
80 歳以上	31.8	54.1	53.5	54.8	38.7	54.8	51.1	55.4	34.8	54.4	54.0	54.9
観血的治療												
有	69.9	80.9	80.7	81.2	80.8	86.6	86.4	86.8	75.0	83.7	83.5	83.8
原発巣・治癒切除	73.1	84.7	84.5	85.0	83.9	90.0	89.8	90.2	78.2	87.3	87.1	87.4
原発巣・非治癒切除	41.2	47.0	46.2	47.9	48.8	52.2	51.3	53.0	44.6	49.4	48.8	50.0
原発巣・治癒/非治癒	58.6	67.5	66.2	68.8	72.3	76.8	75.7	77.8	65.4	72.2	71.3	73.0
の別不詳												
無	34.9	41.7	41.5	42.0	32.7	36.0	35.7	36.4	34.2	39.8	39.6	40.0



2. 胃(C16)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	93,032	35,466	2,193	97.6

(1) 生存状況把握割合

集計対象者は、93,032 例で、5 年以内に死亡していたのは 35,466 例、打ち切りが 2,193 例で、生存状況把握割合は、全体で 97.6%であった。

代・70 歳代で全体の約 6 割以上を占めた。全体の平均年齢は 69.9 歳(標準偏差 10.8)であった。UICC TNM 分類総合ステージを見ると、I 期が 63.8%、次いでIV 期が 19.8%を占めた。約 8 割において観血的治療が実施されており、原発巣・治癒切除例が 7 割以上であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 3 割であった。

(2) 対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表 3-2-1 に示す。性別にみると、男性が 7 割以上を占めた。診断時の年齢は、70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代となっており、60 歳

表 3-2-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	65,707	100.0	27,325	100.0	93,032	100.0
がん診療連携拠点病院等	64,659	98.4	26,903	98.5	91,562	98.4
都道府県推薦病院	1,048	1.6	422	1.5	1,470	1.6
年齢						
平均年齢 (SD)	69.9	(SD:10.1)	70.1	(SD:12.4)	69.9	(SD:10.8)
15-39 歳	508	0.8	626	2.3	1,134	1.2
40 歳代	1,617	2.5	1,250	4.6	2,867	3.1
50 歳代	7,245	11.0	2,989	10.9	10,234	11.0
60 歳代	20,363	31.0	6,788	24.8	27,151	29.2
70 歳代	24,733	37.6	9,150	33.5	33,883	36.4
80 歳以上	11,241	17.1	6,522	23.9	17,763	19.1
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	42,577	64.8	16,778	61.4	59,355	63.8
II 期	4,727	7.2	1,988	7.3	6,715	7.2
III 期	4,376	6.7	1,891	6.9	6,267	6.7
IV 期	12,633	19.2	5,776	21.1	18,409	19.8
不詳	802	1.2	421	1.5	1,223	1.3
空欄	592	0.9	471	1.7	1,063	1.1
観血的治療						
有	53,178	80.9	21,755	79.6	74,933	80.5
原発巣・治癒切除	49,332	75.1	20,132	73.7	69,464	74.7
原発巣・非治癒切除	2,951	4.5	1,269	4.6	4,220	4.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	895	1.4	354	1.3	1,249	1.3
無	12,529	19.1	5,570	20.4	18,099	19.5
発見経緯						
がん検診	6,823	10.4	2,672	9.8	9,495	10.2
健康診断・人間ドック	8,484	12.9	2,610	9.6	11,094	11.9
他疾患経過観察中	20,752	31.6	7,319	26.8	28,071	30.2
その他・不明	29,648	45.1	14,724	53.9	44,372	47.7

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

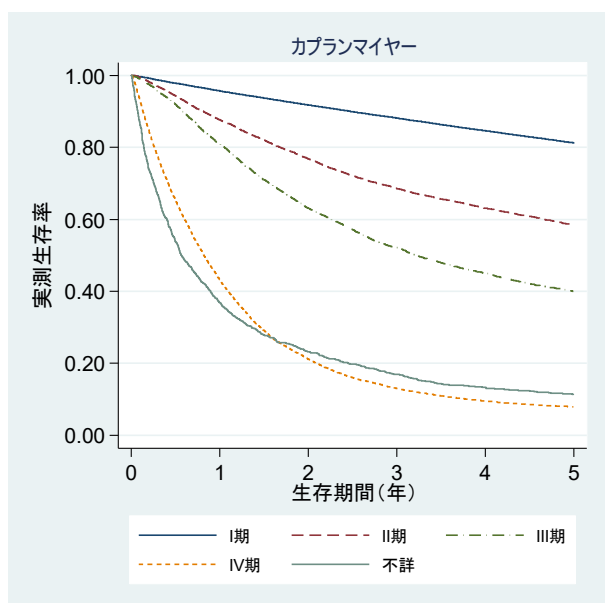
(3)5年生存率

男女別に見た5年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、70歳以上では相対生存率と実測生存率の差が広がる傾向があり、男性では70歳以上で相対生存率と実測生存率との差が10%を超えている。また、観血治療を受けた者では、相対生存率は全体で86.1%であった。

表 3-2-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	60.5	71.6	71.2	72.1	63.9	70.8	70.2	71.5	61.5	71.4	71.0	71.8
がん診療連携拠点病院等	60.6	71.7	71.2	72.1	63.9	70.9	70.2	71.5	61.5	71.4	71.0	71.8
都道府県推薦病院	57.6	69.5	65.8	73.1	62.5	69.8	64.4	74.8	59.0	69.6	66.6	72.6
年齢												
15-39歳	65.6	65.9	61.5	69.9	62.3	62.4	58.5	66.2	63.7	64.0	61.1	66.8
40歳代	71.5	72.4	70.1	74.6	72.9	73.4	70.8	75.8	72.1	72.8	71.1	74.5
50歳代	72.1	74.3	73.3	75.4	71.0	72.0	70.3	73.6	71.7	73.7	72.7	74.5
60歳代	68.3	73.4	72.7	74.0	71.4	73.5	72.4	74.6	69.1	73.4	72.8	74.0
70歳代	59.2	71.3	70.5	72.0	67.3	73.4	72.3	74.4	61.4	71.9	71.3	72.5
80歳以上	39.9	67.3	65.8	68.9	46.4	64.0	62.3	65.7	42.2	66.1	64.9	67.2
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	79.4	94.2	93.7	94.7	86.2	95.8	95.2	96.4	81.3	94.7	94.3	95.0
II期	57.1	67.1	65.5	68.8	62.1	68.8	66.3	71.1	58.6	67.6	66.3	69.0
III期	38.4	44.8	43.1	46.5	43.7	47.8	45.4	50.3	40.0	45.7	44.3	47.1
IV期	7.9	9.1	8.6	9.7	8.0	8.6	7.9	9.4	7.9	8.9	8.5	9.4
不詳	11.3	15.1	12.3	18.2	11.7	15.2	11.4	19.5	11.5	15.1	12.8	17.6
観血的治療												
有	73.0	86.0	85.6	86.5	78.2	86.2	85.6	86.8	74.5	86.1	85.7	86.5
原発巣・治癒切除	76.2	89.7	89.2	90.1	82.1	90.4	89.8	91.0	77.9	89.9	89.5	90.2
原発巣・非治癒切除	26.8	32.1	30.2	34.1	22.5	25.3	22.7	27.9	25.5	30.0	28.5	31.6
原発巣・治癒/非治癒の別	51.9	61.8	57.8	65.6	57.4	63.4	57.5	68.9	53.4	62.2	58.9	65.4
不詳												
無	6.9	8.6	8.1	9.2	7.4	8.9	8.0	9.7	7.0	8.7	8.2	9.2

*癌腫のみ対象



3. 大腸(C18-20)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	316	77,811	28,143	1,782	97.7

(1) 生存状況把握割合

集計対象 77,811 例のうち、5年以内に死亡していたのは 28,143 例、打ち切りが 1,782 例で、全体として生存状況把握割合は 97.7%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-3-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く男性が約 6 割を占めた。診断時の年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代が多くなっていた。全体の平均年齢は、69.0 歳(標準

偏差 11.7)であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I、II、III 期ともに約 25%前後にばらついていた。9 割近くの対象者が観血的治療を受けており、原発巣・治癒切除例が約 8 割であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 23%、がん検診が約 10%、健康診断・人間ドックが 8%であった。結腸、直腸別にみると、結腸が 63.6%を占め、性別にみると男性より女性では結腸の割合が多かった。

表 3-3-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	45,383	100.0	32,428	100.0	77,811	100.0
がん診療連携拠点病院等	44,349	97.7	31,743	97.9	76,092	97.8
都道府県推薦病院	1,034	2.3	685	2.1	1,719	2.2
年齢						
平均年齢 (SD)	68.5	(SD:11.1)	69.8	(SD:12.4)	69.0	(SD:11.7)
0-14 歳	(1-3)		(4-6)		(4-6)	
15-39 歳	675	1.5	566	1.7	1,241	1.6
40 歳代	1,808	4.0	1,563	4.8	3,371	4.3
50 歳代	5,857	12.9	4,168	12.9	10,025	12.9
60 歳代	14,624	32.2	8,428	26.0	23,052	29.6
70 歳代	15,211	33.5	10,011	30.9	25,222	32.4
80 歳以上	7,207	15.9	7,688	23.7	14,895	19.1
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	12,067	26.6	7,538	23.2	19,605	25.2
II 期	11,936	26.3	8,653	26.7	20,589	26.5
III 期	11,070	24.4	8,714	26.9	19,784	25.4
IV 期	8,786	19.4	6,490	20.0	15,276	19.6
不詳	556	1.2	467	1.4	1,023	1.3
空欄	968	2.1	566	1.7	1,534	2.0
観血的治療						
有	39,720	87.5	28,408	87.6	68,128	87.6
原発巣・治癒切除	35,583	78.4	25,301	78.0	60,884	78.2
原発巣・非治癒切除	3,285	7.2	2,422	7.5	5,707	7.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	852	1.9	685	2.1	1,537	2.0
無	5,663	12.5	4,020	12.4	9,683	12.4
発見経緯						
がん検診	4,460	9.8	3,254	10.0	7,714	9.9
健康診断・人間ドック	4,101	9.0	2,347	7.2	6,448	8.3
他疾患経過観察中	11,128	24.5	7,108	21.9	18,236	23.4
その他・不明	25,694	56.6	19,719	60.8	45,413	58.4
部位						
結腸	27,065	59.6	22,398	69.1	49,463	63.6
直腸	10,030	22.1	18,318	56.5	28,348	36.4

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

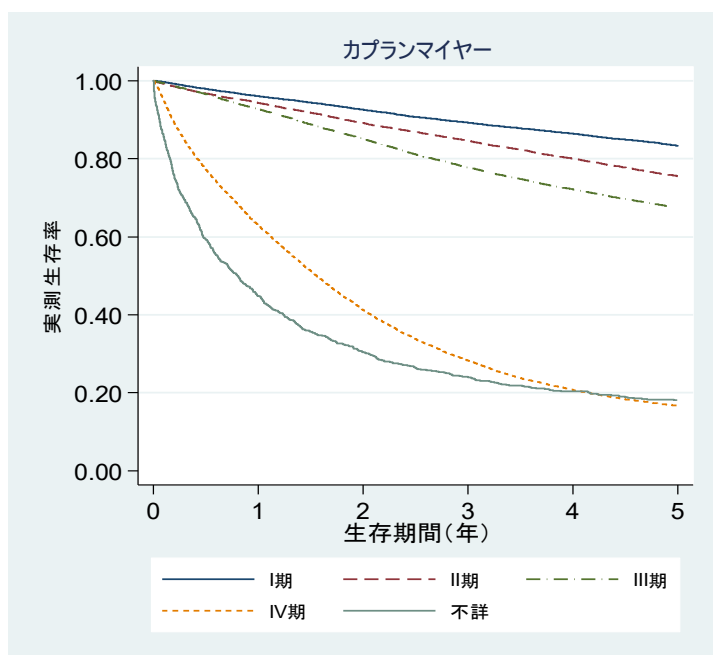
(3)5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-3-2に示す。5年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約72～73%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が多いためと考えられる。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期では約95%、II期では約89%であった。観血的治療を受けた例は、相対生存率は80%を超えており、原発巣・治癒切除例においては約86%であった。男女とも、結腸、直腸間での相対生存率の差は認められなかった。

表 3-3-2 属性別 5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	62.1	72.6	72.1	73.2	65.3	72.5	72.0	73.1	63.5	72.6	72.2	73.0
がん診療連携拠点病院等	62.1	72.6	72.0	73.1	65.4	72.6	72.0	73.2	63.5	72.6	72.2	73.0
都道府県推薦病院	65.4	76.2	72.7	79.5	61.2	70.1	65.7	74.1	63.7	73.8	71.1	76.4
年齢												
15-39歳	73.5	73.8	70.2	77.0	72.5	72.7	68.7	76.2	73.0	73.3	70.7	75.7
40歳代	73.6	74.5	72.3	76.5	76.1	76.6	74.4	78.7	74.8	75.5	74.0	76.9
50歳代	71.8	74.0	72.8	75.2	74.4	75.5	74.1	76.8	72.9	74.6	73.7	75.5
60歳代	69.1	74.1	73.3	74.9	73.9	76.1	75.1	77.0	70.8	74.9	74.2	75.5
70歳代	61.0	73.3	72.3	74.2	67.2	73.3	72.2	74.3	63.4	73.3	72.6	74.0
80歳以上	38.6	66.2	64.2	68.1	45.9	65.0	63.4	66.6	42.4	65.6	64.3	66.8
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	80.8	94.3	93.4	95.1	87.6	96.4	95.6	97.2	83.4	95.1	94.5	95.7
II期	73.4	87.9	87.0	88.9	78.6	89.3	88.3	90.3	75.6	88.5	87.8	89.2
III期	65.6	76.1	75.1	77.1	69.8	77.1	76.1	78.2	67.5	76.6	75.8	77.3
IV期	16.6	18.7	17.8	19.6	16.9	18.2	17.2	19.2	16.7	18.5	17.8	19.1
不詳	18.5	23.4	19.4	27.7	17.8	21.6	17.5	26.0	18.2	22.6	19.7	25.6
観血的治療												
有	69.5	81.1	80.6	81.6	73.3	81.2	80.6	81.7	71.1	81.1	80.8	81.5
原発巣・治癒切除	73.8	86.3	85.7	86.8	78.2	86.6	86.0	87.2	75.6	86.4	86.0	86.8
原発巣・非治癒切除	26.1	29.8	28.1	31.5	25.7	28.1	26.2	30.0	26.0	29.1	27.8	30.4
原発巣・治癒/非治癒	56.6	65.4	61.5	69.2	61.5	67.7	63.6	71.6	58.8	66.5	63.6	69.2
の別不詳	10.0	11.8	10.9	12.7	8.5	9.7	8.7	10.7	9.4	10.9	10.2	11.6
部位												
結腸	60.9	72.6	71.9	73.3	64.0	71.7	71.0	72.4	62.3	72.2	71.7	72.7
直腸	64.0	72.7	71.9	73.5	68.4	74.4	73.4	75.4	65.6	73.3	72.7	73.9

*癌腫のみ対象



4. 肝(C22)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	29,857	19,128	649	97.8

(1) 生存状況把握割合

対象者は、29,857 例で、その内 5 年以内に死亡していたのは 19,128 例、打ち切りが 649 例であった。全体として、生存状況把握割合は 97.8%であった。

く男性で約 38%、女性では約 45%を占めた。全体の平均年齢は、70.2 歳(標準偏差 10.4)であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体で I 期が約 40%、II 期が約 28%、III 期が約 21%となっていた。約 28%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 64%を占めた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-4-1 に示す。性別にみると、男性が約 69%を占めた。年代をみると、70 歳代が最も多

表 3-4-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	20,508	100.0	9,349	100.0	29,857	100.0
がん診療連携拠点病院等	20,183	98.4	9,192	98.3	29,375	98.4
都道府県推薦病院	325	1.6	157	1.7	482	1.6
年齢						
平均年齢 (SD)	69.2	(SD:10.3)	72.5	(SD:10.3)	70.2	(SD:10.4)
0-15 歳	26	0.1	28	0.3	54	0.2
15-39 歳	163	0.8	63	0.7	226	0.8
40 歳代	560	2.7	128	1.4	688	2.3
50 歳代	2,499	12.2	587	6.3	3,086	10.3
60 歳代	6,438	31.4	2,134	22.8	8,572	28.7
70 歳代	7,856	38.3	4,227	45.2	12,083	40.5
80 歳以上	2,966	14.5	2,182	23.3	5,148	17.2
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	7,674	37.4	4,202	44.9	11,876	39.8
II 期	5,850	28.5	2,631	28.1	8,481	28.4
III 期	4,680	22.8	1,556	16.6	6,236	20.9
IV 期	1,885	9.2	708	7.6	2,593	8.7
不詳	368	1.8	199	2.1	567	1.9
空欄	51	0.2	53	0.6	104	0.3
取扱い規約治療前ステージ*						
I 期	3,744	18.3	2,443	26.1	6,187	20.7
II 期	6,942	33.9	3,270	35.0	10,212	34.2
III 期	4,863	23.7	1,773	19.0	6,636	22.2
IV 期	4,228	20.6	1,470	15.7	5,698	19.1
不詳	553	2.7	286	3.1	839	2.8
空欄	176	0.9	107	1.1	283	0.9
観血的治療						
有	6,149	30.0	2,143	22.9	8,292	27.8
原発巣・治癒切除	5,499	26.8	1,930	20.6	7,429	24.9
原発巣・非治癒切除	399	1.9	138	1.5	537	1.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	251	1.2	75	0.8	326	1.1
無	14,359	70.0	7,206	77.1	21,565	72.2
発見経緯						
がん検診	136	0.7	31	0.3	167	0.6
健康診断・人間ドック	889	4.3	227	2.4	1,116	3.7
他疾患経過観察中	12,751	62.2	6,383	68.3	19,134	64.1
その他・不明	6,732	32.8	2,708	29.0	9,440	31.6

取扱い規約治療前ステージが 0 期の者を名含む

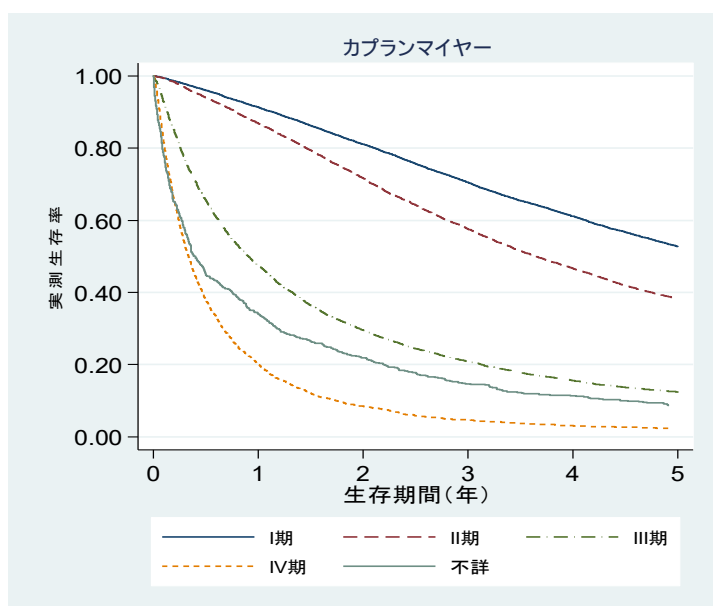
*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-4-2に示す。全体として、相対生存率は約40%で、男性が約41%、女性が約40%であった。他の部位と比較して、年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM分類別にみると、I期では相対生存率は全体で約61%であるが、II期になると男女ともに相対生存率は46%を下まわった。観血的治療を受けた例の割合は約4分の1であるが、観血的治療を受けた例の相対生存率は約66%であった。

表3-4-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	34.6	40.5	39.7	41.3	36.1	40.1	39.0	41.2	35.1	40.4	39.7	41.0
がん診療連携拠点病院等	34.6	40.5	39.8	41.3	36.2	40.2	39.1	41.3	35.1	40.4	39.8	41.1
都道府県推薦病院	31.9	37.2	31.3	43.3	32.7	36.4	28.3	44.8	32.2	37.0	32.1	41.9
年齢												
0-14歳	-	-			-	-			81.5	81.6	68.4	89.7
15-39歳	40.9	41.1	33.3	48.8	46.1	46.2	33.4	58.1	42.4	42.5	35.9	49.0
40歳代	44.4	45.0	40.7	49.1	52.3	52.7	43.5	61.0	45.9	46.4	42.6	50.2
50歳代	43.6	45.0	42.9	47.0	46.4	47.0	42.8	51.1	44.1	45.3	43.5	47.2
60歳代	39.1	42.0	40.7	43.3	44.6	46.0	43.8	48.2	40.5	43.0	41.9	44.1
70歳代	32.4	39.1	37.8	40.4	36.6	40.1	38.5	41.7	33.9	39.4	38.4	40.4
80歳以上	20.4	33.6	31.2	36.0	22.3	29.9	27.6	32.3	21.2	31.9	30.2	33.7
UICC TNM 総合ステージ												
I期	53.1	62.5	61.1	63.8	52.1	58.0	56.3	59.7	52.8	60.8	59.8	61.9
II期	39.1	45.6	44.1	47.0	36.6	40.4	38.4	42.5	38.3	43.9	42.7	45.1
III期	13.0	15.1	14.0	16.3	10.6	11.8	10.1	13.6	12.4	14.3	13.4	15.3
IV期	2.6	3.0	2.2	3.9	1.4	1.5	0.8	2.8	2.3	2.6	2.0	3.3
不詳	9.1	11.1	7.8	15.0	7.8	9.2	5.4	14.3	8.6	10.4	7.8	13.5
取扱い規約治療前ステージ												
I期	56.4	65.2	63.3	67.0	57.7	63.5	61.3	65.7	56.9	64.5	63.1	65.9
II期	47.1	55.7	54.3	57.1	42.5	47.5	45.6	49.4	45.7	53.0	51.9	54.1
III期	26.0	30.6	29.1	32.0	22.1	24.7	22.5	26.9	25.0	29.0	27.7	30.2
IV期	6.1	7.0	6.2	7.9	5.2	5.7	4.5	7.1	5.9	6.7	6.0	7.4
不詳	20.4	24.2	20.3	28.4	19.4	21.7	16.8	27.2	20.1	23.4	20.3	26.7
観血的治療												
有	58.2	66.7	65.3	68.1	57.2	61.9	59.6	64.2	57.9	65.5	64.2	66.7
原発巣・治癒切除	61.2	70.3	68.8	71.7	59.9	64.9	62.4	67.2	60.9	68.8	67.6	70.1
原発巣・非治癒切除	26.7	30.4	25.6	35.5	27.6	29.6	21.8	37.8	26.9	30.2	26.0	34.5
原発巣・治癒/非治癒	41.0	46.9	39.9	53.8	41.9	45.2	33.0	56.9	41.2	46.5	40.4	52.5
の別不詳												
無	24.4	28.9	28.1	29.8	29.8	33.5	32.3	34.7	26.2	30.5	29.8	31.2



5. 肺(C33-34)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	81,963	51,678	1,524	98.1

(1) 生存状況把握割合

対象者は、81,963 例で、その内 5 年以内に死亡していたのは 51,678 例、打ち切りが 1,524 例で、全体として生存状況把握割合は 98.1%であった。

TNM 分類総合ステージ別にみると、全体として I 期が約 38%、次いで IV 期が約 31%、III 期が約 24%であった。観血的治療実施を受けた者の割合は、胃や大腸と比較してやや低く、約 43%であった。原発巣・治癒切除例が約 40%であった。発見経緯をみると、健康診断・人間ドックが約 13%、がん検診が約 7%であった。組織形態でみると、小細胞癌が約 9%含まれていた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5-1 に示す。対象者は、男性が約 69%を占め、70 歳代が最も多かった。全体の平均年齢は、70.1 歳 (標準偏差 10.2) であった。UICC

表 3-5-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	56,533	100.0	25,430	100.0	81,963	100.0
がん診療連携拠点病院等	55,364	97.9	24,909	98.0	80,273	97.9
都道府県推薦病院	1,169	2.1	521	2.0	1,690	2.1
年齢						
平均年齢 (SD)	70.4	(SD:9.9)	69.5	(SD:10.8)	70.1	(SD:10.2)
0-14 歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
15-39 歳	319	0.6	266	1.0	585	0.7
40 歳代	1,342	2.4	880	3.5	2,222	2.7
50 歳代	5,424	9.6	2,863	11.3	8,287	10.1
60 歳代	17,821	31.5	8,036	31.6	25,857	31.5
70 歳代	21,223	37.5	8,861	34.8	30,084	36.7
80 歳以上	10,401	18.4	4,521	17.8	14,922	18.2
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	18,764	33.2	12,157	47.8	30,921	37.7
II 期	4,155	7.3	1,162	4.6	5,317	6.5
III 期	14,812	26.2	4,508	17.7	19,320	23.6
IV 期	17,809	31.5	7,159	28.2	24,968	30.5
不詳	752	1.3	268	1.1	1,020	1.2
空欄	241	0.4	176	0.7	417	0.5
観血的治療						
有	21,853	38.7	13,607	53.5	35,460	43.3
原発巣・治癒切除	20,212	35.8	12,917	50.8	33,129	40.4
原発巣・非治癒切除	984	1.7	381	1.5	1,365	1.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	657	1.2	309	1.2	966	1.2
無	34,680	61.3	11,823	46.5	46,503	56.7
発見経緯						
がん検診	3,602	6.4	2,420	9.5	6,022	7.3
健康診断・人間ドック	6,976	12.3	3,660	14.4	10,636	13.0
他疾患経過観察中	20,184	35.7	9,196	36.2	29,380	35.8
その他・不明	25,771	45.6	10,154	39.9	35,925	43.8
組織形態						
小細胞癌	6,064	10.7	1,227	4.8	7,291	8.9
非小細胞癌	50,469	89.3	24,203	95.2	74,672	91.1

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)5年生存率

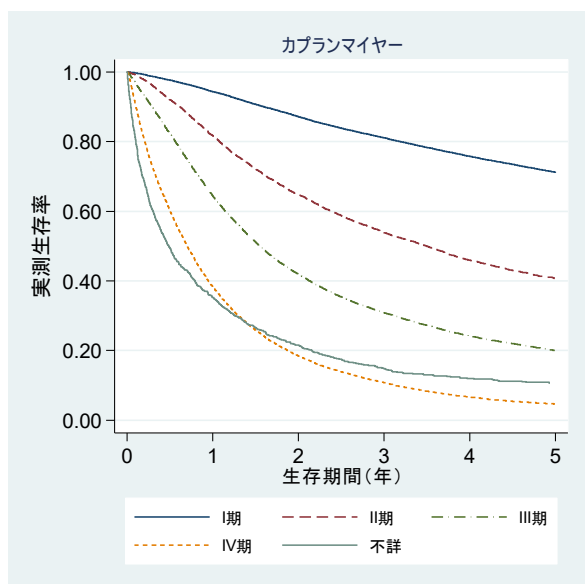
2010-2011年診断例の5年生存率を表3-5-2に示す。全体での5年相対生存率は、約41%、男性が約35%、女性が約56%であった。男性と比較して女性では、UICC TNM分類総合ステージのI期の割合が多く、年齢分布をみると70歳代が若干少ないものの、UICC TNM分類総合ステージ別にみても、男性より女性において実測生存率、相対生存率ともにやや高くなっていた。年代による実測生存率と相対生存率の差は、肝と同様、胃や大腸と比較して小さかった。

UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約82%であるのに対し、II期以降では50%以下と低くなっている。観血的治療の実施割合は、全体で40%程度であるが、相対生存率は約79%であった。また、組織形態別にみると、小細胞癌では非小細胞癌と比較して相対生存率が低い傾向が認められた。

表 3-5-2 属性別 5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	29.5	34.7	34.3	35.2	51.4	55.7	55.1	56.4	36.3	41.4	41.0	41.8
がん診療連携拠点病院等	29.5	34.7	34.2	35.1	51.4	55.7	55.0	56.3	36.3	41.3	41.0	41.7
都道府県推薦病院	31.2	36.7	33.5	39.9	54.2	59.3	54.5	63.9	38.4	43.9	41.2	46.6
年齢												
15-39歳	43.9	44.1	38.5	49.5	54.9	55.0	48.7	60.9	48.9	49.1	44.9	53.1
40歳代	43.9	44.5	41.7	47.2	58.2	58.6	55.2	61.8	49.6	50.1	48.0	52.2
50歳代	40.6	41.9	40.5	43.2	59.8	60.7	58.8	62.5	47.2	48.4	47.3	49.5
60歳代	34.8	37.4	36.7	38.2	58.2	60.0	58.8	61.1	42.1	44.5	43.9	45.2
70歳代	28.1	33.9	33.1	34.6	52.0	56.7	55.5	57.8	35.1	40.8	40.2	41.4
80歳以上	15.1	25.0	23.9	26.2	31.1	41.5	39.7	43.3	20.0	30.3	29.3	31.3
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	62.1	74.1	73.3	75.0	85.3	92.5	91.8	93.2	71.2	81.6	81.0	82.2
II期	37.5	43.8	42.1	45.5	52.4	56.9	53.7	59.9	40.8	46.7	45.2	48.3
III期	17.4	20.0	19.3	20.7	28.9	31.1	29.7	32.6	20.1	22.6	22.0	23.3
IV期	3.4	3.9	3.6	4.2	7.9	8.5	7.9	9.2	4.7	5.2	4.9	5.5
不詳	8.0	11.1	8.5	14.0	18.1	22.3	16.9	28.3	10.7	14.1	11.7	16.8
観血的治療												
有	62.6	72.5	71.7	73.2	83.4	89.3	88.6	90.0	70.6	79.1	78.6	79.6
原発巣・治癒切除	64.8	75.1	74.3	75.9	84.8	90.8	90.1	91.5	72.6	81.4	80.8	81.9
原発巣・非治癒切除	27.1	30.8	27.7	34.0	49.5	52.9	47.4	58.1	33.4	37.1	34.3	39.9
原発巣・治癒/非治癒	46.9	54.1	49.6	58.4	67.1	72.2	66.2	77.5	53.4	60.0	56.4	63.5
の別不詳												
無	8.4	10.1	9.8	10.5	14.2	15.8	15.1	16.6	9.9	11.6	11.3	11.9
組織形態												
小細胞癌	10.0	11.5	10.6	12.4	13.4	14.2	12.2	16.3	10.6	11.9	11.2	12.8
非小細胞癌	31.8	37.5	37.0	38.0	53.3	57.8	57.1	58.5	38.8	44.3	43.9	44.7

*癌腫のみ対象



6. 女性乳房(C50)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	56,778	6,801	1,256	97.8

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、56,778 例で、5 年以内に亡くなっていたのが 6,801 例、打ち切りが 1,256 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 97.8%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、60 歳代が約 26%と最も多く、次いで 50 歳代が約 22%、40 歳代が約 21%であった。また、35 歳未満は、約 2%であった。全体の平均年齢は、59.2 歳(標準偏差 13.6)であった。UICC TNM 分類総合ステージ別に見ると、I 期が最も多く約 44%、次いで II 期が約 38%であった。観血的治療の実施割合は、約 90%であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診がやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

	全体	(%)
全体	56,778	100.0
がん診療連携拠点病院等	55,938	98.5
都道府県推薦病院	840	1.5
年齢		
平均年齢 (SD)	59.2	(SD:13.6)
15-39 歳	3,769	6.6
40 歳代	11,956	21.1
50 歳代	12,614	22.2
60 歳代	14,979	26.4
70 歳代	9,026	15.9
80 歳以上	4,434	7.8
35 歳未満 (再掲)	1,217	2.1
UICC TNM 分類総合ステージ*		
I 期	24,755	43.6
II 期	21,490	37.8
III 期	7,038	12.4
IV 期	3,014	5.3
不詳	320	0.6
空欄	161	0.3
観血的治療		
有	51,010	89.8
原発巣・治癒切除	46,877	82.6
原発巣・非治癒切除	2,335	4.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	1,798	3.2
無	5,768	10.2
発見経緯		
がん検診	13,015	22.9
健康診断・人間ドック	2,901	5.1
他疾患経過観察中	6,828	12.0
その他・不明	34,034	59.9

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

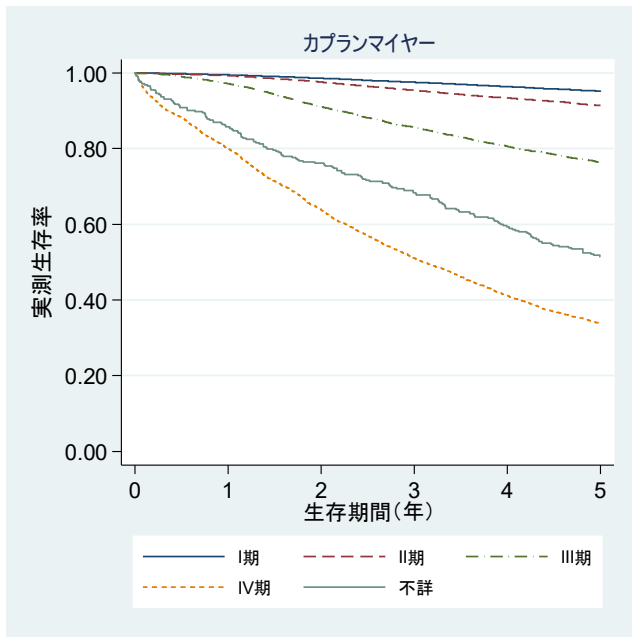
(3) 5 年生存率

2010-2011 年診断例の 5 年生存率を表 3-6-2 に示す。全体として、相対生存率は約 92%であり、35 歳未満を除きどの年代においても相対生存率は約 90%以上であった。UICC TNM 分類総合ステージ別に見ると、I 期、II 期では相対生存率は 95%以上であるが、IV 期では約 35%にとどまった。なお、観血的治療実施を受けた者では、全体で相対生存率は約 97%であった。

表 3-6-2 属性別 5 年相対生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	87.9	92.2	92.0	92.5
がん診療連携拠点病院等	87.9	92.2	91.9	92.5
都道府県推薦病院	87.4	93.0	90.4	95.2
年齢				
15-39 歳	90.0	90.3	89.3	91.2
40 歳代	94.0	94.6	94.2	95.0
50 歳代	90.0	91.2	90.7	91.7
60 歳代	89.7	92.3	91.7	92.8
70 歳代	84.4	91.5	90.7	92.3
80 歳以上	64.4	91.3	89.2	93.3
35 歳未満 (再掲)	88.1	88.3	86.3	90.0
UICC TNM 総合ステージ*				
I 期	95.2	99.8	99.5	100.0
II 期	91.4	95.7	95.3	96.1
III 期	76.4	80.6	79.6	81.7
IV 期	33.8	35.4	33.6	37.2
不詳	51.5	61.8	54.9	68.2
観血的治療				
有	92.3	96.5	96.3	96.8
原発巣・治癒切除	92.9	97.0	96.8	97.3
原発巣・非治癒切除	84.9	89.5	87.9	91.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	88.5	92.9	91.2	94.3
無	48.1	52.7	51.3	54.2

*癌腫のみ対象



7. 食道(C15)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	21,813	12,851	452	97.9

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、21,813例で、5年以内に亡くなっていたのが12,851例、打ち切りが452例であった。全体として生存状況把握割合は、97.9%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-7-1に示す。属性をみると、男性が約86%、女性が約14%であった。年齢分布をみると、60歳代が約39%と最も多く、次いで70歳代が約33%、50歳代が約14%となっていた。全体の平均年齢は、68.4歳（標準偏差9.3）であった。UICC TNM分類総合ステージをみると、I期が最も多く約32%、次いでIII期が約25%、IV期が約21%、II期が約19%であった。観血的治療の実施割合は全体で約49%であり、原発巣・治癒切除例が約44%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約25%であった。

表3-7-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	18,654	100.0	3,159	100.0	21,813	100.0
がん診療連携拠点病院等	18,436	98.8	3,123	0.6	21,559	98.8
都道府県推薦病院	218	1.2	36	0.6	254	1.2
年齢						
平均年齢 (SD)	68.3	(SD:9.0)	68.6	(SD:11.0)	68.4	(SD:9.3)
0-15歳	(1-3)		0		(1-3)	
15-39歳	32	0.2	19	0.6	51	0.2
40歳代	350	1.9	136	4.3	486	2.2
50歳代	2,554	13.7	440	13.9	2,994	13.7
60歳代	7,323	39.3	1,075	34.0	8,398	38.5
70歳代	6,317	33.9	939	29.7	7,256	33.3
80歳以上	2,077	11.1	550	17.4	2,627	12.0
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	6,069	32.5	921	29.2	6,990	32.0
II期	3,482	18.7	667	21.1	4,149	19.0
III期	4,665	25.0	851	26.9	5,516	25.3
IV期	3,971	21.3	597	18.9	4,568	20.9
不詳	366	2.0	77	2.4	443	2.0
空欄	101	0.5	46	1.5	147	0.7
観血的治療						
有	9,151	49.1	1,577	49.9	10,728	49.2
原発巣・治癒切除	8,088	43.4	1,430	45.3	9,518	43.6
原発巣・非治癒切除	711	3.8	93	2.9	804	3.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	352	1.9	54	1.7	406	1.9
無	9,503	50.9	1,582	50.1	11,085	50.8
発見経緯						
がん検診	775	4.2	122	3.9	897	4.1
健康診断・人間ドック	1,630	8.7	153	4.8	1,783	8.2
他疾患経過観察中	4,764	25.5	640	20.3	5,404	24.8
その他・不明	11,485	61.6	2,244	71.0	13,729	62.9

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

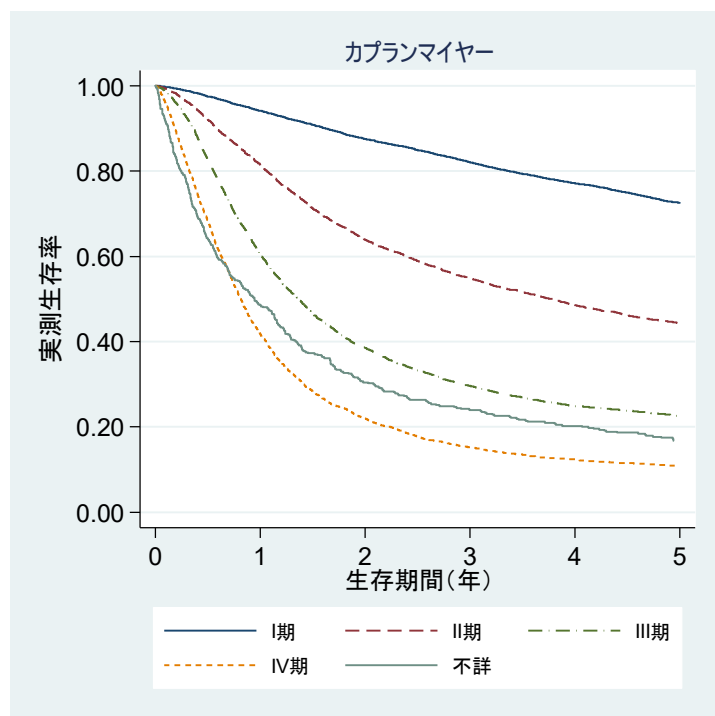
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-7-2に示す。全体での相対生存率は、約46%であり、男性が約45%、女性が約51%であった。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、5年相対生存率はⅠ期が約83%、Ⅱ期が約50%、Ⅲ期が約25%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約70%であり、原発巣・治癒切除例の相対生存率は約73%であった。男女における併存症など対象者の個人属性の違いが定かではないが、UICC TNM分類総合ステージ別、年齢別に見ても男性より女性でやや相対生存率が高い傾向が認められた。

表3-7-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	39.3	44.9	44.1	45.7	47.1	50.7	48.8	52.6	40.4	45.7	45.0	46.5
がん診療連携拠点病院等	39.3	44.9	44.1	45.7	47.2	50.8	48.9	52.7	40.4	45.8	45.0	46.5
都道府県推薦病院	37.0	42.7	35.2	50.2	38.5	42.4	24.8	59.8	37.2	42.6	35.7	49.5
年齢												
15-39歳	57.8	58.1	38.7	73.3	52.6	52.8	28.8	72.1	55.8	56.1	41.2	68.6
40歳代	44.6	45.1	39.8	50.3	45.5	45.8	37.1	54.0	44.8	45.3	40.8	49.8
50歳代	45.5	47.0	45.0	49.0	52.4	53.1	48.2	57.8	46.5	47.9	46.0	49.7
60歳代	43.6	46.8	45.6	48.0	54.2	55.9	52.7	58.9	45.0	48.0	46.8	49.1
70歳代	37.7	45.0	43.6	46.5	49.7	54.0	50.4	57.4	39.2	46.2	44.9	47.6
80歳以上	20.1	33.1	30.3	36.0	24.1	32.8	28.0	37.9	20.9	33.1	30.6	35.6
UICC TNM 分類総合ステージ*												
Ⅰ期	71.3	81.8	80.4	83.1	81.2	87.3	84.4	89.9	72.6	82.5	81.3	83.7
Ⅱ期	42.8	49.1	47.2	50.9	52.0	56.4	52.2	60.5	44.3	50.3	48.5	52.0
Ⅲ期	21.2	23.8	22.5	25.2	30.8	32.9	29.6	36.2	22.7	25.3	24.0	26.5
Ⅳ期	10.3	11.6	10.5	12.7	15.0	15.9	13.0	19.2	10.9	12.1	11.1	13.2
不詳	15.5	18.9	14.6	23.7	23.5	28.5	17.8	40.7	16.8	20.5	16.4	25.0
観血的治療												
有	61.5	69.0	67.9	70.2	70.3	74.4	72.0	76.8	62.7	69.9	68.8	70.9
原発巣・治癒切除	64.3	72.1	70.9	73.3	72.3	76.6	74.0	79.0	65.5	72.8	71.7	73.8
原発巣・非治癒切除	35.3	40.5	36.4	44.5	41.9	44.9	34.0	55.3	36.1	41.0	37.2	44.8
原発巣・治癒/非治癒	49.5	56.0	50.0	61.8	66.4	68.9	54.0	80.3	51.7	57.8	52.2	63.1
の別不詳												
無	17.7	20.9	20.0	21.8	23.5	26.2	23.8	28.6	18.5	21.6	20.8	22.5

*癌腫が対象



8. 膀胱(C25)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	20,914	18,838	347	98.3

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、20,914例で、5年以内に亡くなっていたのが18,838例、打ち切りが347例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は98.3%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-8-1に示す。集計対象者は、男性が約55%、女性が約45%であった。診断時の年齢分布は、70歳代が約36%と最も多く、次いで60歳代が約31%、80歳以上が約19%であった。全体の平均年齢は、70.1歳（標準偏差10.7）であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、IV期が最も多く約48%、次いでII期が約25%、III期が約18%であった。観血的治療の実施割合は、約29%で男女による差はほとんどなかった。原発巣・治癒切除例が約23%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約29%であった。

表3-8-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	11,589	100.0	9,325	100.0	20,914	100.0
がん診療連携拠点病院等	11,367	98.1	9,156	2.5	20,523	98.1
都道府県推薦病院	222	1.9	169	2.5	391	1.9
年齢						
平均年齢 (SD)	69.0	(SD:10.3)	71.4	(SD:11.0)	70.1	(SD:10.7)
0-14歳	(1-3)		(1-3)		(4-6)	
15-39歳	90	0.8	86	0.9	176	0.8
40歳代	397	3.4	232	2.5	629	3.0
50歳代	1,399	12.1	925	9.9	2,324	11.1
60歳代	3,856	33.3	2,537	27.2	6,393	30.6
70歳代	4,134	35.7	3,285	35.2	7,419	35.5
80歳以上	1,712	14.8	2,257	24.2	3,969	19.0
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	682	5.9	580	6.2	1,262	6.0
II期	2,943	25.4	2,284	24.5	5,227	25.0
III期	2,019	17.4	1,676	18.0	3,695	17.7
IV期	5,602	48.3	4,468	47.9	10,070	48.1
不詳	275	2.4	255	2.7	530	2.5
空欄	68	0.6	62	0.7	130	0.6
観血的治療						
有	3,448	29.8	2,618	28.1	6,066	29.0
原発巣・治癒切除	2,694	23.2	2,053	22.0	4,747	22.7
原発巣・非治癒切除	574	5.0	436	4.7	1,010	4.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	180	1.6	126	1.4	306	1.5
無	8,141	70.2	6,710	72.0	14,851	71.0
発見経緯						
がん検診	75	0.6	54	0.6	129	0.6
健康診断・人間ドック	524	4.5	324	3.5	848	4.1
他疾患経過観察中	3,469	29.9	2,487	26.7	5,956	28.5
その他・不明	7,521	64.9	6,460	69.3	13,981	66.8

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

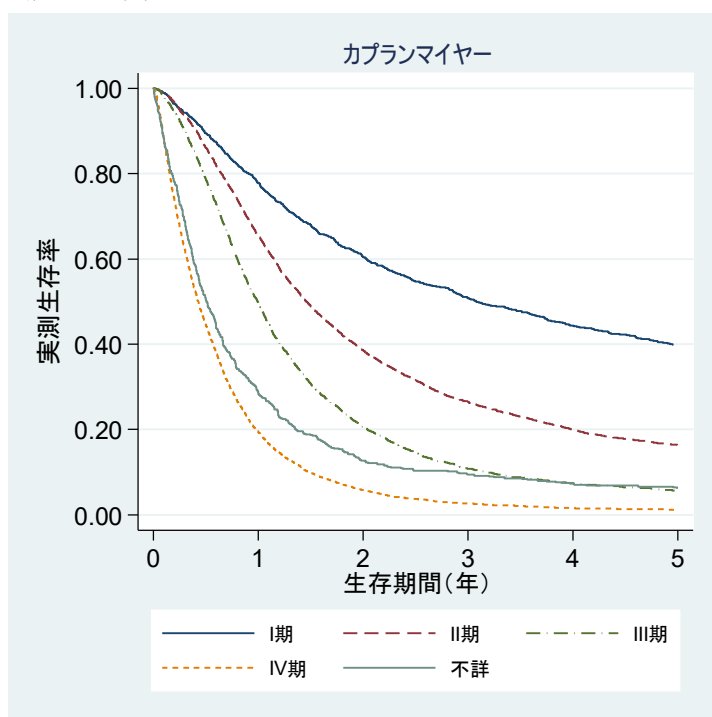
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-8-2に示す。5年相対生存率は、全体で約10%であった。肝や肺と同様、実測生存率と相対生存率の差は他の部位と比較して小さく、予後が比較的良くないがんと考えられる。年代別にみても、実測生存率、相対生存率はほぼ同程度であった。但し、40歳以下では対象者数がやや少なく95%信頼区間の幅が広がっている点に留意する必要がある。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、相対生存率はI期が約46%、II期が約18%、III期が約6%、IV期が約1%であった。観血治療を受けた者の相対生存率は約29%であり、その内原発巣・治癒切除例のみをみても相対生存率は約33%にとどまった。

表3-8-2 属性別5年生存率

	男性			女性			全体					
	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間	実測	相対	95%信頼区間			
全体	8.5	9.8	9.2	10.4	9.0	9.8	9.1	10.4	8.7	9.8	9.3	10.2
がん診療連携拠点病院等	8.5	9.7	9.1	10.3	9.0	9.8	9.2	10.5	8.7	9.8	9.3	10.2
都道府県推薦病院	11.0	12.8	8.4	18.1	5.1	5.9	2.8	10.7	8.4	9.8	6.8	13.4
年齢												
15-39歳	27.8	28.0	18.8	37.9	43.5	43.6	32.9	53.8	35.7	35.8	28.6	43.0
40歳代	15.9	16.1	12.6	19.9	20.4	20.5	15.5	26.1	17.5	17.7	14.8	20.9
50歳代	11.0	11.3	9.7	13.1	11.1	11.2	9.3	13.4	11.0	11.3	10.0	12.7
60歳代	10.0	10.8	9.8	11.8	11.2	11.5	10.3	12.8	10.5	11.1	10.3	11.9
70歳代	7.2	8.7	7.7	9.7	8.4	9.2	8.2	10.3	7.8	8.9	8.2	9.6
80歳以上	3.5	5.7	4.3	7.3	3.7	5.0	4.0	6.2	3.6	5.3	4.4	6.2
UICC TNM 分類総合ステージ												
I期	39.2	45.8	41.5	50.1	40.8	45.1	40.6	49.6	39.9	45.5	42.4	48.6
II期	15.6	18.0	16.5	19.5	17.4	18.8	17.2	20.6	16.4	18.4	17.3	19.5
III期	6.2	7.0	5.8	8.2	5.3	5.7	4.6	7.0	5.8	6.4	5.6	7.3
IV期	1.3	1.5	1.2	1.9	1.2	1.3	1.0	1.7	1.3	1.4	1.2	1.7
不詳	4.9	6.2	3.5	10.0	7.9	9.2	5.8	13.7	6.3	7.6	5.3	10.4
観血的治療												
有	25.1	28.4	26.8	30.1	28.2	30.2	28.4	32.1	26.4	29.2	28.0	30.4
原発巣・治癒切除	28.6	32.4	30.4	34.3	32.1	34.4	32.2	36.6	30.1	33.3	31.8	34.7
原発巣・非治癒切除	9.7	11.1	8.5	14.1	10.1	10.9	8.0	14.2	9.9	11.0	9.0	13.2
原発巣・治癒/非治癒	20.0	23.0	16.7	30.1	25.5	27.6	19.6	36.2	22.2	24.9	19.8	30.4
の別不詳												
無	1.4	1.6	1.3	2.0	1.3	1.5	1.2	1.8	1.4	1.6	1.3	1.8

*癌腫が対象



9. 子宮頸部(C53)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	11,759	3,201	400	96.6

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、11,759例で、5年以内に亡くなっていた者は3,201例、打ち切りが400例であった。集計対象全体の生存状況把握割合は96.6%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-9-1に示す。診断時の年齢を見ると、15～39歳、40歳代と比較的若い年代が多かった。全体の平均年齢は、54.1（標準偏差16.2）であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が約45%と最も多く、次いでIII期が約24%、II期が約16%であった。観血的治療の実施割合は約58%で、原発巣・治癒切除例が約51%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約17%、健康診断・人間ドックが約3%であった。

表3-9-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	11,759	100.0
がん診療連携拠点病院等	11,634	98.9
都道府県推薦病院	125	1.1
年齢		
平均年齢 (SD)	54.1	(SD:16.2)
0-14歳	(1-3)	
15-39歳	2,587	22.0
40歳代	2,664	22.7
50歳代	2,048	17.4
60歳代	2,130	18.1
70歳代	1,409	12.0
80歳以上	919	7.8
UICC TNM分類総合ステージ*		
I期	5,316	45.2
II期	1,925	16.4
III期	2,763	23.5
IV期	1,555	13.2
不詳	142	1.2
空欄	58	0.5
観血的治療		
有	6,794	57.8
原発巣・治癒切除	5,993	51.0
原発巣・非治癒切除	514	4.4
原発巣・治癒/非治癒	287	2.4
の別不詳		
無	4,965	42.2
発見経緯		
がん検診	1,996	17.0
健康診断・人間ドック	356	3.0
他疾患経過観察中	1,153	9.8
その他・不明	8,254	70.2

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

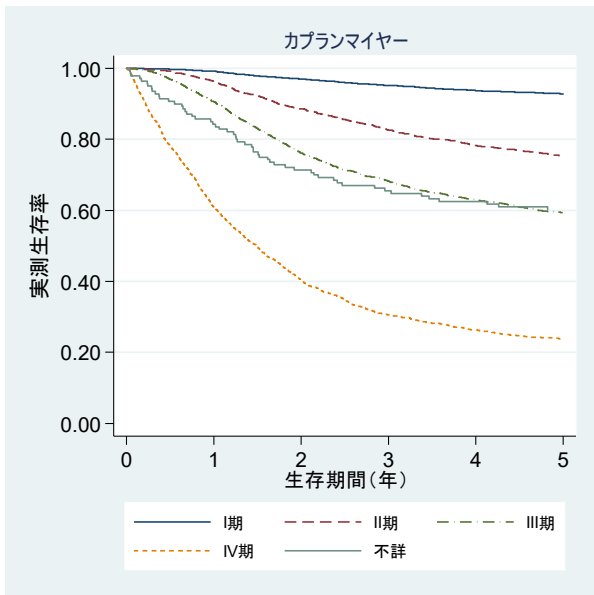
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-9-2に示す。全体として、実測生存率が約73%、相対生存率が約75%であった。70歳、80歳以上では、実測生存率と相対生存率に5%以上の差を認められるものの、その他の年代では差は5%以下であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期が約95%、II期が約80%、III期が約62%、IV期が約25%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は約90%であり、その内、原発巣・治癒切除例では約92%であった。

表3-9-2 属性別5年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	72.4	75.0	74.2	75.9
がん診療連携拠点病院等	72.4	75.1	74.2	75.9
都道府県推薦病院	71.1	74.2	64.8	81.7
年齢				
15-39歳	87.4	87.7	86.3	88.9
40歳代	80.3	80.7	79.2	82.2
50歳代	73.1	74.0	72.0	75.9
60歳代	70.6	72.6	70.6	74.6
70歳代	59.3	64.3	61.5	67.1
80歳以上	29.9	42.1	37.9	46.4
UICC TNM分類総合ステージ*				
I期	92.9	95.0	94.3	95.7
II期	75.4	79.6	77.5	81.6
III期	59.3	62.0	60.1	63.9
IV期	23.7	25.0	22.8	27.2
不詳	60.3	64.4	55.1	72.5
観血的治療				
有	89.1	90.4	89.6	91.1
原発巣・治癒切除	90.7	92.0	91.3	92.8
原発巣・非治癒切除	73.1	74.5	70.4	78.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	82.6	84.4	79.3	88.4
無	49.5	53.4	51.8	54.9

*癌腫のみ対象



10. 子宮体部(C54)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	13,183	2,738	254	98.1

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、13,183例で、5年以内に亡くなっていたのが2,738例、打ち切りが254例であった。集計対象全体として、生存状況把握割合は98.1%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-10-1に示す。診断時の年齢を見ると、50歳代が約30%と最も多く、次いで60歳代が約29%、70歳代が約16%であった。全体の平均年齢は、59.8歳（標準偏差12.3）であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が約58%、II期が約8%、III期が約16%、IV期が約8%であった。観血的治療の実施割合は、約91%であり、原発巣・治癒切除例が約80%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約14%であった。

表3-10-1 対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	13,183	100.0
がん診療連携拠点病院等	13,035	98.9
都道府県推薦病院	148	1.1
年齢		
平均年齢 (SD)	59.8	(SD:12.3)
15-39歳	692	5.2
40歳代	1,858	14.1
50歳代	3,996	30.3
60歳代	3,762	28.5
70歳代	2,044	15.5
80歳以上	831	6.3
UICC TNM分類総合ステージ*		
I期	7,673	58.2
II期	1,012	7.7
III期	2,121	16.1
IV期	1,030	7.8
不詳	155	1.2
空欄	1,192	9.0
観血的治療		
有	11,966	90.8
原発巣・治癒切除	10,577	80.2
原発巣・非治癒切除	648	4.9
原発巣・治癒/非治癒	741	5.6
の別不詳		
無	1,217	9.2
発見経緯		
がん検診	940	7.1
健康診断・人間ドック	255	1.9
他疾患経過観察中	1,861	14.1
その他・不明	10,127	76.8

*癌腫のみ対象（子宮内膜）、癌腫以外は空欄へ変換

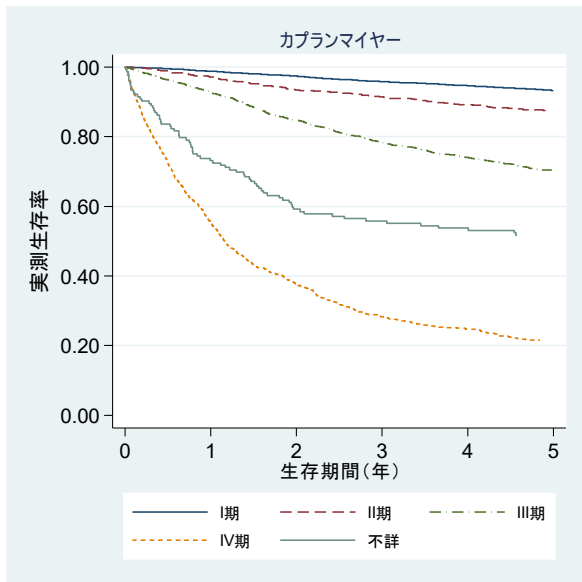
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-10-2に示す。全体での5年実測生存率は約79%、相対生存率が約82%であった。年齢別にみると、70歳、80歳以上を除き相対生存率は80%を超えていた。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、I期が約97%、II期が約92%、III期が約73%、IV期が約22%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約88%であり、その内原発巣・治癒切除例では91%であった。

表3-10-2 属性別5年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	79.1	82.2	81.4	82.9
がん診療連携拠点病院等	79.1	82.2	81.5	82.9
都道府県推薦病院	76.6	79.8	71.7	86.1
年齢				
15-39歳	91.8	92.1	89.7	93.9
40歳代	88.9	89.5	87.9	90.8
50歳代	85.0	86.2	85.0	87.3
60歳代	78.6	80.8	79.5	82.2
70歳代	69.2	75.0	72.8	77.1
80歳以上	44.6	59.9	55.2	64.4
UICC TNM分類総合ステージ*				
I期	93.3	96.8	96.2	97.4
II期	87.6	91.7	89.4	93.7
III期	70.4	72.8	70.7	74.7
IV期	21.4	22.3	19.7	24.9
不詳	51.9	56.1	47.2	64.4
観血的治療				
有	84.4	87.5	86.8	88.2
除	87.8	91.0	90.3	91.6
原発巣・非治癒切除	37.7	39.2	35.3	43.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	77.1	80.2	76.8	83.1
無	25.8	28.0	25.4	30.8

*癌腫のみ対象（子宮内膜）



11. 前立腺(C61)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	53,611	8,989	1,178	97.8

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、53,611例で、5年以内に亡くなっていたのが8,989例、打ち切りが1,178例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は97.8%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-11-1に示す。診断時の年齢は、70歳代が約45%、80歳以上が約15%で、70歳以上が半数以上を占めた。全体の平均年齢は、71.2歳（標準偏差7.9）であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、Ⅱ期が最も多く約68%であった。観血的治療の実施割合は、約29%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約18%、健康診断・人間ドックが約11%であった。

表3-11-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	53,611	100.0
がん診療連携拠点病院等	52,320	97.6
都道府県推薦病院	1,291	2.4
年齢		
平均年齢 (SD)	71.2	(SD: 7.9)
0-14歳	(1-3)	
15-39歳	(7-9)	
40歳代	176	0.3
50歳代	3,290	6.1
60歳代	18,233	34.0
70歳代	24,078	44.9
80歳以上	7,826	14.6
UICC TNM 分類総合ステージ*		
Ⅰ期	891	1.7
Ⅱ期	36,242	67.6
Ⅲ期	7,960	14.8
Ⅳ期	7,712	14.4
不詳	726	1.4
空欄	80	0.1
観血的治療		
有	15,704	29.3
原発巣・治癒切除	13,071	24.4
原発巣・非治癒切除	1,888	3.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	745	1.4
無	37,907	70.7
発見経緯		
がん検診	9,649	18.0
健康診断・人間ドック	5,978	11.2
他疾患経過観察中	18,679	34.8
その他・不明	19,305	36.0

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

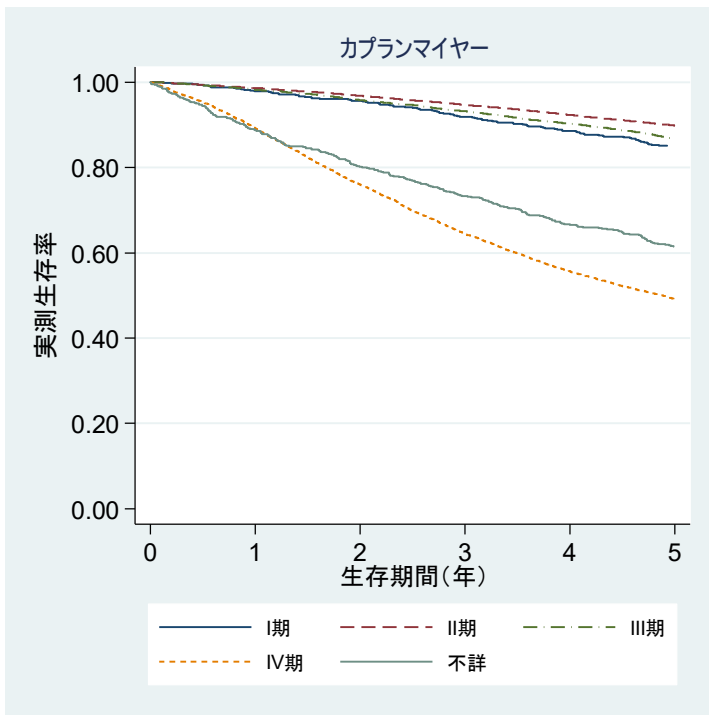
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-11-2に示す。全体として、5年実測生存率は約83%、相対生存率が約99%であった。年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなり、高齢になるほど前立腺がん以外の要因で死亡させている例が多いと考えられた。5年相対生存率は、40歳代を除きどの年代も90%程度と高い。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、Ⅰ期からⅢ期では、相対生存率は100%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、治癒切除、非治癒切除例に関わらず100%であった。

表3-11-2 属性別5年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	83.1	98.8	98.4	99.1
がん診療連携拠点病院等	83.0	98.7	98.3	99.1
都道府県推薦病院	85.5	100.0	99.5	100.0
年齢				
40歳代	84.4	85.6	79.2	90.3
50歳代	92.9	96.0	95.0	96.8
60歳代	92.0	99.1	98.6	99.5
70歳代	83.8	100.0	99.7	100.0
80歳以上	56.0	94.1	92.2	95.9
UICC TNM 総合ステージ*				
Ⅰ期	85.1	100.0	99.1	100.0
Ⅱ期	89.9	100.0	100.0	100.0
Ⅲ期	86.9	100.0	100.0	100.0
Ⅳ期	49.2	61.3	59.9	62.7
不詳	61.5	86.5	81.4	91.4
観血的治療				
有	94.8	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒切除	95.2	100.0	100.0	100.0
原発巣・非治癒切除	93.3	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	91.7	100.0	100.0	100.0
無	78.2	96.1	95.6	96.6

*癌腫のみ対象



12. 膀胱(C67)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	318	13,234	5,783	284	97.9

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、13,234例で、5年以内に亡くなっていたのが5,783例、打ち切りが284例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.9%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-12-1に示す。性別で見ると、男性が約77%、女性が約23%であった。診断時の年齢分布をみると、70歳代が最も多く約35%、80歳以上が約30%、60歳代が約25%であった。全体の平均年齢は、72.9歳（標準偏差10.9）であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、I期が約56%と半数以上を占めた。観血的治療の実施割合は、約87%で、原発巣・治癒切除例約68%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約24%であった。

表3-12-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	10,181	100.0	3,053	100.0	13,234	100.0
がん診療連携拠点病院等	9,964	97.9	2,996	98.1	12,960	97.9
都道府県推薦病院	217	2.1	57	1.9	274	2.1
年齢						
平均年齢 (SD)	72.2	(SD:10.6)	75.0	(SD:11.6)	72.9	(SD:10.9)
0-14歳	(1-3)		(4-6)		(4-6)	
15-39歳	61	0.6	22	0.7	83	0.6
40歳代	196	1.9	59	1.9	255	1.9
50歳代	874	8.6	192	6.3	1,066	8.1
60歳代	2,678	26.3	583	19.1	3,261	24.6
70歳代	3,611	35.5	987	32.3	4,598	34.7
80歳以上	2,759	27.1	1,206	39.5	3,965	30.0
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	5,909	58.0	1,501	49.2	7,410	56.0
II期	1,830	18.0	628	20.6	2,458	18.6
III期	963	9.5	327	10.7	1,290	9.7
IV期	1,182	11.6	460	15.1	1,642	12.4
不詳	257	2.5	122	4.0	379	2.9
空欄	40	0.4	15	0.5	55	0.4
観血的治療						
有	8,958	88.0	2,511	82.2	11,469	86.7
原発巣・治癒切除	7,050	69.2	1,879	61.5	8,929	67.5
原発巣・非治癒切除	1,078	10.6	393	12.9	1,471	11.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	830	8.2	239	7.8	1,069	8.1
無	1,223	12.0	542	17.8	1,765	13.3
発見経緯						
がん検診	70	0.7	19	0.6	89	0.7
健康診断・人間ドック	290	2.8	56	1.8	346	2.6
他疾患経過観察中	2,477	24.3	714	23.4	3,191	24.1
その他・不明	7,344	72.1	2,264	74.2	9,608	72.6

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

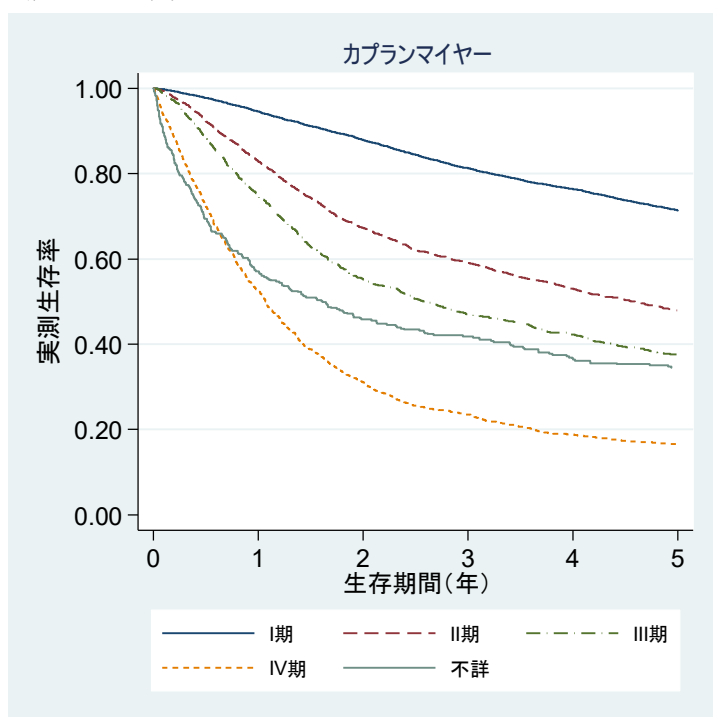
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-12-2に示す。全体の5年実測生存率は約56%、相対生存率が約68%であった。70歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、全体としては60歳代まで70%以上であるが、70歳以上では約69%、約56%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約88%、II期が約60%、III期が約45%、IV期が約19%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約75%で、その内原発巣・治癒切除例では約81%であった。

表3-12-2 属性別5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	57.4	71.1	69.9	72.3	50.6	59.5	57.4	61.6	55.9	68.4	67.4	69.5
がん診療連携拠点病院等	57.4	71.1	69.9	72.3	50.6	59.5	57.3	61.6	55.8	68.4	67.3	69.4
都道府県推薦病院	57.9	73.3	64.5	81.3	53.6	62.7	46.5	76.6	57.0	71.0	63.3	78.0
年齢												
15-39歳	84.3	84.7	72.3	91.9	-	-			81.1	81.4	70.8	88.5
40歳代	81.1	82.1	75.7	87.1	79.4	80.0	67.1	88.4	80.7	81.6	76.1	86.1
50歳代	77.3	79.7	76.7	82.5	70.3	71.3	64.2	77.3	76.0	78.2	75.4	80.7
60歳代	71.6	76.9	75.0	78.7	70.4	72.5	68.5	76.2	71.4	76.1	74.4	77.7
70歳代	58.3	70.6	68.6	72.6	56.4	61.7	58.2	65.0	57.9	68.7	66.9	70.3
80歳以上	34.0	60.3	57.2	63.5	31.2	46.8	42.9	50.8	33.2	56.1	53.6	58.6
UICC TNM 分類総合ステージ*												
I期	71.6	89.0	87.6	90.5	70.6	82.9	80.0	85.5	71.4	87.8	86.5	89.0
II期	50.6	62.8	59.9	65.6	40.3	48.8	44.1	53.4	47.9	59.2	56.7	61.6
III期	38.0	46.2	42.5	50.0	36.5	41.7	35.7	47.7	37.6	45.1	41.9	48.3
IV期	17.3	20.3	17.8	22.9	14.7	16.2	12.8	20.0	16.6	19.2	17.1	21.3
不詳	36.7	48.5	40.7	56.3	29.9	37.1	27.3	47.4	34.6	44.8	38.6	51.1
観血的治療												
有	62.9	77.4	76.2	78.6	58.5	68.3	66.0	70.5	61.9	75.4	74.3	76.5
原発巣・治癒切除	67.0	82.1	80.7	83.4	65.2	75.7	73.1	78.1	66.6	80.7	79.5	81.9
原発巣・非治癒切除	40.1	50.3	46.6	54.0	28.4	34.8	29.4	40.3	37.0	46.1	43.0	49.2
原発巣・治癒/非治癒	57.5	72.6	68.2	76.7	54.7	63.8	56.1	70.8	56.8	70.6	66.8	74.2
の別不詳	17.4	23.3	20.5	26.3	13.8	17.4	13.9	21.4	16.3	21.5	19.3	23.9

*癌腫のみ対象



13. 喉頭(C32.0, C32.1, C32.2, C10.1)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	278	5,567	1,723	154	97.2

(1) 生存状況把握割合

集計対象 5,567 例のうち、5 年以内に死亡していたのは 1,723 例、打ち切りが 154 例で、全体として生存状況把握割合は、97.2%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-13-1 に示す。性別にみると、男性が約 93%を占めていた。診断時の年齢は、60 歳代が約 37%と最も多く、次いで 70 歳代が約 33%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I 期が最も多く約 40%、次いで II 期が約 25%であった。約 3 割が観血的治療を受けており、約 24%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、その他・不明が最も多く約 86%であった。

表 3-13-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	5,174	100.0	393	100.0	5,567	100.0
拠点病院等	5,114	98.8	387	98.5	5,501	98.8
都道府県推薦病院	60	1.2	(4-6)		66	1.2
年齢						
平均年齢 (SD)	69.8	9.4	68.5	11.0	69.7	9.6
15-39 歳	13	0.3	(4-6)		17	0.3
40 歳代	77	1.5	14	3.6	91	1.6
50 歳代	573	11.1	54	13.7	627	11.3
60 歳代	1,908	36.9	148	37.7	2,056	36.9
70 歳代	1,740	33.6	113	28.8	1,853	33.3
80 歳以上	863	16.7	60	15.3	923	16.6
UICC TNM 分類総合ステージ						
*						
I 期	2,077	40.1	130	33.1	2,207	39.6
II 期	1,295	25.0	81	20.6	1,376	24.7
III 期	696	13.5	77	19.6	773	13.9
IV 期	1,043	20.2	87	22.1	1,130	20.3
不詳	40	0.8	(7-9)		49	0.9
空欄	23	0.4	(7-9)		32	0.6
観血的治療						
有	1,503	29.0	132	33.6	1,635	29.4
原発巣・治癒切除	1,216	23.5	110	28.0	1,326	23.8
原発巣・非治癒切除	158	3.1	15	3.8	173	3.1
原発巣・治癒/非治癒	129	2.5	(7-9)		136	2.4
の別不詳						
無	3,671	71.0	261	66.4	3,932	70.6
発見経緯						
がん検診	28	0.5	(1-3)		30	0.5
健康診断・人間ドック	26	0.5	(1-3)		29	0.5
他疾患経過観察中	699	13.5	48	12.2	747	13.4
その他・不明	4,421	85.4	340	86.5	4,761	85.5

*癌腫のみ対象

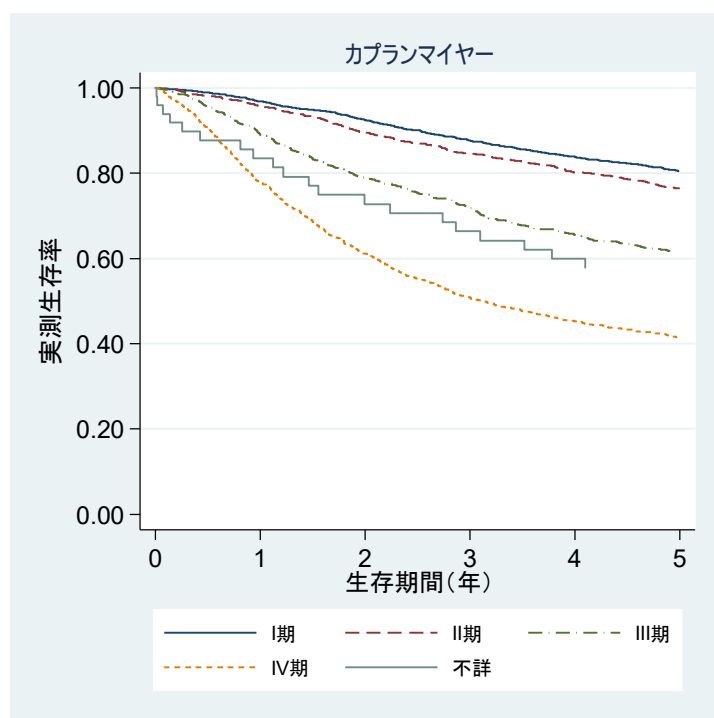
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-13-2に示す。5年相対生存率は、全体で約81%であった。他の部位と同様、年齢が高くなるほど実測生存率と相対生存率の乖離が大きくなる傾向があった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期では男女ともに90%を超えており、全体で約95%、II期では90%を若干下まわるものの全体で89.5%であった。III期では、相対生存率は全体で約72%、IV期では約48%であった。

表 3-13-2 属性別 5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	68.3	80.6	79.1	82.1	73.3	79.9	74.8	84.4	68.7	80.6	79.1	82.0
拠点病院等	68.3	80.5	79.0	82.0	73.2	79.7	74.6	84.2	68.6	80.5	79.0	81.9
都道府県推薦病院	74.6	89.6	73.8	100.0	-	-	-	-	75.4	90.0	75.2	100.0
年齢												
40歳代	86.5	87.6	77.3	93.6	-	-	-	-	86.3	87.3	78.1	93.1
50歳代	80.7	83.3	79.6	86.4	87.0	88.3	75.8	94.9	81.3	83.7	80.3	86.7
60歳代	76.5	82.2	80.1	84.2	76.8	79.2	71.3	85.4	76.5	82.0	80.0	83.9
70歳代	65.6	78.7	75.9	81.3	72.3	79.0	68.8	87.0	66.0	78.7	76.0	81.2
80歳以上	45.7	78.4	72.6	84.1	51.4	75.2	55.8	92.4	46.1	78.2	72.7	83.7
UICC TNM 分類総合ステージ*												
I期	80.2	95.3	93.1	97.2	85.4	92.7	84.7	98.1	80.5	95.1	93.1	97.0
II期	76.0	89.5	86.7	92.2	82.5	89.8	78.6	97.1	76.4	89.5	86.8	92.1
III期	61.2	72.2	67.8	76.3	65.7	72.5	59.4	83.0	61.6	72.2	68.1	76.1
IV期	40.5	46.9	43.4	50.3	53.4	56.5	44.7	66.9	41.5	47.7	44.3	51.0
不詳	55.6	69.2	48.0	86.7	66.7	71.1	30.0	96.7	57.7	69.6	51.2	84.8
観血的治療												
有	67.6	79.1	76.2	81.8	76.3	82.9	73.9	89.8	68.3	79.4	76.7	82.0
原発巣・治癒切除	67.4	79.1	75.9	82.1	75.3	82.2	72.1	89.9	68.0	79.4	76.3	82.2
原発巣・非治癒切除	69.5	80.0	71.0	87.6	-	-	-	-	71.0	81.1	72.6	88.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	67.1	77.9	67.5	86.5	-	-	-	-	67.3	77.7	67.7	86.0
無	68.6	81.3	79.5	83.0	71.8	78.4	72.0	83.9	68.9	81.1	79.3	82.8

*癌腫のみ対象



14. 胆嚢(C23.9)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	311	4,803	3,579	92	98.1

(1) 生存状況把握割合

集計対象 4,803 例のうち、5年以内に死亡していたのは 3,579 例、打ち切りが 92 例で、全体として生存状況把握割合は、98.1%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-14-1 に示す。性別にみると、男性が約 44%、女性が約 56%を占めていた。診断時の年齢は、70 歳代が約 37%と最も多く、次いで 80 歳代が約 31%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では IV 期が最も多く約 42%、次いで I 期が約 26%であった。約 4 割が観血的治療を受けており、37.0%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、その他・不明が最も多く約 60%であった。

表 3-14-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	2,111	100.0	2,692	100.0	4,803	100.0
拠点病院等	2,060	97.6	2,645	98.3	4,705	98.0
都道府県推薦病院	51	2.4	47	1.7	98	2.0
年齢						
平均年齢 (SD)	72.8	10.0	73.9	11.2	73.4	10.7
15-39 歳	(7-9)		11	0.4	19	0.4
40 歳代	32	1.5	56	2.1	88	1.8
50 歳代	164	7.8	227	8.4	391	8.1
60 歳代	511	24.2	559	20.8	1,070	22.3
70 歳代	830	39.3	941	35.0	1,771	36.9
80 歳以上	566	26.8	898	33.4	1,464	30.5
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	599	28.4	647	24.0	1,246	25.9
II 期	420	19.9	543	20.2	963	20.0
III 期	181	8.6	255	9.5	436	9.1
IV 期	829	39.3	1,172	43.5	2,001	41.7
不詳	69	3.3	64	2.4	133	2.8
空欄	13	0.6	11	0.4	24	0.5
観血的治療						
有	998	47.3	1,124	41.8	2,122	44.2
原発巣・治癒切除	846	40.1	933	34.7	1,779	37.0
原発巣・非治癒切除	125	5.9	152	5.6	277	5.8
原発巣・治癒/非治癒	27	1.3	39	1.4	66	1.4
の別不詳						
無	1,113	52.7	1,568	58.2	2,681	55.8
発見経緯						
がん検診	20	0.9	13	0.5	33	0.7
健康診断・人間ドック	97	4.6	99	3.7	196	4.1
他疾患経過観察中	814	38.6	894	33.2	1,708	35.6
その他・不明	1,180	55.9	1,686	62.6	2,866	59.7

* 癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

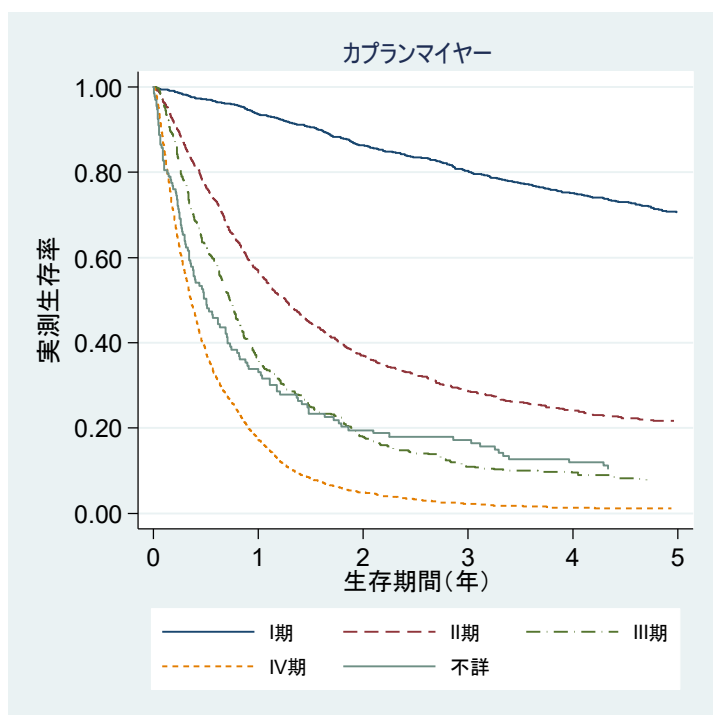
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-14-2に示す。5年相対生存率は、約29%と他の部位と比較し低くなっているが、平均年齢が約73歳と高いことにも留意する必要がある。他の部位と比較し、年齢階級別にみた実測生存率と相対生存率の乖離は小さい傾向にある。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、I期が約84%、II期が約26%、III期が約9%、IV期が約1%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約62%であった。

表 3-14-2 属性別 5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	24.8	30.9	28.7	33.3	24.5	27.9	26.1	29.8	24.6	29.3	27.8	30.7
拠点病院等	24.5	30.6	28.3	32.9	24.4	27.9	26.0	29.8	24.5	29.1	27.6	30.5
都道府県推薦病院	37.3	45.3	28.8	61.8	27.7	32.1	18.4	47.3	32.7	38.9	27.9	50.3
年齢												
15-39歳	-	-			-	-			-	-		
40歳代	37.7	38.2	21.2	55.1	40.7	40.9	28.0	53.5	39.7	40.0	29.6	50.3
50歳代	34.4	35.5	28.1	43.0	29.6	30.0	24.1	36.2	31.7	32.3	27.7	37.1
60歳代	26.3	28.3	24.3	32.5	29.4	30.9	27.0	34.9	28.2	29.7	26.8	32.5
70歳代	25.9	31.4	27.8	35.1	26.7	29.3	26.2	32.5	26.4	30.3	27.9	32.7
80歳以上	18.0	31.2	25.8	36.9	16.0	22.8	19.4	26.4	16.7	25.9	23.0	29.0
UICC TNM分類総合ステージ*												
I期	67.1	84.3	79.3	88.9	73.9	84.4	80.3	88.1	70.6	84.4	81.2	87.3
II期	19.8	24.8	20.2	29.8	23.1	26.4	22.4	30.6	21.7	25.7	22.7	28.9
III期	9.0	10.6	6.3	16.3	7.2	7.9	4.8	12.0	7.9	9.0	6.3	12.2
IV期	1.6	1.1	1.1	3.2	0.8	0.9	0.5	1.7	1.2	1.3	0.9	2.0
不詳	5.8	7.5	2.4	16.8	15.6	18.7	9.6	30.6	10.5	13.1	7.5	20.4
観血的治療												
有	48.9	60.9	56.9	64.7	55.6	62.6	59.3	65.9	52.4	61.8	59.3	64.3
原発巣・治癒切除	54.7	68.0	63.8	72.1	63.2	70.9	67.4	74.3	59.2	69.6	66.8	72.2
原発巣・非治癒切除	11.2	14.2	8.1	22.2	15.4	17.6	11.6	24.8	13.5	16.1	11.6	21.3
原発巣・治癒/非治	-	-			28.2	35.5	19.2	53.7	33.3	41.9	28.1	56.2
癒の別不詳												
無	3.1	3.8	2.7	5.2	1.6	1.9	1.2	2.8	2.2	2.7	2.1	3.4

*癌腫のみ対象



15. 腎(C64.9)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	306	13,193	3,627	323	97.6

(1) 生存状況把握割合

集計対象 13,193 例のうち、5 年以内に死亡していたのは 3,627 例、打ち切りが 323 例で、全体として生存状況把握割合は、97.6%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-15-1 に示す。性別にみると、男性が約 71%、女性が約 29%を占めていた。診断時の年齢は、60 歳代が約 31%、70 歳代が約 29%を占めていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I 期が最も多く約 66%、次いで IV 期が約 16%であった。8 割以上が観血的治療を受けており、約 78%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が最も多く約 48%であった。

表 3-15-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	9,393	100.0	3,800	100.0	13,193	100.0
拠点病院等	9,255	98.5	3,743	98.5	12,998	98.5
都道府県推薦病院	138	1.5	57	1.5	195	1.5
年齢						
平均年齢 (SD)	64.6	12.4	66.1	13.7	65.1	12.8
0-14 歳	28	0.3	29	0.8	57	0.4
15-39 歳	262	2.8	117	3.1	379	2.9
40 歳代	790	8.4	247	6.5	1,037	7.9
50 歳代	1,774	18.9	610	16.1	2,384	18.1
60 歳代	2,947	31.4	1,076	28.3	4,023	30.5
70 歳代	2,706	28.8	1,179	31.0	3,885	29.4
80 歳以上	886	9.4	542	14.3	1,428	10.8
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	6,267	66.7	2,410	63.4	8,677	65.8
II 期	445	4.7	296	7.8	741	5.6
III 期	1,007	10.7	397	10.4	1,404	10.6
IV 期	1,502	16.0	588	15.5	2,090	15.8
不詳	75	0.8	31	0.8	106	0.8
空欄	97	1.0	78	2.1	175	1.3
観血的治療						
有	7,853	83.6	3,151	82.9	11,004	83.4
原発巣・治癒切除	7,278	77.5	2,957	77.8	10,235	77.6
原発巣・非治癒切除	304	3.2	101	2.7	405	3.1
原発巣・治癒/非治癒	271	2.9	93	2.4	364	2.8
の別不詳						
無	1,540	16.4	649	17.1	2,189	16.6
発見経緯						
がん検診	148	1.6	63	1.7	211	1.6
健康診断・人間ドック	1,425	15.2	408	10.7	1,833	13.9
他疾患経過観察中	4,512	48.0	1,814	47.7	6,326	47.9
その他・不明	3,308	35.2	1,515	39.9	4,823	36.6

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

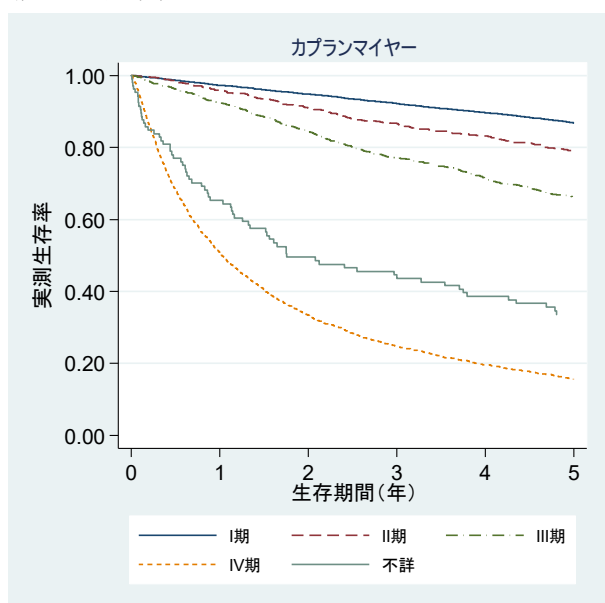
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-15-2に示す。5年相対生存率は、全体で約80%であり、男女別にみても大きな差はなかった。他の部位と同様、年齢が高くなるほど実測生存率と相対生存率の乖離が大きくなる傾向があった。UICC TNM分類総合ステージ別相対生存率をみると、I期が約96%、II期が86%、III期が75%、IV期が18%であった。観血的治療を受けたものは、相対生存率が90%を超えていた。

表 3-15-2 属性別 5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	71.0	79.7	78.6	80.7	75.3	80.9	79.4	82.4	72.2	80.1	79.2	80.9
拠点病院等	71.0	79.7	78.6	80.7	75.3	80.9	79.4	82.4	72.2	80.0	79.2	80.9
都道府県推薦病院	71.5	80.8	71.2	88.6	74.8	81.3	66.5	91.6	72.5	81.0	73.2	87.5
年齢												
0-14歳	-	-			-	-			82.5	82.6	69.9	90.3
15-39歳	88.7	89.1	84.5	92.5	84.3	84.5	76.4	90.1	87.3	87.7	83.9	90.7
40歳代	88.3	89.3	86.8	91.4	86.9	87.4	82.5	91.1	87.9	88.8	86.7	90.7
50歳代	82.8	85.3	83.4	87.1	84.0	85.2	81.9	87.9	83.1	85.3	83.7	86.8
60歳代	73.5	78.7	77.0	80.4	82.4	84.8	82.3	87.0	75.9	80.3	78.9	81.7
70歳代	62.7	75.4	73.1	77.5	72.0	78.6	75.6	81.3	65.5	76.4	74.6	78.1
80歳以上	43.5	71.5	66.1	76.9	51.0	68.8	63.0	74.5	46.3	70.4	66.4	74.4
UICC TNM分類総合ステージ*												
I期	85.6	95.7	94.7	96.6	90.2	96.7	95.4	98.0	86.9	96.0	95.2	96.7
II期	75.9	84.7	80.0	88.9	83.5	88.9	83.8	92.9	79.0	86.4	83.0	89.4
III期	65.1	74.4	70.9	77.7	69.4	75.1	69.9	79.7	66.3	74.6	71.7	77.3
IV期	15.0	16.9	14.9	19.0	17.6	19.1	15.9	22.7	15.7	17.5	15.8	19.3
不詳	34.9	46.3	32.0	60.8	31.2	37.8	19.3	58.0	33.8	43.8	32.1	55.7
観血的治療												
有	80.8	89.7	88.7	90.6	85.7	91.2	89.8	92.4	82.2	90.1	89.3	90.9
原発巣・治癒切除	83.3	92.4	91.5	93.4	87.6	93.3	91.9	94.5	84.5	92.7	91.9	93.4
原発巣・非治癒切除	32.2	35.8	29.9	41.7	41.5	44.0	33.6	54.0	34.5	37.9	32.8	43.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	68.9	75.3	68.9	80.9	71.6	76.3	65.2	84.9	69.6	75.5	70.1	80.4
無	20.3	25.8	23.2	28.4	24.4	29.0	25.1	33.1	21.5	26.8	24.6	29.0

*癌腫のみ対象



16. 腎盂尿管(C65.9, C66.9)

	集計対象施設数	集計対象	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合 (%)
2010-2011	302	5,333	3,108	100	98.1

(1) 生存状況把握割合

集計対象 5,333 例のうち、5 年以内に死亡していたのは 3,108 例、打ち切りが 100 例で、全体として生存状況把握割合は、98.1%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-13-1 に示す。性別にみると、男性が約 67%、女性が約 33%を占めていた。診断時の年齢は、70 歳代が約 39%と最も多く、次いで 80 歳代が約 27%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では IV 期が約 32%、III 期が約 30%を占めた。約 7 割が観血的治療を受けており、約 60%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、その他・不明が最も多く約 64%であった。

表 3-16-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	3,584	100.0	1,749	100.0	5,333	100.0
拠点病院等	3,522	98.3	1,710	97.8	5,232	98.1
都道府県推薦病院	62	1.7	39	2.2	101	1.9
年齢						
平均年齢 (SD)	72.2	9.5	74.7	9.4	73.0	9.5
15-39 歳	10	0.3	(4-6)		14	0.3
40 歳代	44	1.2	16	0.9	60	1.1
50 歳代	282	7.9	91	5.2	373	7.0
60 歳代	985	27.5	357	20.4	1,342	25.2
70 歳代	1,392	38.8	693	39.6	2,085	39.1
80 歳以上	871	24.3	588	33.6	1,459	27.4
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	721	20.1	329	18.8	1,050	19.7
II 期	503	14.0	237	13.6	740	13.9
III 期	1,105	30.8	505	28.9	1,610	30.2
IV 期	1,096	30.6	592	33.8	1,688	31.7
不詳	147	4.1	81	4.6	228	4.3
空欄	12	0.3	(4-6)		17	0.3
観血的治療						
有	2,543	71.0	1,174	67.1	3,717	69.7
原発巣・治癒切除	2,213	61.7	994	56.8	3,207	60.1
原発巣・非治癒切除	210	5.9	120	6.9	330	6.2
原発巣・治癒/非治癒	120	3.3	60	3.4	180	3.4
の別不詳						
無	1,041	29.0	575	32.9	1,616	30.3
発見経緯						
がん検診	14	0.4	(7-9)		23	0.4
健康診断・人間ドック	121	3.4	36	2.1	157	2.9
他疾患経過観察中	1,210	33.8	548	31.3	1,758	33.0
その他・不明	2,239	62.5	1,156	66.1	3,395	63.7

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

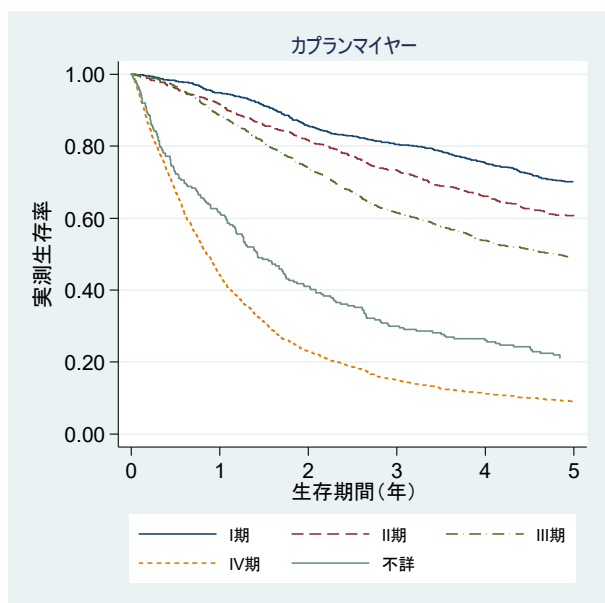
(3) 5年生存率

2010-2011年診断例の5年生存率を表3-16-2に示す。5年相対生存率は、全体で約49%、男性では女性と比較し、やや相対生存率が高いが、男性よりも女性で平均年齢が高いことに留意する必要がある。UICC TNM分類総合ステージ別に見ると、I期が約84%、II期が約73%、III期が約58%、IV期が約11%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約65%であり、原発巣・治癒切除例においては約70%であった。

表 3-16-2 属性別 5年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	41.8	51.0	49.0	52.9	39.7	45.2	42.6	47.8	41.1	49.0	47.4	50.6
拠点病院等	41.8	51.0	49.0	53.0	39.6	45.0	42.3	47.6	41.1	49.0	47.4	50.6
都道府県推薦病院	40.3	48.7	34.0	63.0	46.2	54.8	35.8	72.1	42.6	51.1	39.4	62.3
年齢												
15-39歳	-	-			-	-			-	-		
40歳代	70.0	70.9	54.6	82.4	-	-			69.8	70.5	57.0	80.6
50歳代	56.7	58.6	52.3	64.3	49.8	50.6	39.7	60.5	55.0	56.6	51.2	61.7
60歳代	50.8	54.6	51.2	57.9	53.2	54.9	49.4	60.1	51.5	54.7	51.8	57.5
70歳代	41.6	50.5	47.3	53.7	42.0	46.0	41.9	50.0	41.7	49.0	46.4	51.4
80歳以上	25.4	42.6	37.8	47.6	26.0	35.6	30.7	40.5	25.7	39.6	36.2	43.2
UICC TNM 分類総合ステージ*												
I期	70.2	86.2	81.8	90.1	70.1	79.2	73.2	84.4	70.1	83.9	80.4	87.1
II期	60.7	74.7	69.2	79.8	60.0	68.3	60.8	75.0	60.5	72.6	68.2	76.7
III期	49.4	59.5	55.9	63.1	48.7	55.2	50.2	60.1	49.2	58.2	55.2	61.0
IV期	8.6	10.2	8.3	12.3	9.9	11.2	8.7	14.2	9.1	10.6	9.0	12.3
不詳	25.4	34.9	25.7	44.9	13.2	17.5	9.1	28.7	21.1	28.6	21.8	36.2
観血的治療												
有	55.0	66.0	63.6	68.3	55.4	62.1	58.9	65.3	55.1	64.8	62.8	66.6
原発巣・治癒切除	58.6	70.3	67.8	72.8	60.5	67.8	64.3	71.1	59.2	69.5	67.5	71.5
原発巣・非治癒切除	24.3	30.2	23.2	37.7	21.4	24.4	16.5	33.2	23.3	28.0	22.7	33.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	41.2	48.1	37.7	58.2	39.3	43.6	29.8	57.0	40.6	46.6	38.2	54.7
無	9.1	12.3	10.0	14.8	7.4	9.3	6.8	12.3	8.5	11.2	9.4	13.1

*癌腫のみ対象



17. 特別集計：年齢・総合病期別の生存率と精度管理指標（自施設の治療実施の有無）

1) 年齢・総合病期別の生存率（胃、大腸、肝、肺非小細胞、女性乳房）

生存率は、対象者の年齢が大きく影響することから、今回特別集計として胃、大腸、肝、肺（非小細胞癌）、女性乳房について年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別の生存率の集計を行った。対象は、自施設初回治療開始例、悪性新生物＜腫瘍＞、診断時の年齢が0～99歳である。UICC TNM 分類総合病期 I～IV 期別に算出していることから、組織型は癌腫のみを対象に集計した。年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数では、癌腫以外は病期がその他に分類されている。

胃

2010～2011年診断例において、70～80歳未満が36.4%を占めていた。年齢階級によって、病期の分布には若干差があり、70歳代ではI期が66.2%、40～50歳未満では57.9%であった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I期では他死因を調整した相対生存率をみると、全ての年代で93%以上であった。II期以降では、70歳以上では相対生存率が他の年代よりやや低かった。

表 17-1-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数：胃

	I 期	II 期	III 期	IV 期	不明 (7-9)	その他	総数
0～40 歳未満	545	92	108	364		18	1,134
40～50 歳未満	1,659	249	222	649	11	77	2,867
50～60 歳未満	6,361	753	707	2,185	59	169	10,234
60～70 歳未満	17,425	1,912	1,807	5,515	167	325	27,151
70～80 歳未満	22,447	2,328	2,127	6,311	339	331	33,883
80 歳以上	10,918	1,381	1,296	3,385	640	143	17,763

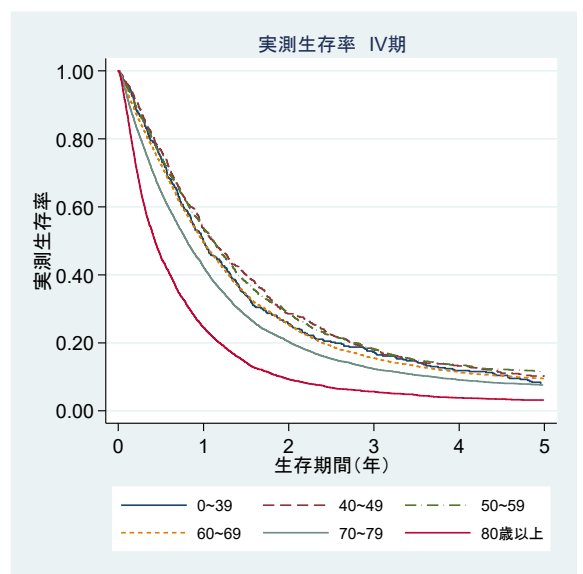
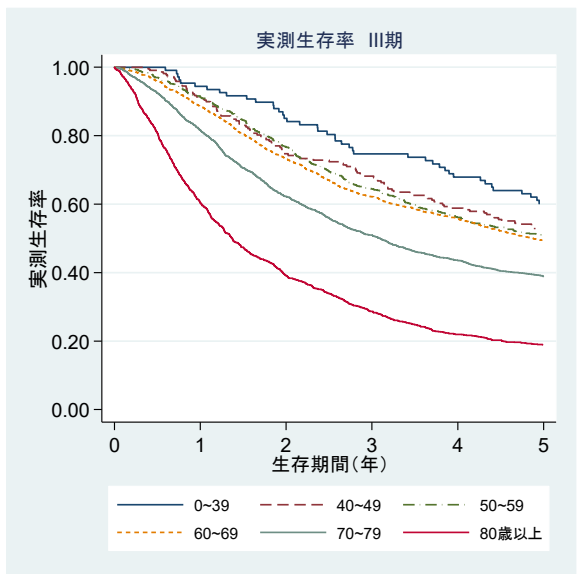
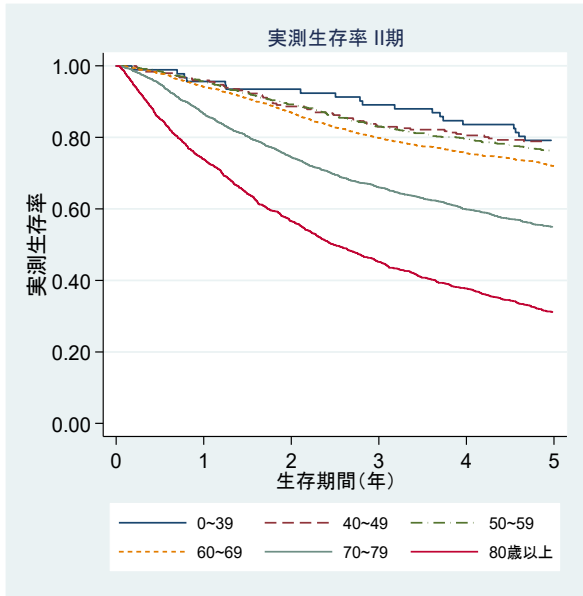
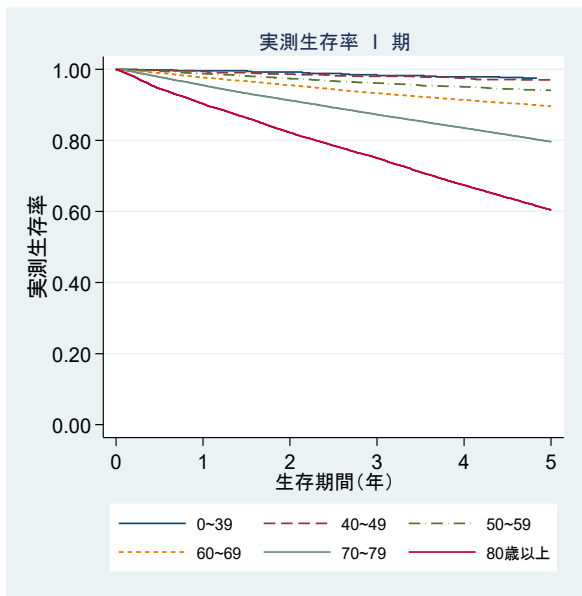
表 17-1-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率：胃

I 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40 歳未満	545	97.5	97.9	96.2	98.9
40～50 歳未満	1,659	97.1	98.0	97.1	98.7
50～60 歳未満	6,361	94.1	96.6	96.0	97.2
60～70 歳未満	17,425	89.7	95.3	94.8	95.8
70～80 歳未満	22,447	79.7	93.3	92.7	93.9
80 歳以上	10,918	60.4	94.4	92.9	95.8

II 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40 歳未満	92	79.2	79.5	69.5	86.5
40～50 歳未満	249	78.5	79.2	73.5	83.9
50～60 歳未満	753	76.2	78.2	74.9	81.2
60～70 歳未満	1,912	72.0	76.5	74.3	78.6
70～80 歳未満	2,328	55.0	64.4	62.0	66.8
80 歳以上	1,381	31.2	48.8	45.0	52.7

III 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40 歳未満	108	60.1	60.4	50.3	69.0
40～50 歳未満	222	52.7	53.2	46.2	59.7
50～60 歳未満	707	50.7	52.0	48.2	55.8
60～70 歳未満	1,807	49.4	52.4	49.9	54.9
70～80 歳未満	2,127	38.9	45.4	43.0	47.8
80 歳以上	1,296	19.0	29.3	26.1	32.7

IV期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	364	8.1	8.2	5.6	11.4
40～50歳未満	649	10.1	10.2	8.0	12.8
50～60歳未満	2,185	11.5	11.8	10.4	13.2
60～70歳未満	5,515	9.6	10.1	9.3	11.0
70～80歳未満	6,311	7.6	8.9	8.1	9.6
80歳以上	3,385	3.2	4.9	4.1	5.9



大腸

胃と同様、70歳代が最も多く32.4%を占めた。年齢階級別に総合ステージの分布をみると若干ではあるが80歳以上において、II期が32.1%とやや多い傾向があった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I期では全年齢階級において相対生存率が93%を超えていた。II期以降になると、70歳以上において相対生存率が他の年代よりもやや低い傾向にあった。

表 17-1-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数:大腸

	I期	II期	III期	IV期	不明	その他	総数
0～40歳未満	224	207	367	300	8	140	1,246
40～50歳未満	783	652	947	765	13	211	3,371
50～60歳未満	2,433	2,233	2,672	2,308	59	320	10,025
60～70歳未満	6,055	5,758	5,884	4,707	167	481	23,052
70～80歳未満	6,904	6,962	6,268	4,491	286	311	25,222
80歳以上	3,206	4,777	3,646	2,705	490	71	14,895

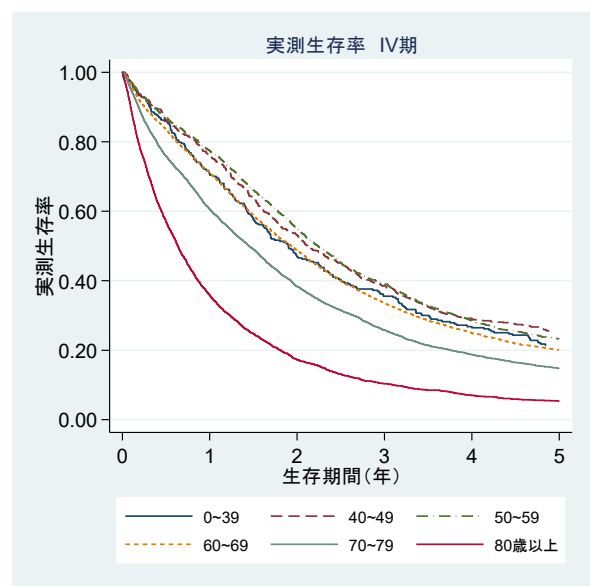
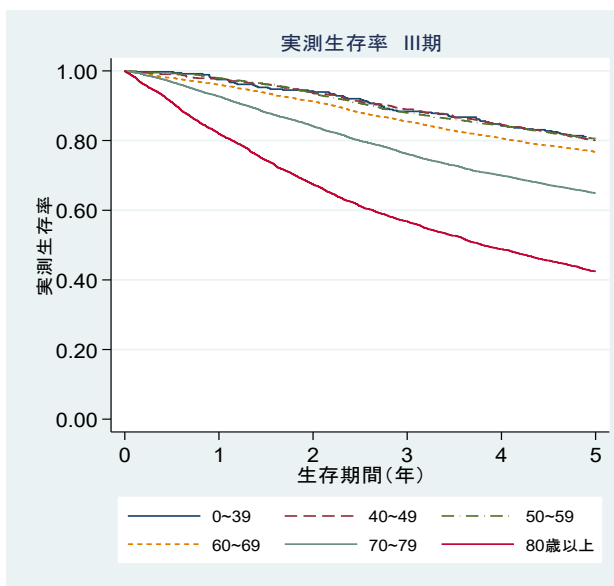
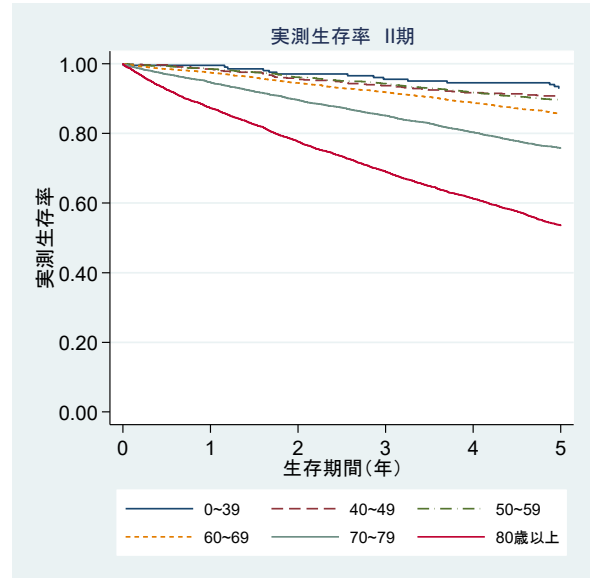
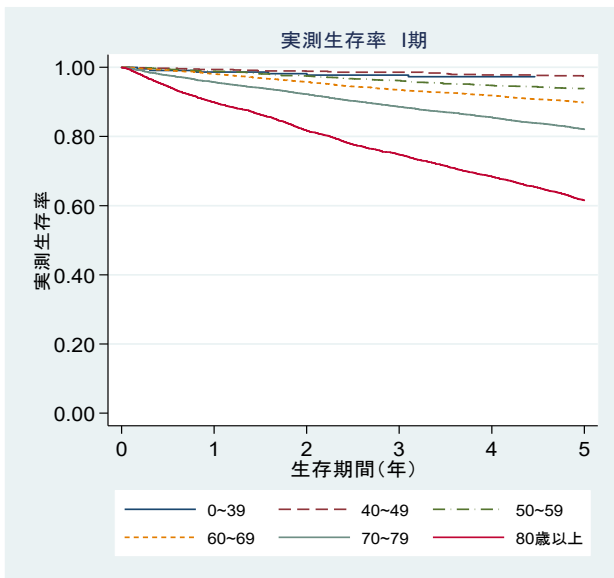
表 17-1-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率:大腸

I期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	224	97.3	97.7	94.4	99.2
40～50歳未満	783	97.4	98.3	96.9	99.2
50～60歳未満	2,433	93.8	96.1	95.0	97.0
60～70歳未満	6,055	89.8	95.1	94.2	95.8
70～80歳未満	6,904	82.1	95.0	94.0	96.1
80歳以上	3,206	61.5	93.7	91.0	96.2

II期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	207	93.0	93.3	88.8	96.2
40～50歳未満	652	90.6	91.4	88.9	93.5
50～60歳未満	2,233	89.7	91.9	90.5	93.1
60～70歳未満	5,758	85.7	90.6	89.6	91.5
70～80歳未満	6,962	75.8	87.7	86.5	88.9
80歳以上	4,777	53.6	84.4	82.1	86.6

III期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	367	81.1	81.4	77.0	85.1
40～50歳未満	947	80.0	80.7	78.0	83.2
50～60歳未満	2,672	80.6	82.5	80.9	84.0
60～70歳未満	5,884	76.7	81.0	79.8	82.1
70～80歳未満	6,268	64.9	74.8	73.4	76.1
80歳以上	3,646	42.5	65.1	62.6	67.6

IV期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	300	21.5	21.6	17.0	26.5
40～50歳未満	765	25.5	25.7	22.6	28.9
50～60歳未満	2,308	23.2	23.8	22.0	25.6
60～70歳未満	4,707	20.1	21.3	20.0	22.5
70～80歳未満	4,491	14.8	17.0	15.8	18.2
80歳以上	2,705	5.4	8.2	6.9	9.6



肝

肝では70歳代が最も多く40.5%を占めた。年齢階級別に総合ステージの分布をみると、70歳代、80歳以上でI期が約41%と他の年代よりも若干多く、IV期が7~8%と少なかった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I期では70歳未満で相対生存率が66%を超えているのに対し、70歳以上では60%未満であった。II期では、60歳未満では相対生存率が53%を超えていたが、60歳以上では50%未満であった。

表 17-2-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数:肝

	I 期	II 期	III 期	IV 期	不明	その他	総数
0~40 歳未満	64	41	70	50	(4-6)	51	280
40~50 歳未満	252	154	165	103	(7-9)	(4-6)	688
50~60 歳未満	1,154	878	668	326	46	14	3,086
60~70 歳未満	3,290	2,520	1,803	819	129	11	8,572
70~80 歳未満	4,994	3,612	2,404	867	186	20	12,083
80 歳以上	2,122	1,276	1,126	428	193	(1-3)	5,148

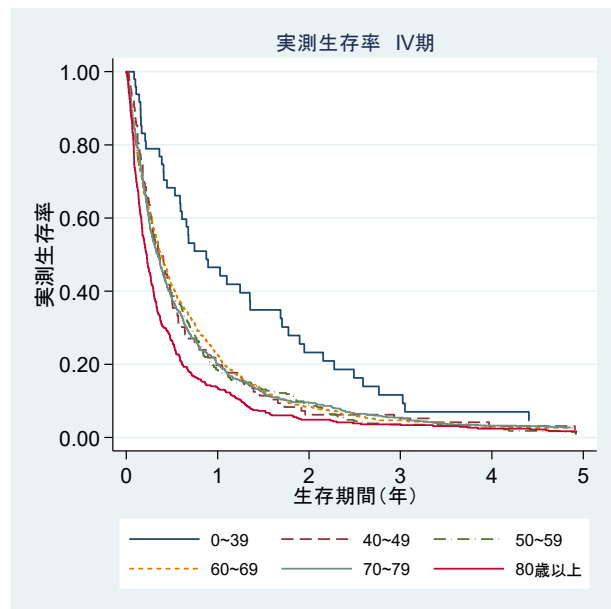
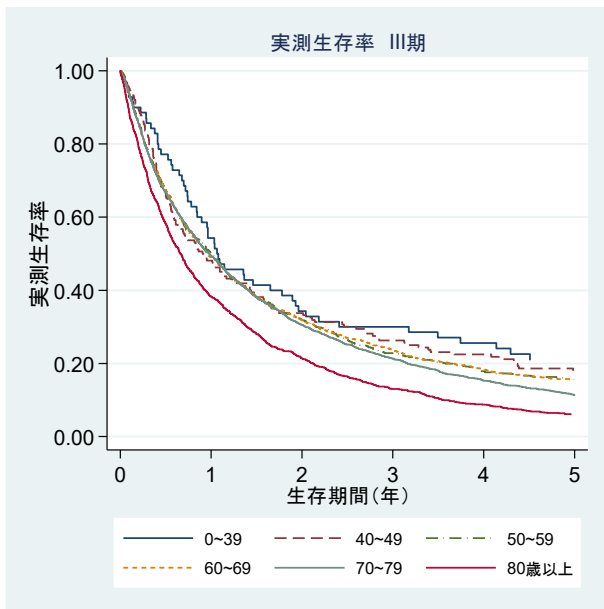
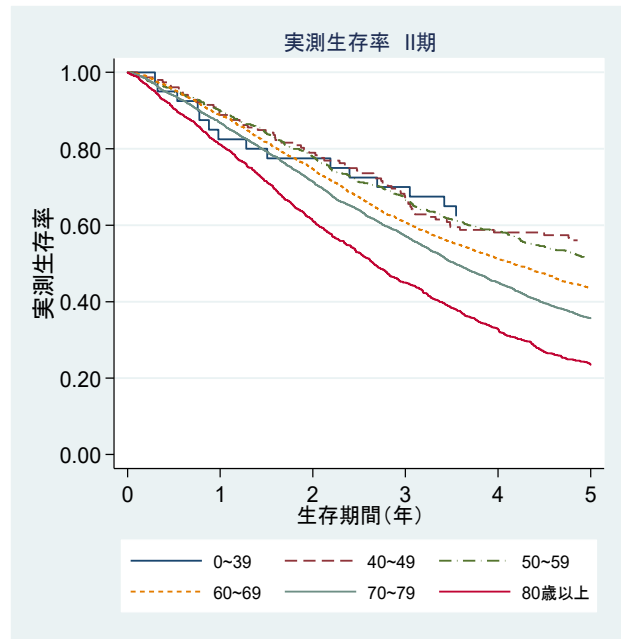
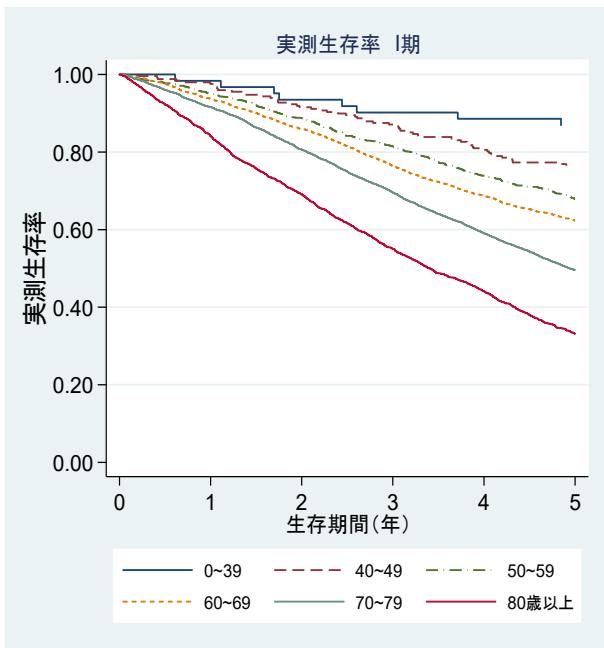
表 17-2-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率:肝

I 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	64	87.0	87.3	75.9	93.7
40~50 歳未満	252	76.5	77.3	71.5	82.2
50~60 歳未満	1,154	67.9	69.8	66.9	72.5
60~70 歳未満	3,290	62.3	66.2	64.4	67.9
70~80 歳未満	4,994	49.6	57.5	55.9	59.2
80 歳以上	2,122	33.2	49.9	46.8	53.0

II 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	41	62.7	62.9	46.1	75.9
40~50 歳未満	154	56.0	56.7	48.2	64.3
50~60 歳未満	878	51.6	53.1	49.6	56.4
60~70 歳未満	2,520	43.5	46.2	44.1	48.2
70~80 歳未満	3,612	35.7	41.6	39.8	43.5
80 歳以上	1,276	23.5	35.1	31.6	38.6

III 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	70	21.1	21.2	12.5	31.5
40~50 歳未満	165	18.0	18.2	12.7	24.6
50~60 歳未満	668	15.9	16.4	13.6	19.4
60~70 歳未満	1,803	15.5	16.6	14.8	18.4
70~80 歳未満	2,404	11.3	13.3	11.9	14.9
80 歳以上	1,126	6.1	9.5	7.4	11.9

IV 期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40 歳未満	50	4.7	4.8	0.9	14.1
40~50 歳未満	103	2.2	2.2	0.4	7.0
50~60 歳未満	326	0.7	0.8	0.2	2.5
60~70 歳未満	819	2.7	2.8	1.8	4.3
70~80 歳未満	867	2.7	3.1	2.0	4.6
80 歳以上	428	1.5	2.3	1.0	4.7



肺(非小細胞癌)

肺非小細胞癌では、70歳代が36.5%を占めた。年齢階級別に総合ステージの分布をみると、70歳代においてややI期(43.7%)が多かった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I、II期では、70歳以上において、若い世代よりも相対生存率が低くなる傾向にあった。III期では、60歳以上では相対生存率が30%を下まわった。

表 17-3-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数:肺非小細胞癌

	I期	II期	III期	IV期	不明	その他	総数
0~40歳未満	157	27	89	247	(1-3)	46	569
40~50歳未満	691	125	493	742	(7-9)	51	2,109
50~60歳未満	2,917	459	1,730	2,398	34	61	7,599
60~70歳未満	9,360	1,522	5,216	6,915	112	114	23,239
70~80歳未満	11,923	1,874	6,144	6,962	280	108	27,291
80歳以上	5,300	905	3,071	4,033	519	37	13,865

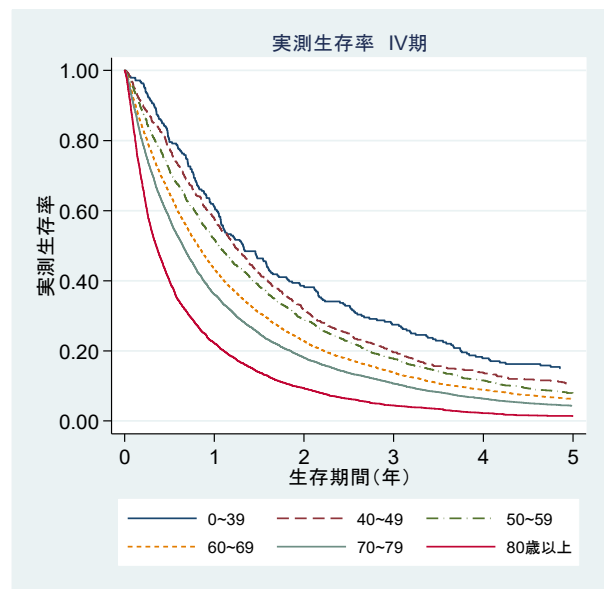
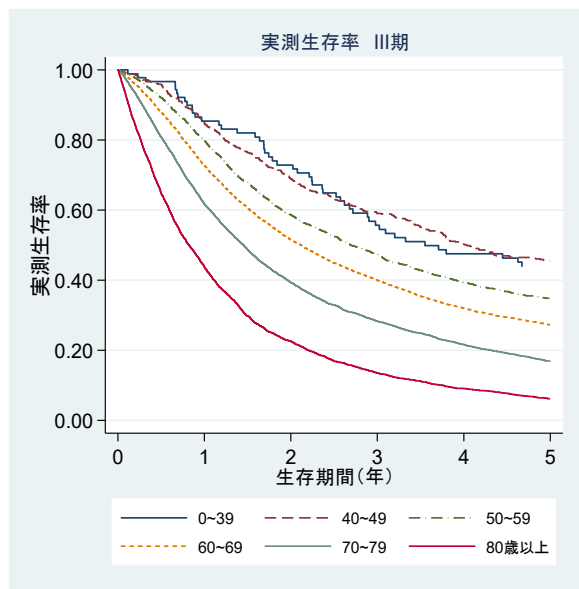
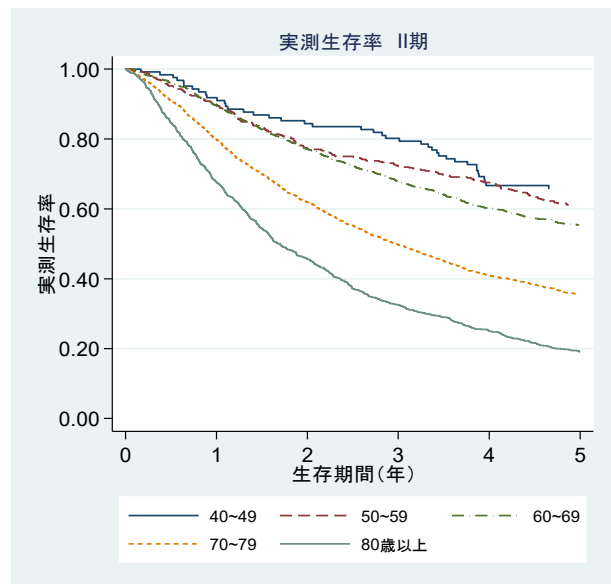
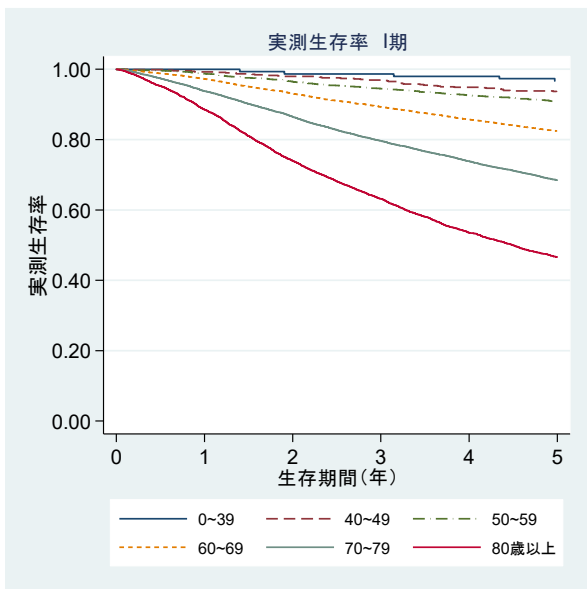
表 17-3-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率:肺非小細胞癌

I期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40歳未満	157	96.7	97.0	92.5	99.0
40~50歳未満	691	93.6	94.4	92.3	96.1
50~60歳未満	2,917	90.8	92.9	91.8	94.0
60~70歳未満	9,360	82.4	86.9	86.1	87.7
70~80歳未満	11,923	68.5	79.3	78.3	80.2
80歳以上	5,300	46.6	70.1	68.1	72.2

II期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40歳未満	27	-	-		
40~50歳未満	125	65.9	66.5	57.2	74.4
50~60歳未満	459	61.1	62.8	58.0	67.2
60~70歳未満	1,522	55.3	58.8	56.1	61.4
70~80歳未満	1,874	35.4	41.6	39.0	44.1
80歳以上	905	19.1	29.3	25.4	33.4

III期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40歳未満	89	44.1	44.3	33.6	54.4
40~50歳未満	493	45.5	46.0	41.4	50.4
50~60歳未満	1,730	34.8	35.7	33.4	38.0
60~70歳未満	5,216	27.3	28.9	27.6	30.2
70~80歳未満	6,144	17.0	19.8	18.7	20.9
80歳以上	3,071	6.2	9.5	8.2	10.9

IV期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0~40歳未満	247	15.0	15.1	10.9	19.9
40~50歳未満	742	10.2	10.3	8.2	12.7
50~60歳未満	2,398	7.9	8.1	7.0	9.3
60~70歳未満	6,915	6.3	6.6	6.0	7.3
70~80歳未満	6,962	4.4	5.0	4.5	5.6
80歳以上	4,033	1.4	2.1	1.6	2.8



女性乳房

女性乳房では、60歳代が最も多く26.4%を占めた。年齢階級別に総合ステージの分布をみると、60歳代、70歳代でI期が約45%と多い傾向にあった。年齢・総合ステージ別に生存率をみると、I期ではどの年代も相対生存率が99～100%、II期では94～97%であった。III期では、70歳以上では、相対生存率が80%未満であった。

表 17-4-1 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別登録数:女性乳房

	I期	II期	III期	IV期	不明	その他	総数
0～40歳未満	1,339	1,631	567	190	21	21	3,769
40～50歳未満	5,340	4,740	1,330	477	37	32	11,956
50～60歳未満	5,394	4,801	1,558	759	47	55	12,614
60～70歳未満	6,765	5,505	1,765	863	52	29	14,979
70～80歳未満	4,107	3,244	1,119	468	70	18	9,026
80歳以上	1,810	1,569	699	257	93	(4-6)	4,434

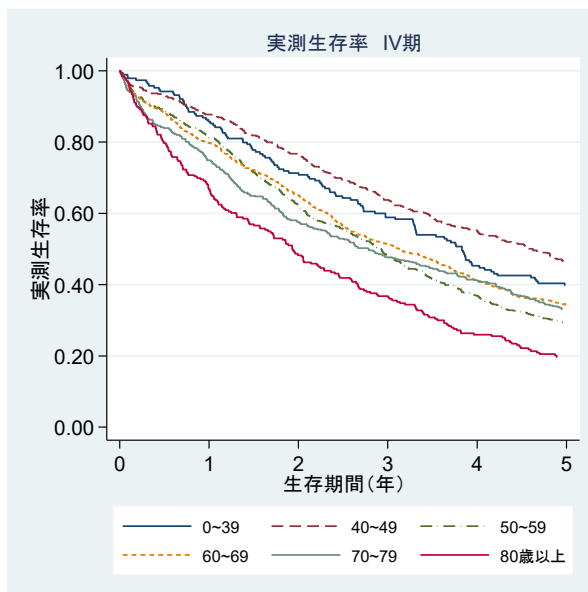
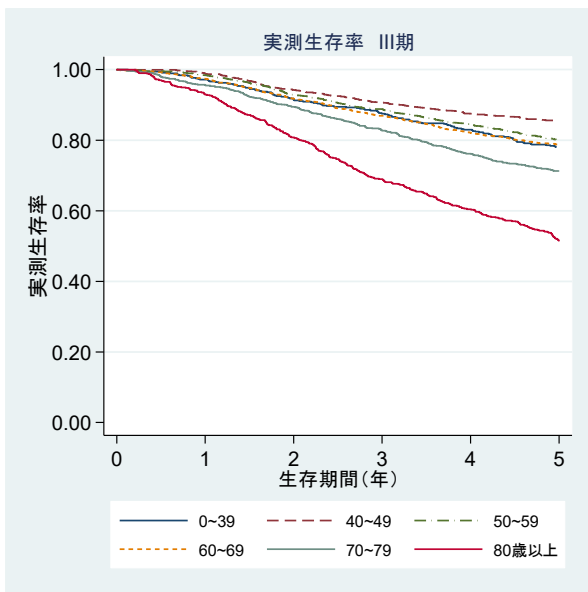
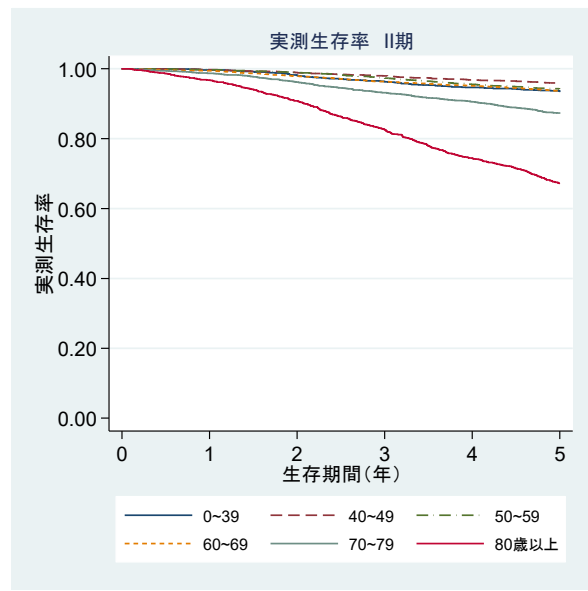
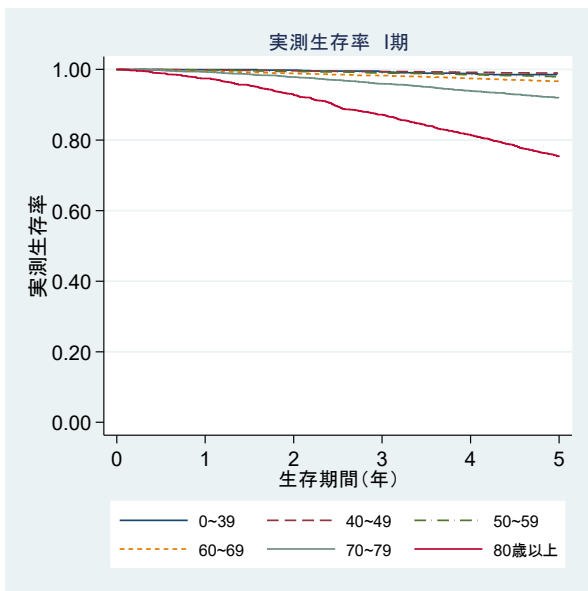
表 17-4-2 年齢・UICC TNM 分類総合ステージ別実測生存率と相対生存率:女性乳房

I期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	1,339	98.5	98.8	98.0	99.4
40～50歳未満	5,340	99.0	99.6	99.3	99.9
50～60歳未満	5,394	98.0	99.3	98.8	99.6
60～70歳未満	6,765	96.7	99.4	98.9	99.8
70～80歳未満	4,107	92.0	99.7	98.8	100.0
80歳以上	1,810	75.4	100.0	100.0	100.0

II期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	1,631	93.5	93.8	92.5	94.9
40～50歳未満	4,740	95.9	96.6	96.0	97.1
50～60歳未満	4,801	94.2	95.5	94.8	96.1
60～70歳未満	5,505	93.7	96.3	95.6	96.9
70～80歳未満	3,244	87.3	94.8	93.5	96.0
80歳以上	1,569	67.2	95.3	91.9	98.6

III期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	567	78.1	78.3	74.6	81.5
40～50歳未満	1,330	85.4	85.9	83.9	87.7
50～60歳未満	1,558	80.2	81.2	79.1	83.2
60～70歳未満	1,765	78.6	80.9	78.8	82.8
70～80歳未満	1,119	71.3	77.2	74.2	80.0
80歳以上	699	51.6	74.3	68.8	79.6

IV期	対象数	実測	相対	95%信頼区間	
0～40歳未満	190	39.7	39.9	32.8	46.8
40～50歳未満	477	46.0	46.3	41.7	50.8
50～60歳未満	759	29.3	29.7	26.5	33.1
60～70歳未満	863	34.2	35.2	31.9	38.5
70～80歳未満	468	33.0	35.8	31.2	40.5
80歳以上	257	19.7	28.3	21.6	35.7



2) 精度管理指標(自施設の治療実施の有無)

2006年版標準登録様式では、院内がん登録におけるがん治療とは、1) 原発巣・転移巣のがん組織に対して行われた治療と、2) がん組織に対するものではなくても、がんによる症状の緩和・軽減のために行われた特異的な治療の両者を指すと定義されている。ここでは、自施設において初回治療として行われた外科的治療、体腔鏡的治療、内視鏡的治療、放射線療法、化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法、TAE、PEIT、温熱療法、レーザー等治療、その他の治療に関して、自施設で施行された治療についてどの程度その頻度等を把握されているのかを検討することを目的に集計を行った。

集計対象は、本生存率集計対象とし全がんで集計を行った。

自施設での初回治療開始例における自施設での治療の有無別登録数をみると、不明と登録されている例は1%未満であり、ほぼ自施設での治療の頻度については把握されていると考えられる。しかし、個別に登録状況をみると、不明の割合が対象例の1%を超えている施設が3施設あった。

表 17 自施設での初回治療開始例における自施設での治療の有無別登録数

	有	(%)	無	(%)	不明	(%)	全体	(%)
自施設外科治療								
拠点病院	276,101	43.2	362,742	56.8	101	0.0	638,944	100.0
都道府県推薦病院	4,585	41.4	6,486	58.6	(4-6)		11,075	100.0
全体	280,686	43.2	369,228	56.8	105	0.0	650,019	100.0
自施設体腔鏡的治療								
拠点病院	71,795	11.2	567,052	88.7	97	0.0	638,944	100.0
県推薦	1,505	13.6	9,568	86.4	(1-3)		11,075	100.0
全体	73,300	11.3	576,620	88.7	99	0.0	650,019	100.0
自施設内視鏡的治療								
拠点病院	62,690	9.8	576,178	90.2	76	0.0	638,944	100.0
県推薦	966	8.7	10,104	91.2	(4-6)		11,075	100.0
全体	63,656	9.8	586,282	90.2	81	0.0	650,019	100.0
自施設放射線治療								
拠点病院	103,828	16.2	535,012	83.7	104	0.0	638,944	100.0
県推薦	1,463	13.2	9,609	86.8	(1-3)		11,075	100.0
全体	105,291	16.2	544,621	83.8	107	0.0	650,019	100.0
自施設化学療法								
拠点病院	233,799	36.6	405,064	63.4	81	0.0	638,944	100.0
県推薦	3,674	33.2	7,397	66.8	(4-6)		11,075	100.0
全体	237,473	36.5	412,461	63.5	85	0.0	650,019	100.0
自施設免疫療法・BRM								
拠点病院	4,323	0.7	634,568	99.3	53	0.0	638,944	100.0
県推薦	58	0.5	11,011	99.4	(4-6)		11,075	100.0
全体	4,381	0.7	645,579	99.3	59	0.0	650,019	100.0
自施設内分泌療法								
拠点病院	68,460	10.7	570,422	89.3	62	0.0	638,944	100.0
県推薦	1,262	11.4	9,811	88.6	(1-3)		11,075	100.0
全体	69,722	10.7	580,233	89.3	64	0.0	650,019	100.0
自施設 TAE								
拠点病院	11,119	1.7	627,815	98.3	10	0.0	638,944	100.0
県推薦	221	2.0	10,852	98.0	(1-3)		11,075	100.0
全体	11,340	1.7	638,667	98.3	12	0.0	650,019	100.0
自施設 PEIT								
拠点病院	1,025	0.2	637,903	99.8	16	0.0	638,944	100.0
県推薦	11	0.1	11,058	99.8	(4-6)		11,075	100.0
全体	1,036	0.2	648,961	99.8	22	0.0	650,019	100.0
自施設温熱療法								
拠点病院	537	0.1	638,395	99.9	12	0.0	638,944	100.0
県推薦	82	0.7	10,987	99.2	(4-6)		11,075	100.0
全体	619	0.1	649,382	99.9	18	0.0	650,019	100.0
自施設レーザー等治療								
拠点病院	7,802	1.2	631,071	98.8	71	0.0	638,944	100.0
県推薦	152	1.4	10,917	98.6	(4-6)		11,075	100.0
全体	7,954	1.2	641,988	98.8	77	0.0	650,019	100.0
自施設その他治療								
拠点病院	13,576	2.1	625,338	97.9	30	0.0	638,944	100.0
県推薦	333	3.0	10,730	96.9	12	0.1	11,075	100.0
全体	13,909	2.1	636,068	97.9	42	0.0	650,019	100.0

付表一覧

1.集計対象施設

- 1)集計対象施設

2.都道府県別 2010-2011 年 5 年生存率集計

- 0)都道府県別生存率についての各都道府県からの意見
- 1)全がんの生存率と集計対象属性:都道府県別
- 2)胃(C16)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 3)大腸(C18-20)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 4)肝(C22)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 5)肺(C33-34)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 6)女性乳房(C50)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 7)食道(C15)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 8)膵臓(C25)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 9)子宮頸部(C53)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 10)子宮体部(C54)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 11)前立腺(C61)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 12)膀胱(C67)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 13)喉頭(C32.0,32.1,32.2,10.1)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 14)胆嚢(C23.9)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 15)腎(C64.9)の生存率と集計対象属性:都道府県別
- 16)腎盂尿管(C65.9,66.9)の生存率と集計対象属性:都道府県別

3.施設別 2010-2011 年 5 年生存率集計

- 1)主要 5 部位施設別生存率